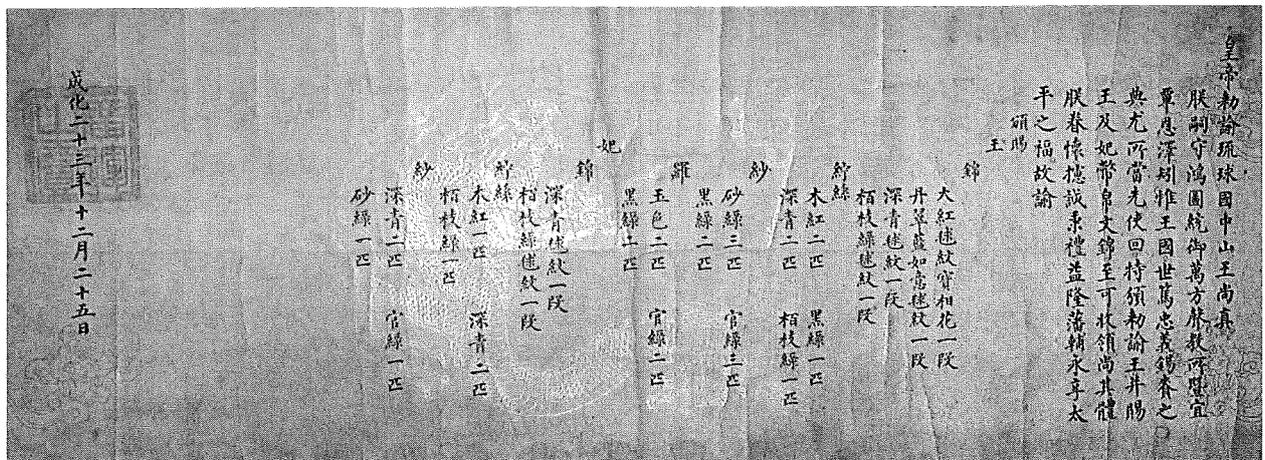


沖繩県立博物館年報

No.33



2000

沖繩県立博物館

表紙・平成11年6月7日付けで本県で6番目の国指定重要文化財に指定された
「明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛」

序

平素から博物館事業にご指導、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

世紀末の平成11年度（1999年）は、当館にとりまして有益な館史の一頁を得ることができたことを県民とともに慶びたいと思います。

8月3日から9月5日まで開催した特別展「三線のひろがり可能性展」は、多くの三線を愛好する県民にとって魅力的な展示会でした。沖縄県指定有形文化財に指定されている20丁の三線が一堂に会したからです。この試みは初めてのもので、所蔵者のご厚意に心から感謝を申し上げる次第です。この展示会の準備期間中に、沖縄の三線の中の三線といわれる「盛嶋開鐘」の胴内に貴重な銘文の発見がもたらされました。これまで三線の実年齢が全く不明で伝承の世界でしかなかったのが、制作年と制作者の銘書きから三線製作に有力な史実が浮かび上がることになったのです。また、関連催事として、郷土芸能を学ぶ若い世代の人々による「若人の芸能祭」や、三線の名器の調べを聞いたり、三線の系譜をたどるシンポジウムは、当館の講堂を満場の人で埋め尽くしてしまい、関心の高さを示してくれました。改めて、沖縄県民の三線に対する思いの深さを実感させられた特別展でした。

企画展では、恒例の「新収蔵品展」が8月18日から9月27日まで開催されました。この展示会は、平成10年度に受け入れた資料を県民に公開するものです。多くの皆様から貴重な資料のご寄贈をいただきました。心から感謝申し上げます。また、工芸関係の企画展が2回開催されました。1つ目は10月26日から11月7日まで開催した「日本の技—伝統のかたち」展です。この展示会は、本県で初めて開催される全国重要無形文化財保持団体協議会主催による秀作展の巡回展です。もう1つは、沖縄の工芸を世界に発信するために、工芸技術に係る本県の県指定無形文化財保持者とその伝承者の手わざの成果を披露した作品展です。保持者のわざの奥深さとその愛弟子たちの初々しい感性による技の伝承の世界を垣間見ることのできる展覧会でした。日本を代表する手わざと沖縄を代表する手わざの世界の対比は工芸ファンの目を楽しませることができたと確信しております。

24回目を重ねた移動博物館は、11月19日から21日まで3日間、上野村営博物館を会場に開催されました。また、自然観察会も合わせて催されました。延べ6,543人の多くの村民がこの移動展に足を運ばれ、大変好評を博しました。

当館恒例の博物館文化講座は291回から299回まで9回開催されました。いよいよ大台の300回目が目前となります。関連講座の「夏休み親子文化講座」は、「海の危険な生物」、「壺屋を見る・歩く」、「親子戦跡めぐり」を実施しました。子ども体験学習教室では、「豆とサトウキビづくり」、「イノリの生き物調べ」、「三線づくり」、「おじいちゃんとアンツクを作ろう」を実施し、延べ504人の子どもたちが参加しました。

博物館シアターは、中国映画やアニメシリーズに加え、定番の世界のなつかしの名作を合わせて5本の上映を行いました。博物館シアターも年々事業として定着し、多くの鑑賞者の注目を集めています。

また、調査研究事業では、当館職員の総力をあげて昨年度から3年計画で実施している西表島総合調査の2年目の調査を実施しました。沖縄島に次いで県内で二番目の面積を誇る西表島は亜熱帯の貴重な自然に加えて「節祭」など興味深い民俗や歴史があります。実り多い調査ができますように、全学芸員の力量が試されています。

21世紀へ向けた開かれた博物館づくりに当館は今後とも努力していく所存です。特別展や企画展はもとより、移動博物館や文化講座などの教育普及的事業を充実させていく所存です。より一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

平成12年7月10日

沖縄県立博物館

館長 平田 興進

目 次

序	館長平田與進
I 概要	
1 沿革	1
2 日誌(抄)	3
3 施設・設備	4
4 組織	6
5 沖縄県立博物館協議会	8
6 予算	9
II 入館者数	
1 入館者数	10
2 県内外児童生徒学生団体見学者	13
III 調査研究等の活動	
1 調査研究の概要	16
2 調査研究	18
3 講演等	19
4 著作論文等	22
5 職員研修	23
IV 展示活動	
1 展示活動の概要	25
2 常設展	25
3 特別展	29
4 企画展	35
5 移動博物館	42
V 教育普及活動	
1 教育普及活動の概要	47
2 博物館文化講座	47
3 夏休み親子文化講座	49
4 衛星通信を利用した子供放送局	50
5 博物館シアター	50
6 子ども体験学習教室	51
7 ボランティア活動	54
8 支援活動	55
VI 博物館実習	56
VII 資料の収集・保存管理	
1 収蔵資料現在高	58
2 1999(平成11)年度新収蔵資料高	58
3 1999(平成11)年度収蔵資料目録	59
4 所蔵の指定文化財	60
5 収蔵資料整理事業	61
6 資料貸出	62
7 燻蒸処理	63
VIII 刊行物	64
IX その他の活動	
1 沖縄県博物館協会	65
2 沖縄県立博物館友の会	65
X 関係法規抄録	68

I 概要

1 沿革

〔前史〕

昭和11年(1936)沖縄縣教育會附設として旧首里城北殿を利用して「郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し、石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。一方、有志により首里城周辺の廢墟の中から残欠文化財の収集が行われ、昭和21年3月頃首里の汀良に「首里市立郷土博物館」が設立された。

〔創設〕

昭和21年(1946)4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、「東恩納博物館」と改称して、新発足。これが当館の創立にあたる。

〔発展〕

昭和28年(1953)東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年(1955)には「琉球政府立博物館」に改称する。また、同41年(1966)には現敷地に新館を建設して移転する。同47年(1972)の日本復帰に伴い名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年(1973)、2階部を増築し展示スペースを拡充し、現在に至る。

〔あゆみ〕

- 昭和21年(1946)4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。
- 昭和22年(1947)12月、前年3月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管。「沖縄民政府立首里博物館」に改称される。
- 昭和28年(1953)3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。5月、首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館完成。米民政府によりペルリー来琉百周年記念事業の一環としてとペルリー記念館同博物館に附設して落成、贈呈される。
- 昭和30年(1955)9月「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称。
- 昭和40年(1965)大中町の旧尚家屋敷跡(中城御殿、現敷地)を購入。
- 昭和41年(1966)10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し、移転。11月に開館。
- 昭和47年(1972)2月、サントリー美術館との共催で、「50年前の沖縄」写真展を開催。5月、日本復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称。
- 昭和48年(1973)2月、国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設。
- 昭和51年(1976)4月、創立30周年記念式典を行う。
- 昭和55年(1980)1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。
- 2月、「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後毎年離島市町村で実施。
- 11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。
- 昭和56年(1981)3月30日付け、博物館法に基づき、沖縄県の「登録博物館」として登録。
- 10月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催。
- 昭和57年(1982)5月、新たに常設展として自然部門を設置。
- 10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化」開催。
- 昭和58年(1983)11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展—沖縄の美—風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催。
- 昭和60年(1985)11月、特別展「グスク—グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」開催
- 昭和61年(1986)2月、特別展「美術工芸の美を求めて—大嶺薫コレクション」開催。
- 昭和62年(1987)10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」 「沖縄近代の絵画—物故作家」開催。
- 12月、企画展「田名家収蔵品展—ある首里士族の400年」開催。
- 12月、企画展「現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション」開催。

- 昭和63年(1988) 8月、特別展「ヤンバルの自然」開催。
 11月、特別展「三線名器100挺展」開催。
- 平成元年(1989) 11月、特別展「インドネシア更紗展」開催。
- 平成2年(1990) 1月、特別展「大アンデス文明展」開催。
- 平成3年(1991) 10月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催。
- 平成4年(1992) 6月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。
 8月、特別展「沖縄の貝類展」開催。
 10月、特別展「琉球王国展」開催。
- 平成5年(1993) 1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催。
 8月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。
- 平成6年(1994) 7月、特別展「子どもの世界」開催。
- 平成7年(1995) 6月、戦後50周年記念特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。
- 平成8年(1996) 7月、特別展「大久米島展」開催。
 12月、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」開催。
 創立50周年式典を行う。
- 平成9年(1997) 4月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催。
- 平成10年(1998) 7月、企画展「琉球王国時代の植物標本展—ペリーが持ち帰った植物たち—」開催。
 11月、特別展「包むころ ふろしき展」開催。
- 平成11年(1999) 8月、特別展「三線のひろがり可能性展」開催。
 10月、企画展「日本の技—伝統のかたち」(第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」巡回展)開催。
- 平成12年(2000) 2月、企画展「工芸王国—きらめく手わざの世界を沖縄から」開催。

〔歴代館長〕

東恩納博物館・首里博物館

大嶺 薫(昭和21年4月～28年3月・東恩納博物館)

豊平 良顕(昭和22年12月～23年3月・首里博物館)

原田 貞吉(昭和23年8月～28年3月・)

沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉(昭和28年3月～30年5月)

琉球政府立博物館

山里 永吉(昭和30年5月～33年8月)

金城増太郎(昭和33年9月～36年12月)

大城 知善(昭和37年2月～44年11月)

沖縄県立博物館

外間 正幸(昭和44年12月～56年3月)

大城徳次郎(昭和56年4月～58年3月)

大城 立裕(昭和58年4月～61年3月)

大城 宗清(昭和61年4月～平成4年3月)

宜保榮治郎(平成4年4月～6年3月)

糸数 兼治(平成6年4月～8年3月)

當間 一郎(平成8年4月～11年3月)

大城 将保(平成11年4月～12年3月)

平田 興進(平成12年4月～)

2 日誌抄

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)

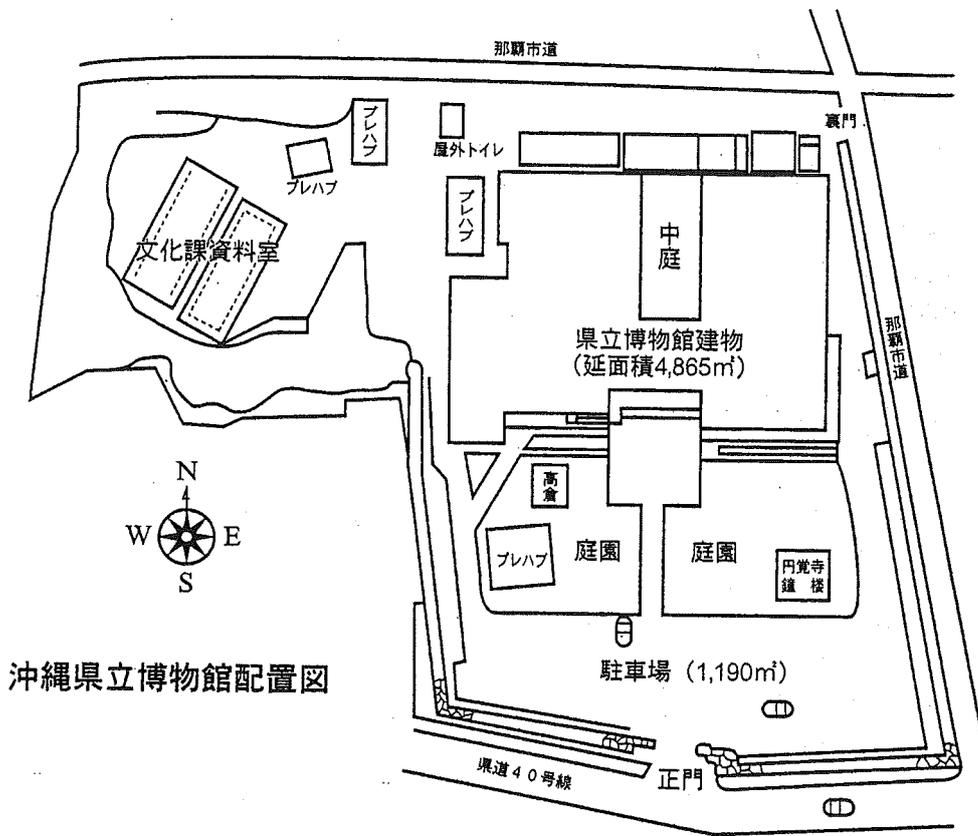
平成11年

- 4月21日 県会計監査（～22日）実施（祝嶺副参事、儀間主幹）
- 5月11日 委員監査実施（金城繁正県議 黒木美智参事）
 - 13日 国立科学博物館館長（岩田氏）他職員来館
 - 19日 兵庫県議会議員（古沢昭一、池本智氏）来館
 - 31日 閉館し、館内燻蒸を実施（～6月4日）
- 6月5日 国営沖縄記念公園事務所首里主張所所長大城良英氏他来館
- 7日 館所蔵の県指定有形文化財、「明孝宗勅諭琉球国中山王尚真宛」の名称で国指定重要文化財（歴史資料）に指定
- 22日 企画展「新収蔵品展」開会式典（～7月18日）
- 24日 沖縄県博物館協会の総会・春期研修会開催（石垣市、～25日）
県会計課による「かい」の会計事務指導
- 28日 財団法人宮崎文化振興協会副理事長佐々木正典氏、財団法人宮崎文化振興協会みやざき歴史文化館館長井上徳三郎氏来館
- 7月12日 博物館実習（～7月23日）
- 8月3日 特別展「三線のひろがり可能性」開会式典（～9月5日）
 - 30日 博物館学芸員実習（～9月10日）
- 9月10日 国会議員森山真弓氏来館
 - 21日 恩納村議会議員視察団来館
 - 22日 暴風雨のため臨時休館（台風18号）
 - 30日 沖縄県博物館協会の秋期研修会（石川市）
- 10月15日 中華人民共和国政府民用航空総局一行来館
 - 18日 博物館学芸員実習（～10月29日）
 - 19日 中国第一歴史档案館副館長来館
 - 26日 企画展「日本の技—伝統のかたち（第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展・日本の伝統美と技の世界）巡回展」
- 11月19日 移動博物館（上野村開催・～21）
 - 25日 平成11年度第1回沖縄県立博物館協議会
 - 29日 三重県議会議員一行来館
沖縄開発庁振興四課課長木倉氏来館
ホノルル美術館（Honolulu Academy of Arts）からジョージ・H・カー博士コレクション（考古資料6千点余）贈呈式（ホノルル市）

平成12年

- 1月19日 文化庁美術工芸課大塚秀明主任文化財調査官来館
 - 25日 消防訓練実施
 - 28日 平成12年度特別展「移民展」展示検討委員委嘱状交付
- 2月8日 企画展「工芸王国展—きらめく手わざの世界を沖縄から」開会式典（～27日）

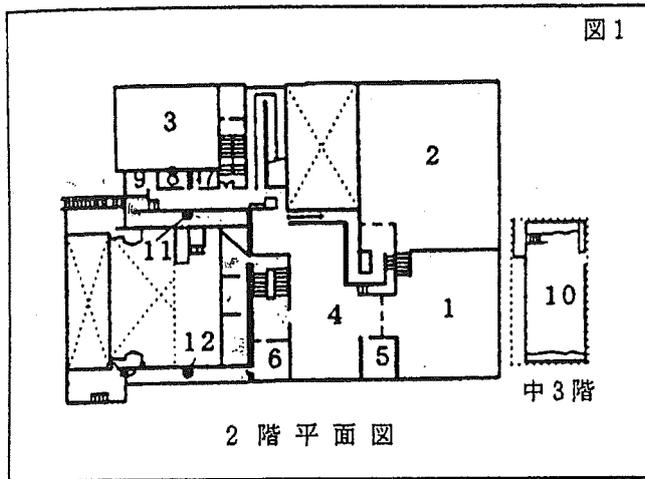
3 施設・設備



沖縄県立博物館配置図

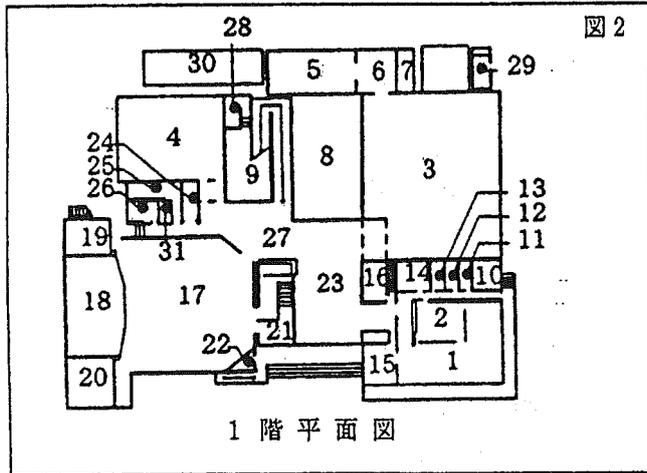
施設規模

●敷地面積……………11,267㎡	エアハンドリングユニット 6基
●建物延べ面積…………… 4,865㎡	パッケージ型エアコン
1階及び講堂部分…………… 2,893㎡	56,000Kcal/h×1基
2階部分…………… 1,571㎡	28,000Kcal/h×1基
地下部分…………… 401㎡	20,000Kcal/h×1基
●展示面積…………… 1,590㎡	8,400Kcal/h×1基
1階…………… 632㎡	7,100Kcal/h×2基
2階…………… 958㎡	5,000Kcal/h×2基
●ロビー面積…………… 256㎡	2,000Kcal/h×1基
●収蔵庫面積…………… 1,048㎡	1,200Kcal/h×1基
●駐車場面積…………… 1,190㎡	●受変電設置
●庭園面積…………… 1,612㎡	電灯 Tr 1φ3W 30KVA×1基
●講堂…………… 632㎡	電灯・動力 Tr 3φ4W 100KVA×1基
客席数215席	動力 Tr 3φ3W 250KVA×1基
●空調機能力	●契約電力 199KW
空冷冷専チリングユニット	
125,000Kcal/h×2基	



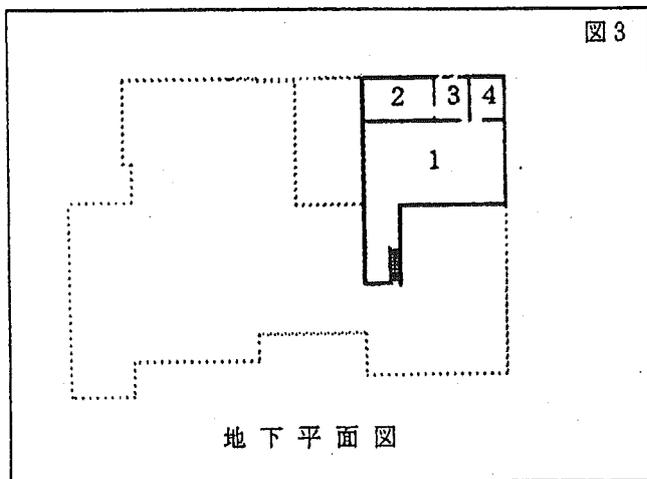
【2階】

番号	室名	面積
1	美術工芸展示室	265m ²
2	民俗展示室	436m ²
3	漆器収蔵庫	170m ²
4	企画展示室	257m ²
5	空調機械室	29m ²
6	コンピューター室	59m ²
7	化粧室(女)	6m ²
8	化粧室(男)	11m ²
9	空調機械室	12m ²
10	化石収蔵庫(中3階)	120m ²
11	貝類収蔵室	25m ²
12	陶器収蔵室	36m ²
13	その他	145m ²



【1階】

番号	室名	面積
1	事務室	115m ²
2	会議室	96m ²
3	考古・歴史展示室	462m ²
4	自然史展示室	170m ²
5	収蔵庫	120m ²
6	荷解場	32m ²
7	陶磁器収蔵庫	11m ²
8	中庭	152m ²
9	厨子甕収蔵庫	91m ²
10	休憩室	11m ²
11	湯沸室	8m ²
12	化粧室(女)	7m ²
13	化粧室(男)	9m ²
14	図書室	28m ²
15	館長室兼応接室	28m ²
16	案内コーナー	18m ²
17	講堂(客席)	428m ²
18	ステージ	116m ²
19	控室	19m ²
20	控室	32m ²
21	講堂出入口	37m ²
22	守衛室	14m ²
23	ロビー	256m ²
24	倉庫	14m ²
25	化粧室(女)	21m ²
26	化粧室(男)	11m ²
27	友の会売店	10m ²
28	空調機械室	11m ²
29	消火栓ポンプ室	5m ²
30	厨子甕収蔵室	75m ²
31	身障者用トイレ	6m ²

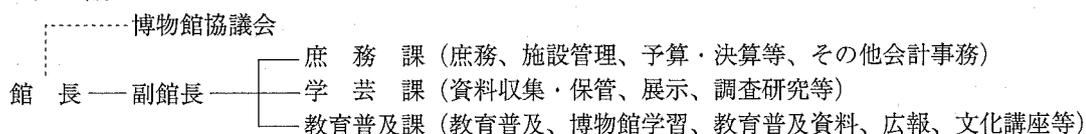


【地階】

番号	室名	面積
1	収蔵庫	285m ²
2	空調機械室	58m ²
3	荷解場	28m ²
4	受変電設備	30m ²

4 組織（平成12年4月1日現在）

(1) 組織



(2) 職員構成

職名	氏名	担当業務
館長	平田 興進	博物館業務の総理に関する事。
副館長	新垣 末子	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関する事。

庶務課

主幹兼課長	比嘉 敏子	庶務課の総括、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、沖縄県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関する事
主査	平安名 寿賀子	給与、歳入、会計事務（旅費・報償費・超勤手当）諸手当の認定、出勤簿整理、非常勤職員の任用申請、入館料免除に関する事、図書類・消耗品受け入れに関する事。
主事	木村 達	会計事務（旅費・報償費・超勤手当を除く）、決算事務文書等の收受、切手等の管理に関する事。
主任技師	真保 栄勝	施設設備の保守管理、全館燻蒸、車両の管理、防火管理補助、備品・その他庶務に関する事。

学芸課

主幹兼課長	大城 慧	学芸業務全般の総括、考古資料、学芸員会議、学芸員研修、博物館学芸員実習、沖博協に関する事。サミット記念特別展、次年度特別展
主任学芸員	與那嶺 一子	美術工芸資料（染織・書跡）、収蔵品台帳、博物館資料・写真資料貸出、レプリカ作成、博物館資料購入・修理に関する事。博物館年報の発行、サミット記念特別展。
主任（学芸員）	園原 謙	歴史資料、レプリカ作成、博物館資料購入・修理、博物館年報の発行に関する事。特別展「移民展」、サミット記念特別展。
指導主事	神谷 厚昭	自然史資料（地質・化石）、化石資料整理、沖博協の書記・会計に関する事。サミット記念特別展、次年度特別展。
指導主事（充）	与那城 義春	自然史資料（植物・動物）、総合調査、図書資料購入、教育普及書・博物館紀要の発行、新収蔵品展に関する事。
〃	嵩原 建二	自然史資料（植物・動物）、収蔵資料整理（管理システム）、企画展「染料植物展」剥製標本に関する事。サミット記念特別展。
〃	津波古 聡	美術工芸資料（絵画・漆器・陶器）、収蔵資料整理（写真等）、新収蔵品展に関する事。サミット記念特別展、資料購入。
〃	太田 健一	民俗資料、収蔵資料整理、サミット記念特別展、特別展「移民展」。

教育普及課

課長	前田 真之	教育普及業務の総括、友の会への指導に関すること。
指導主事(充)	瑞慶山 昇	美術工芸資料(彫刻)、移動博物館、博物館シアター、全館燻蒸、ポスター・チラシ等の作成、視聴覚器材(ソフト)の保全・管理。行事案内・リーフレットの作成。
指導主事	仲底 善章	子ども体験学習教室、博物館学習の助言・調整、団体見学(小・中学校)の対応、博物館展示リーフレットの作成、図書購入、子供からの手紙相談に関すること。
指導主事(充)	伊波 悦子	ボランティア活動事業(登録含む)、団体見学・質問等(高校・大学)の対応、美術工芸資料、教育普及に関する情報・提供(行事案内)、子ども放送局。
学芸員(臨任)	柏木 祐	文化講座、広報活動(マスコミ記者会見等)、夏休み親子文化講座、博物館だよりの発行、アンケート調査・回答、考古に関すること。

委託職員

教育普及補助員	上原 敏子 喜久川 智子	教育普及、展示解説、寄贈図書受入れに関すること。
監視員	東 美智子 金城 民子 新城 良子	受付補助及び展示場監視に関すること。
	小橋川 敏子 島袋 千恵子 比嘉 春子	展示場監視に関すること。
緑化整備員	金城 朝正	緑化整備に関すること。

沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計に関すること。
-------	--------	--------------------

(3) 人事異動

平成12年4月1日現在

職名	氏名	摘要
【転出】		
館長	大城 将保	定年退職(平12年3月31日付)
副館長	新垣 隆雄	教育庁総務課副参事兼課長補佐へ
主査	宮城 直子	定年退職(平12年3月31日付)
【転入】		
館長	平田 與進	教育庁参事から
副館長	新垣 末子	玉城少年自然の家所長から
主幹兼庶務課長	比嘉 敏子	教育庁財務課主査から(昇任)
主査	喜友名 一郎	庶務課長(休職)
主事	木村 達	八重山教育事務所主事から

5 沖縄県立博物館協議会

第1回 日時：平成11年11月25日(木) (10:00～12:30)

場所：県立博物館会議室

会議事項

- (1) 博物館新館について
- (2) その他

沖縄県立博物館協議会委員名簿（平成10年12月15日～平成12年12月14日）

	氏 名	所 属	職 名
学 識 経 験 者	翁 長 自 修	琉球大学 (美術工芸)	教 授
	新 城 和 治	元琉球大学 (自然史)	元 教 授
	金 城 正 篤	琉球大学 (歴 史)	教 授
	嵩 元 政 秀	沖縄考古学会 (考古学)	会 長
	上江州 均	名桜大学 (民 俗)	教 授
学 校 関 係 者	大 城 成 敏	沖縄県小学校長会	副 会 長
	比 嘉 伝 福	那覇市公立小中学校長会	副 会 長
社 会 教 育 関 係 者	仲 地 朝 明	沖縄県社会教育委員	議 長
	長 元 朝 顕	沖縄県PTA連合会	会 長
	小 禄 亮 子	沖縄県子ども育成連絡協議会	副 会 長

6 予 算

平成11年度博物館費歳出決算状況

(単位：円)

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博 物 館 費
報 酬	74,400	0	74,400
賃 金	0	2,670,320	2,670,320
報 償 費	0	1,292,500	1,292,500
旅 費	839,862	4,549,849	5,389,711
需 用 費	22,507,076	2,798,771	25,305,847
役 務 費	696,483	3,435,239	4,131,722
委 託 料	16,753,200	28,035,384	44,788,584
使用料及び賃借料	461,020	752,490	1,213,510
工 事 請 負 費	16,184,700	0	16,184,700
備 品 購 入 費	189,000	0	189,000
負担金補助及び交付金	75,000	500,000	575,000
公 課 費	18,900	0	18,900
合 計	57,799,641	44,034,553	101,834,194

平成11年度歳入決算状況

(単位：円)

	友 の 会 等	特 別 展 等	合 計
博 物 館 使 用 料	0	11,098,990	11,098,990
土 地 使 用 料	83,446		83,446
建 物 使 用 料	24,487		24,487
雑 入	86,051		86,051
合 計	193,984	11,098,990	11,292,974

II 入館者数

1 入館者数 (平成11年4月1日～平成12年3月31日)

入館者月別集計

年	個人入館者数						団体入館者数						合計						開館日数	一 平 均 入 館 者									
	大人		高 大 生		小 中 生		大人		高 大 生		小 中 生		大人		高 大 生		小 中 生												
	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)			有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)						
11 年	4月	2,074 (0)	123 (0)	232 (5)	2,429 (5)	538 (64)	29 (0)	253 (294)	820 (358)	2,612 (64)	152 (0)	485 (299)	3,249 (363)	25	144	2,148 (0)	204 (1)	213 (28)	2,565 (29)	175 (9)	106 (0)	174 (758)	455 (767)	2,323 (9)	310 (1)	387 (786)	3,020 (796)	25	153
	5月	1,801 (14)	338 (0)	147 (8)	2,286 (22)	249 (7)	1,279 (27)	166 (805)	1,694 (839)	2,050 (21)	1,617 (27)	313 (813)	3,980 (861)	21	231	2,601 (11)	308 (0)	417 (144)	3,326 (155)	146 (71)	758 (0)	98 (186)	1,002 (257)	2,747 (82)	1,066 (0)	515 (330)	4,328 (412)	26	182
	6月	4,687 (273)	787 (0)	1,382 (0)	6,856 (273)	394 (7)	54 (0)	166 (197)	614 (204)	5,081 (280)	841 (0)	1,548 (197)	7,470 (477)	26	306	2,692 (239)	686 (0)	1,05 (18)	3,483 (257)	535 (20)	702 (12)	2 (245)	1,239 (277)	3,227 (259)	1,388 (12)	107 (263)	4,722 (534)	23	229
	7月	2,467 (0)	436 (0)	62 (6)	2,965 (6)	514 (170)	3,638 (62)	694 (2,134)	4,846 (2,366)	2,981 (170)	4,074 (62)	756 (2,140)	7,811 (2,372)	26	392	2,883 (129)	351 (23)	136 (22)	3,370 (174)	532 (72)	2,225 (0)	383 (1,616)	3,140 (1,688)	3,415 (201)	2,576 (23)	519 (1,638)	6,510 (1,862)	24	349
	8月	1,828 (0)	206 (0)	75 (14)	2,109 (14)	254 (14)	1,261 (9)	43 (321)	1,558 (344)	2,082 (14)	1,467 (9)	118 (335)	3,667 (358)	22	183	2,155 (0)	237 (1)	199 (29)	2,591 (30)	370 (22)	490 (226)	62 (1,391)	922 (1,639)	2,525 (22)	727 (227)	261 (1,420)	3,513 (1,669)	22	236
	9月	3,664 (0)	383 (0)	167 (102)	4,214 (102)	170 (43)	331 (27)	96 (2,942)	597 (3,012)	3,834 (43)	714 (27)	263 (3,044)	4,811 (3,114)	24	330	1,828 (0)	206 (0)	75 (14)	2,109 (14)	254 (14)	1,261 (9)	43 (321)	1,558 (344)	2,082 (14)	1,467 (9)	118 (335)	3,667 (358)	22	183
	10月	2,155 (0)	237 (1)	199 (29)	2,591 (30)	370 (22)	490 (226)	62 (1,391)	922 (1,639)	2,525 (22)	727 (227)	261 (1,420)	3,513 (1,669)	22	236	3,520 (0)	740 (1)	416 (6)	4,676 (7)	423 (37)	1,477 (0)	203 (440)	2,103 (477)	3,943 (37)	2,217 (1)	619 (446)	6,779 (484)	26	279
	11月	32,520 (666)	4,799 (26)	3,551 (382)	40,870 (1,074)	4,300 (536)	12,350 (363)	2,340 (11,329)	18,990 (12,228)	36,820 (1,202)	17,149 (389)	5,891 (11,711)	59,860 (13,302)	290	252	2,883 (129)	351 (23)	136 (22)	3,370 (174)	532 (72)	2,225 (0)	383 (1,616)	3,140 (1,688)	3,415 (201)	2,576 (23)	519 (1,638)	6,510 (1,862)	24	349
	12月	1,828 (0)	206 (0)	75 (14)	2,109 (14)	254 (14)	1,261 (9)	43 (321)	1,558 (344)	2,082 (14)	1,467 (9)	118 (335)	3,667 (358)	22	183	1,828 (0)	206 (0)	75 (14)	2,109 (14)	254 (14)	1,261 (9)	43 (321)	1,558 (344)	2,082 (14)	1,467 (9)	118 (335)	3,667 (358)	22	183
	1月	2,155 (0)	237 (1)	199 (29)	2,591 (30)	370 (22)	490 (226)	62 (1,391)	922 (1,639)	2,525 (22)	727 (227)	261 (1,420)	3,513 (1,669)	22	236	3,664 (0)	383 (0)	167 (102)	4,214 (102)	170 (43)	331 (27)	96 (2,942)	597 (3,012)	3,834 (43)	714 (27)	263 (3,044)	4,811 (3,114)	24	330
	2月	3,664 (0)	383 (0)	167 (102)	4,214 (102)	170 (43)	331 (27)	96 (2,942)	597 (3,012)	3,834 (43)	714 (27)	263 (3,044)	4,811 (3,114)	24	330	3,520 (0)	740 (1)	416 (6)	4,676 (7)	423 (37)	1,477 (0)	203 (440)	2,103 (477)	3,943 (37)	2,217 (1)	619 (446)	6,779 (484)	26	279
	3月	3,520 (0)	740 (1)	416 (6)	4,676 (7)	423 (37)	1,477 (0)	203 (440)	2,103 (477)	3,943 (37)	2,217 (1)	619 (446)	6,779 (484)	26	279	32,520 (666)	4,799 (26)	3,551 (382)	40,870 (1,074)	4,300 (536)	12,350 (363)	2,340 (11,329)	18,990 (12,228)	36,820 (1,202)	17,149 (389)	5,891 (11,711)	59,860 (13,302)	290	252
合計	33,186	4,825	3,933	41,944	4,836	12,713	13,669	31,218	38,022	17,538	17,602	73,162	290	252	32,520 (666)	4,799 (26)	3,551 (382)	40,870 (1,074)	4,300 (536)	12,350 (363)	2,340 (11,329)	18,990 (12,228)	36,820 (1,202)	17,149 (389)	5,891 (11,711)	59,860 (13,302)	290	252	
総計	33,186	4,825	3,933	41,944	4,836	12,713	13,669	31,218	38,022	17,538	17,602	73,162	290	252	33,186	4,825	3,933	41,944	4,836	12,713	13,669	31,218	38,022	17,538	17,602	73,162	290	252	

入館者曜日別集計

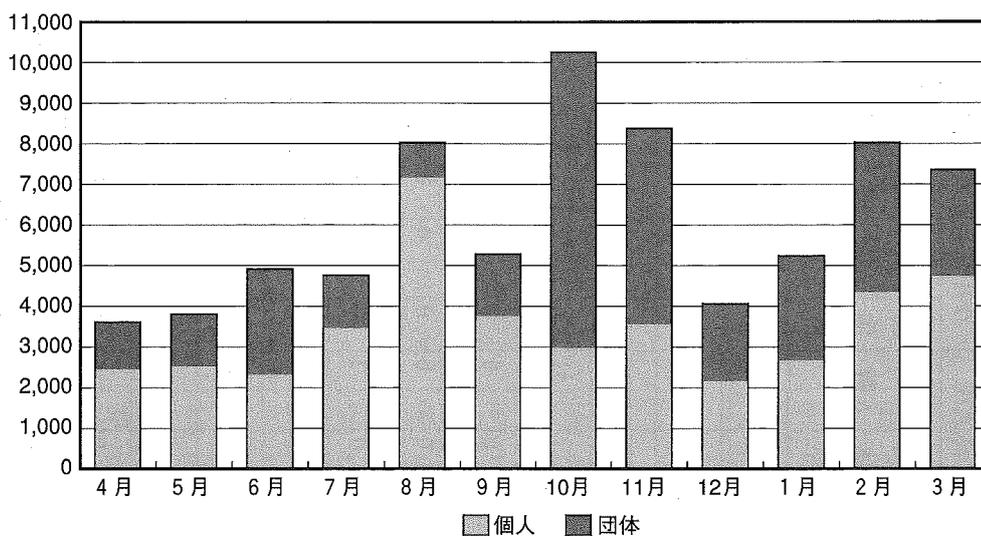
月	個人入館者数						団体入館者数						合計						開館日数	一 平 均 入 館 者									
	大人		高 大 生		小 中 生		大人		高 大 生		小 中 生		大人		高 大 生		小 中 生												
	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)			有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)
月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
火	3,735 (50)	649 (0)	362 (0)	4,746 (50)	424 (40)	2,024 (240)	643 (2,125)	3,091 (2,405)	4,159 (90)	2,673 (240)	1,005 (2,125)	7,837 (2,455)	44	234	4,607 (35)	716 (0)	523 (0)	5,846 (35)	782 (51)	1,812 (22)	159 (2,051)	2,753 (2,124)	5,389 (86)	2,528 (22)	682 (2,051)	8,599 (2,159)	47	229	
水	4,754 (68)	915 (0)	530 (0)	6,199 (68)	571 (204)	1,867 (9)	604 (2,227)	3,042 (2,440)	5,325 (272)	2,782 (9)	1,134 (2,227)	9,241 (2,508)	48	245	4,866 (200)	951 (23)	486 (118)	6,303 (341)	971 (211)	1,227 (92)	424 (3,694)	2,622 (3,997)	5,837 (411)	2,178 (115)	910 (3,812)	8,925 (4,338)	50	265	
金	6,954 (86)	792 (3)	564 (264)	8,310 (353)	739 (23)	2,203 (0)	301 (1,206)	3,243 (1,229)	7,693 (109)	2,995 (3)	865 (1,470)	11,553 (1,582)	51	258	7,604 (227)	776 (0)	1,086 (0)	9,466 (227)	813 (7)	3,217 (0)	209 (26)	4,239 (33)	8,417 (234)	3,993 (0)	1,295 (26)	13,705 (260)	50	279	
土	7,604 (227)	776 (0)	1,086 (0)	9,466 (227)	813 (7)	3,217 (0)	209 (26)	4,239 (33)	8,417 (234)	3,993 (0)	1,295 (26)	13,705 (260)	50	279	32,520 (666)	4,799 (26)	3,551 (382)	40,870 (1,074)	4,300 (536)	12,350 (363)	2,340 (11,329)	18,990 (12,228)	36,820 (1,202)	17,149 (389)	5,891 (11,711)	59,860 (13,302)	290	252	
日	32,520 (666)	4,799 (26)	3,551 (382)	40,870 (1,074)	4,300 (536)	12,350 (363)	2,340 (11,329)	18,990 (12,228)	36,820 (1,202)	17,149 (389)	5,891 (11,711)	59,860 (13,302)	290	252	32,520 (666)	4,799 (26)	3,551 (382)	40,870 (1,074)	4,300 (536)	12,350 (363)	2,340 (11,329)	18,990 (12,228)	36,820 (1,202)	17,149 (389)	5,891 (11,711)	59,860 (13,302)	290	252	
合計	32,520 (666)	4,799 (26)	3,551 (382)	40,870 (1,074)	4,300 (536)	12,350 (363)	2,340 (11,329)	18,990 (12,228)	36,820 (1,202)	17,149 (389)	5,891 (11,711)	59,860 (13,302)	290	252	32,520 (666)	4,799 (26)	3,551 (382)	40,870 (1,074)	4,300 (536)	12,350 (363)	2,340 (11,329)	18,990 (12,228)	36,820 (1,202)	17,149 (389)	5,891 (11,711)	59,860 (13,302)	290	252	

団体入館者数（有料）

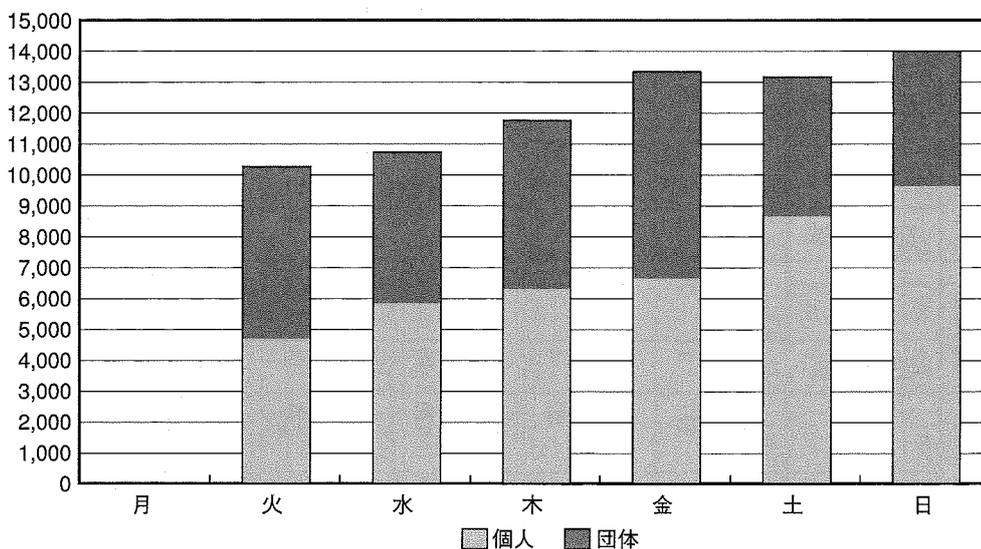
年 月	県 内						県 外						国 外						合 計							
	大 人		小 中 生		小 計		大 人		小 中 生		小 計		大 人		小 中 生		小 計		大 人		小 中 生		小 計			
	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数	団 体 数	人 数		
平成11年4月	3	215	0	0	1	117	4	332	9	294	0	29	2	136	11	459	1	29	0	0	0	0	1	29	16	820
5月	1	27	1	32	0	13	2	72	4	117	1	74	2	161	7	352	1	31	0	0	0	1	31	10	455	
6月	6	160	2	81	1	32	9	273	1	28	8	1,198	2	134	11	1,360	2	61	0	0	0	2	61	22	1,694	
7月	1	44	0	0	2	36	3	80	2	80	4	734	3	59	9	873	1	22	1	24	0	3	2	49	14	1,002
8月	0	25	1	20	6	147	7	192	2	327	1	34	0	19	3	380	1	42	0	0	0	1	42	11	614	
9月	2	85	1	30	0	0	3	115	7	420	10	702	0	2	17	1,124	0	0	0	0	0	0	0	0	20	1,239
10月	1	25	1	20	3	235	5	280	6	402	25	3,616	4	459	35	4,477	3	87	0	2	0	3	89	43	4,846	
11月	4	200	0	0	1	34	5	234	11	273	15	2,225	3	349	29	2,847	1	59	0	0	0	1	59	35	3,140	
12月	7	205	0	0	1	43	8	248	2	49	8	1,261	0	0	10	1,310	0	0	0	0	0	0	0	0	18	1,558
平成12年1月	0	0	0	0	0	0	0	0	5	370	3	490	1	62	9	922	0	0	0	0	0	0	0	0	9	922
2月	0	0	1	21	0	0	1	21	6	142	0	10	2	300	9	548	1	28	0	0	0	1	28	11	597	
3月	3	68	2	78	0	10	5	156	10	355	10	1,476	2	116	22	1,947	0	0	0	0	0	0	0	0	27	2,103
合 計	28	1,054	9	282	14	633	52	2,003	65	2,857	85	11,849	21	1,797	172	16,599	11	359	1	26	0	3	12	388	236	18,990

移動博物館入館者数（6,543人）

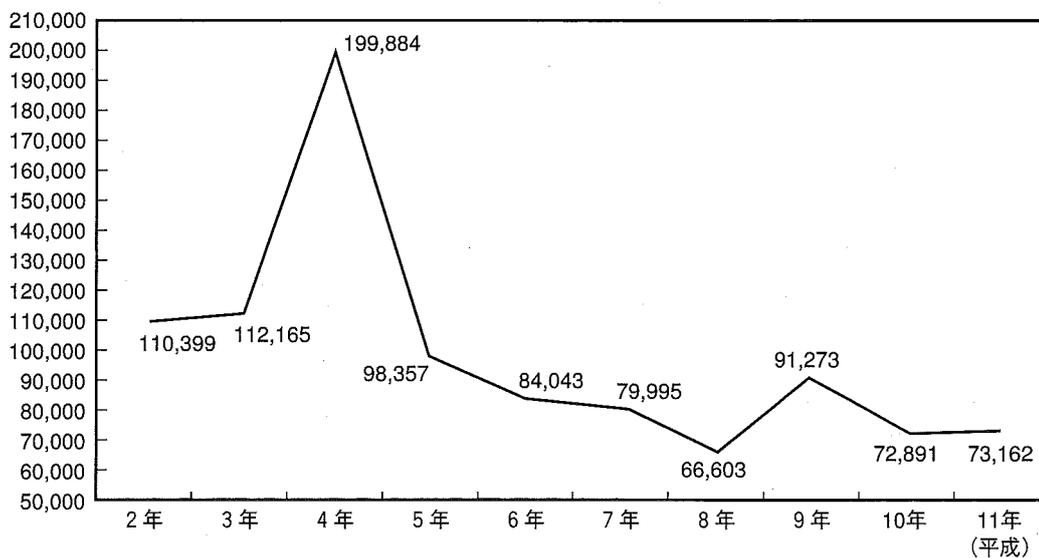
平成11年度月別入館者数



平成11年度曜日別入館者数



年間入館者数の年次推移 (過去10年間)



2 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 10,789名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	2	ベクトル小学校 152名	10	20	潮平小学校 128名	12	16	漢那小学校 22名
	28	光洋小学校 112名		20	伊豆味小学校 14名		17	港川小学校 147名
	28	南風原小学校 104名		21	長嶺小学校 84名	1	12	松川小学校 115名
5	1	松島小学校 160名		21	大浜小学校 72名		13	西原小学校 63名
	1	城西小学校 38名		21	屋我地小学校 21名		14	西原小学校 64名
	7	仲井真小学校 109名		22	山田小学校 31名		18	真和志小学校 108名
	12	城西小学校 38名		22	嘉芸小学校 27名		19	神原小学校 90名
	13	城西小学校 38名		22	上原小学校 12名		19	三育小学校 25名
	18	亀徳小学校 24名		22	あげな小学校 81名		20	上間小学校 140名
	20	鏡原小学校 27名		22	東江小学校 126名		20	高良小学校 160名
	27	西城小学校 27名		22	今帰仁小学校 55名		21	大道小学校 104名
	29	城南小学校 109名		22	上本部小学校 44名		21	識名小学校 146名
	29	北小学校 80名		22	瀬喜田小学校 16名		27	古蔵小学校 121名
6	4	砂川小学校 28名		22	天底小学校 40名		27	開南小学校 90名
	5	若狭小学校 102名		23	和光小学校 76名		28	伊良波小学校 100名
	10	平良第一小学校 98名		26	真壁小学校 47名		29	前島小学校 58名
	10	南小学校 101名		27	真喜屋小学校 23名	2	1	西原南小学校 41名
	11	福嶺小学校 12名		27	仲里小学校 33名		2	光洋小学校 102名
	11	池間小学校 11名		27	美原小学校 92名		3	金城小学校 212名
	11	美東小学校 158名		27	与那国小学校 16名		4	前田小学校 120名
	12	東小学校 117名		28	西小学校 50名		4	沢岷小学校 104名
	15	大原小学校 15名		28	波照間小学校 8名		5	宇栄原小学校 88名
	18	座間味小学校 15名		29	瀬底小学校 10名		5	西崎小学校 120名
	19	具志頭小学校 90名		29	中川小学校 10名		8	城東小学校 107名
	25	宜野座小学校 36名		29	城西小学校 37名		8	大名小学校 47名
7	1	大岳小学校 50名		31	和光小学校 75名		9	城西小学校 68名
	9	中城小学校 118名	11	2	新城小学校 27名		9	松島小学校 122名
	17	壺屋小学校 23名		2	美東小学校 152名		10	城西小学校 70名
	29	城岳小学校 20名		4	北玉小学校 80名		15	宮城小学校 125名
9	14	沖繩盲学校 14名		5	伊平屋小学校 34名		15	泊小学校 126名
	16	比屋定小学校 21名		5	有銘小学校 17名		16	天妃小学校 105名
	24	城西小学校 16名		5	湧川小学校 14名		16	当山小学校 130名
	28	城西小学校 150名		5	奥間小学校 30名		17	城岳小学校 116名
	30	城西小学校 44名		5	与那原小学校 101名		18	曙小学校 64名
10	1	伊波小学校 120名		5	伊江小学校 37名		19	壺屋小学校 34名
	1	城西小学校 13名		5	川崎小学校 76名		22	座安小学校 103名
	3	白保小学校 26名		10	沖繩カトリック小学 105名		22	北中城小学校 150名
	8	塩屋小学校 15名		12	山内小学校 108名		23	安謝小学校 77名
	8	兼次小学校 28名		16	久辺小学校 36名		24	城南小学校 101名
	8	大里南小学校 120名		16	城西小学校 9名		24	小禄小学校 94名
	8	羽地小学校 65名		17	佐敷小学校 66名		25	城北小学校 120名
	8	安富祖小学校 17名		18	喜如嘉小学校 11名		25	神森小学校 123名
	8	翔南小学校 96名		19	稲田小学校 37名		25	屋部小学校 64名
	8	大山小学校 168名		19	辺土名小学校 41名		29	西原東小学校 86名
	14	室川小学校 55名		20	阿波連小学校 6名	3	1	若狭小学校 95名
	15	与那原東小学校 112名		20	石嶺小学校 138名		2	垣花小学校 65名
	16	大宮小学校 168名		24	とよみ小学校 34名		7	知念小学校 64名
	19	島袋小学校 40名		25	金武小学校 94名		14	坂田小学校 71名
	19	具志頭小学校 84名		26	牧港小学校 125名		15	坂田小学校 71名
	19	久部良小学校 10名	12	9	三原小学校 6名			
	20	北大東小学校 15名		10	松田小学校 30名			

(中学校) 1,992名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	22	葛中学校 37名	10	5	武蔵ヶ丘中学校 189名	12	8	与勝第二中学校 84名
	25	喜界第一中学校 93名		12	東風平中学校 33名		9	沖繩クリスチャンスクール 25名
	27	東風平中学校 30名		15	小国中学校 119名	1	27	今津中学校 62名
	28	瀬底中学校 48名		15	レスタースクール 22名	2	9	菊水中中学校 96名
5	13	坂瀬川中学校 20名		21	カデナスクール 45名	3	14	荏田中学校 35名
	13	未野岳中学校 117名	11	9	井芹中学校 193名		14	中仙中学校 69名
	21	昭和薬科大学附属中学校 132名		9	九州女学院中学校 26名		18	仲西中学校 35名
6	11	鹿北中学校 76名		9	山内中学校 231名			
	24	袋中学校 58名		25	矢部中学校 117名			

(高等学校) 12,206名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
5	11	川崎総合科学高等学校 74名	10	20	清心女子高等学校 124名	11	28	専修大学北上高等学校 191名
6	8	金沢伏見高等学校 201名		21	共愛学園高等学校 279名		28	長野県犀峽高等学校 48名
	18	陽明高等学校 27名		22	岡谷南高等学校 117名	12	2	遠野高等学校情報ビジネス校 79名
	25	九州産業高等学校 137名		22	宇都宮商業高等学校 23名		8	那珂湊第一高等学校 235名
	25	桶川高等学校 318名		24	大阪府立池田高等学校 39名		8	岩泉小川高等学校 20名
	25	群馬県立前橋工業高等学校 20名		26	明治大学附属中野高等学校 188名		8	東京都立深川高等学校 273名
	26	九州産業高等学校 153名		26	県立首里高等学校 40名		9	沖繩女子短大付属高等学校 9名
	27	九州産業高等学校 101名		26	陽明高等学校 22名		9	静岡県立島田商業高等学校 160名
	29	九州産業高等学校 126名		27	陽明高等学校 22名	10	10	静岡県立島田商業高等学校 160名
	30	九州産業高等学校 142名		28	鹿児島県立朝姫高等学校 187名	11	11	精華高等学校 319名
7	1	九州産業高等学校 134名		29	神奈川県立平塚江南高等学校 39名	12	12	東豊中高等学校 155名
	3	岐阜県立中津高等学校 236名		30	草加東高等学校 306名		19	神奈川総合高等学校 20名
	4	埼玉県立大宮西高等学校 331名		30	大妻嵐山高等学校 242名	1	18	都立世田谷工業高等学校 126名
9	14	福島県立川口高等学校 44名		31	埼玉県立草加西高等学校 97名		18	南部農林高等学校 200名
	19	埼玉県立三郷工業技術高等学 220名		31	明治大学附属中野高等学校 238名		19	秋留台高等学校 141名
	26	芝高等学校 271名	11	31	神奈川県立麻生高等学校 229名		19	神奈川県立菅高等学校 223名
	30	金沢泉丘高等学校 42名		2	淑徳巣鴨高等学校 250名		28	那覇高等学校 26名
10	3	橘女子高等学校 43名		4	淑徳巣鴨高等学校 325名	2	16	埼玉県立大宮工業高等学校 300名
	8	福島県立田村高等学校 342名		6	埼玉県立蓮田高等学校 172名		25	具志川高等学校 27名
	13	神奈川県立向の丘工業高等学 20名		7	東村山西高等学校 209名	3	7	保善高等学校 147名
	16	ノートルダム清心高等学校 180名		7	滋賀県立伊香高等学校 111名		8	保善高等学校 120名
	16	静岡県立小山高等学校 78名		9	東京都立調布北高等学校 248名		8	都立小石川高等学校 322名
	16	埼玉県立朝霞西高等学校 380名		9	滋賀県立伊香高等学校 111名		9	福島県立安積高等学校 39名
	17	香川県立高瀬高等学校 276名		10	六甲アイランド高等学校 52名	12	12	同志社国際高等学校 30名
	17	東京都立多摩高等学校 160名		14	香川県立三豊工業高等学校 156名	12	12	駒沢大学高等学校 217名
	19	清心女子高等学校 29名		18	日本大学明誠高等学校 291名		14	三河高等学校 503名
				25	三郷高等学校 29名		19	高松第一高等学校 67名

(大学・専門学校) 432名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
5	28	琉球大学法文学部 31名	8	7	津田塾大学 20名	9	28	東京芸術大学 25名
6	26	県立看護大学 57名		21	有明高等専修学校 34名	10	15	沖繩国際大学 20名
	30	沖繩中央学園 20名	9	2	獨協大学齊藤ゼミ 25名	11	3	法政大学通信教育部 34名
7	13	台湾東海大学 21名		4	京都精華大学 22名	2	5	沖繩メリーランド大学 21名
	25	九州造形短大 25名		10	琉球大学理学部 12名			
8	6	名桜大学 20名		19	玉川大学 45名			

(特殊学校・その他) 439名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
6	22	サウンド幼児学園 65名	10	20	わかめ保育園 27名	2	18	あおぞら保育園 22名
7	13	与那覇保育園 34名	11	19	勢理客保育園 33名		23	仲西幼稚園 85名
	16	慈愛幼稚園 23名	12	2	報恩幼稚園 32名	3	2	仲井真保育園 19名
	16	浜川幼児教育園 16名	1	28	こぼと保育園 7名		10	那覇市当蔵保育所 20名
	23	クリスチャン教育センター幼稚園 40名	2	18	パンダ保育園 16名			



沖縄女子短大の学生に解説する展示解説ボランティアの譜久山さん



民俗展示室で解説する展示解説ボランティアの大嵩さん

Ⅲ 調査研究等の活動

1 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集、資料の整理保管、資料の展示、教育普及活動という5つの大きな柱によって構成されている。これらの各機能は互いに相関性をもって存在するものである。

当館における従来の調査研究には、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を定めて調査研究に取り組む共同研究と、学芸員各自が専門分野について調査研究を目的とする個別研究がある。

共同研究は、各離島における総合調査を実施しており、自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築の各専門分野にわたっている。これまでに久米島総合調査（平成5年度・6年度に実施）を皮切りに、波照間島総合調査（平成8年度・9年度）を実施し報告書を刊行している。平成10年度からは西表島総合調査を3ヶ年計画で（平成10年度・11年度・12年度）実施している。

個別研究については、各学芸員が専門分野別に研究を進めているもので、平成11年度も多様な研究が行われた。研究成果については、平成11年度に刊行した『沖縄県立博物館紀要』第26号に研究論文・調査報告という形で掲載している。

また、『紀要』への掲載の他に専門的な学会誌や研究機関誌への発表も行っている。

以下、各学芸員が平成11年度に行った調査・研究活動の状況を調査研究、講演等、著作論文等別に報告する。

西表島総合調査（担当：与那城 義春）

当博物館の主要事業である総合調査は平成10年度から西表島を対象に実施している。

この総合調査の趣旨や西表島選定の理由、年度毎の調査活動内容等を年報No.32（平成11年）で紹介した。

現地調査は、常に自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の5分野であり、調査員は当館の館長及び学芸員等のほか、委嘱調査員（館外の専門家）で構成されている。通常、調査員は年度内に2泊3日の調査日程を確保するために各自の業務を調整し、現地で調査研究を実施している。

平成10年度と平成11年度に西表島総合調査の各調査員が実施した調査期日を示すと、表1、表2のとおりである。

表1. 平成10年度 西表島総合調査の実施日程

調査期日	調査員	分野
平成10年8月18日～20日	與那嶺 一子（県立博物館主任学芸員）	美術工芸
平成10年9月8日～10日	大城 慧（県立博物館学芸課長）	考古
〃	宮平 真由美（県立博物館臨任職員）	考古
平成10年9月9日～10日	神谷 厚昭（県立博物館指導主事）	自然
〃	伊波 悦子（県立博物館指導主事）	美術工芸
〃	前田 真之（県立博物館教育普及課長）	歴史
〃	萩尾 俊章（学芸員）	歴史
〃	太田 健一（指導主事）	民俗
平成10年10月19日～21日	當間 一郎（館長）	民俗
平成10年11月24日～26日	神谷 厚昭（指導主事）	自然
〃	与那城 義春（指導主事）	自然
〃	仲底 善章（指導主事）	民俗

調査期日	調査員	分野
平成11年2月8日～10日	髙原建二(指導主事)	自然
平成11年3月1日～3日	前田真之(教育普及課長)	歴史
〃	瑞慶山昇(指導主事)	美術工芸
平成11年3月2日～4日	大城慧(学芸課長)	考古
〃	仲底善章(指導主事)	民俗

表2. 平成11年度 西表島総合調査の実施日程

調査期日	調査員	分野
平成11年6月24日～26日	大城慧(学芸課長)	考古
平成11年10月11日～13日	伊波悦子(指導主事)	美術工芸
平成11年10月14日～16日	當間一郎(前館長・沖縄芸能研究家)	民俗
平成11年11月30日～12月2日	髙原建二(指導主事)	自然
平成12年1月18日～20日	園原謙(主任(学芸員))	歴史
平成12年2月15日～17日	前田真之(教育普及課長)	歴史
〃	瑞慶山昇(指導主事)	美術工芸
平成12年3月1日～3日	大城将保(館長)	歴史
〃	与那嶺義春(指導主事)	自然
平成12年3月6日～8日	與那嶺一子(主任学芸員)	美術工芸
〃	多良間利絵子(臨任職員)	民俗
平成12年3月15日～17日	神谷厚昭(指導主事)	自然
〃	仲底善章(指導主事)	民俗

表1. 表2より、多数の調査員が各分野の資料収集や特別展開催等を目指して年度毎の調査研究活動に可能な限り頑張っている状況を理解されるでしょう。

今回の本事業は西表島の自然、文化、社会に関する調査研究を実施し、その成果に基づいて総合調査報告書を刊行(平成12年度末)すると共に、西表島の実態を数多くの県民に正しく理解させるために当館の展示室で分野毎の収集資料を活用します。さらに島々で、自然、文化、社会に対して理解を深めるほか、各地域で保護管理や継承・発展等の促進を図ります。

2 調査研究

大 城 慧 (学芸課長)

- 西表島総合調査
期 日：99年6月24日～26日
内 容：遺跡分布に関する調査
- 港川フィッシャー遺跡の調査
期 日：99年9月1日
依頼機関：具志頭村教育委員会

與那嶺 一 子 (主任学芸員)

- 尚家文化財調査
期 間：99年12月1日～3日
調 査 地：東京都
依頼機関：那覇市
- 文化財を支える用具・原材料の確保に関する調査
期 間：99年12月8日～27日
調 査 地：玉城村・名護市
依頼機関：文化庁伝統文化課
- 西表島総合調査
期 間：00年3月6日～8日
調 査 地：竹富町(西表島)
内 容：織物に関する聞き取り調査

園 原 謙 (主任(学芸員))

- 旧円覚寺美術工芸関係資料調査
期 間：99年11月9日～11日
調 査 地：富山県高岡市
依頼機関：沖縄県教育委員会
- 特別展「移民展」に関する調査
期 間：99年11月29日～12月6日
場 所：ホノルル・ヒロ(ハワイ)
- 文化財を支える用具・原材料の確保に関する調査
期 間：99年12月20日～22日・24日
調 査 地：大阪府・東京都・県内
依頼機関：文化庁伝統文化課
- 西表島総合調査
期 日：00年1月18日～20日
調 査 地：西表島
内 容：民宿等に係る聞き取り調査
- 久米島紬記録映画製作
期 日：00年2月14日～17日
場 所：東京都
依頼期間：仲里村教育委員会
- 特別展「移民展」に関する調査
期 間：3月2日・3日、8日～10日

場 所：県内(金武町・名護市・宜野座村)、東京(外務省外交資料館)、広島(広島市役所)、山口(日本ハワイ移民資料館・大島町)

与那城 義 春 (充指導主事)

- 沖縄総合事務局北部ダム事務所「ノグチゲラ専門部会」委員
期 間：99年8月5日～00年3月31日
依頼機関：沖縄建設弘済会
- 「西原の自然」専門部会(鳥類調査)委員
期 間：99年8月26日～00年3月31日
依頼機関：西原町教育委員会
- 「斎場御嶽生物(鳥類)調査」委員
期 間：99年12月1日～00年3月31日
依頼機関：知念村教育委員会

神 谷 厚 昭 (指導主事)

- 平成11年度沖縄県地質鉱物緊急実態調査(宮古・八重山地区)
期 間：99年5月13日～00年3月31日
第1回調査：99年7月23～24日(宮古島・池間島・伊良部島調査)
第2回調査：99年8月2日～4日(石垣島・西表島)
第3回調査：99年9月23日～25日(石垣島・西表島)
第4回調査：99年10月16日～17日(石垣島)
第5回調査：99年11月27日～28日(宮古島・伊良部島)
第6回調査：00年2月26日～27日
依頼機関：沖縄県教育委員会
- 本島北部の露頭調査(名護市バン崎地域)
期 日：99年8月9日
依頼機関：沖縄県高等学校地学教育研究会
- 西表島総合調査
期 日：00年3月15日～17日
- 「東村の自然」の現地調査
期 間：99年12月1日～00年3月31日
第1回調査：99年12月9日～10日
第2回調査：00年1月18日～19日
第3回調査：00年2月23日～24日
依頼機関：東村
- 新城下原第2遺跡の地質調査
期 日：00年3月11日
依頼機関：沖縄県教育委員会

嵩原 建二 (充指導主事)

- 名護市動植物総合調査
期 間：99年4月1日～00年3月31日
依頼機関：名護市教育委員会
調 査 地：名護市一円
- 名護市文化財保護調査委員
期 間：99年4月1日～00年3月31日
依頼機関：名護市教育委員会
調 査 地：名護市一円
- 鳥獣保護区管理に関わる鳥類調査
期 間：平成11年5月3日～5日
依頼機関：沖縄県自然保護課
場 所：南大東村
- 名護市屋部区字史編集委員
期 間：99年11月13日～00年3月31日
依頼機関：名護市屋部区
調 査 地：名護市屋部一円
- 東村動植物総合調査委員
期 間：99年10月1日～00年3月31日
依頼機関：東村企画課
調 査 地：東村一円
- 亜熱帯林における希少野生生物とその生息環境維持機構に関する調査研究（環境庁委託）
期 間：99年9月2日～00年3月31日
依頼機関：（財）自然環境研究センター
場 所：沖縄島北部国頭村
- 鳥獣保護区管理に関わる鳥類調査
期 日：00年3月8日～9日
依頼機関：沖縄県自然保護課
場 所：南大東村
- ノグチゲラ保護増殖事業調査研究ワーキンググループ委員
期 間：99年4月1日～00年3月31日
依頼機関：環境庁沖縄地区国立公園管理事務所
場 所：沖縄島北部
- ノグチゲラ調査検討専門部会委員
期 間：99年8月4日～00年3月31日
依頼機関：（財）沖縄建設弘済会（北部ダム事務所委託）

津波古 聰 (充指導主事)

- 尚家遺産関係資料調査
第1回調査
期 間：99年12月1日～3日
場 所：東京
依頼機関：那覇市歴史資料室

第2回調査

- 期 間：00年1月18日・19日
場 所：東京・日本民芸館
依頼機関：那覇市歴史資料室

太田 健一 (充指導主事)

- 在外沖縄関連文化財調査
期 間：99年11月29日～12月10日
調 査 地：スペイン・ポルトガル・フランス
依頼機関：沖縄県教育委員会

前田 真之 (教育普及課長)

- 西表島総合調査
期 間：00年2月15日～17日
内 容：歴史に関する聞き取り調査

仲底 善章 (指導主事)

- 西表島総合調査
期 間：00年3月15日～17日
内 容：西表島の魚垣に関する踏査

伊波 悦子 (充指導主事)

- ボランティア活動調査
期 間：99年6月5日～8日
調 査 地：波照間島
- 中国染織調査
期 間：99年8月13日～25日
調 査 地：新疆ウイグル自治区
- 西表総合調査
期 間：99年10月11日～13日
調 査 地：西表
- イタリア染織調査
期 間：99年11月8日～16日
調 査 地：ミラノ・フィレンツェ・ベネチヤ（イタリア）
- ハワイ移民百周年記念式典等調査
期 間：00年1月7日～13日
調 査 地：オアフ島・ハワイ島・マウイ島（ハワイ）

3 講演等

大城 慧 (学芸課長)

- 「沖縄のルーツ」
期 日：99年5月27日
依頼機関：沖縄県教育委員会

○「沖縄本島南部の遺跡（具志頭村）」

期 日：99年12月12日

依頼機関：南風原町中央公民館

○「沖縄本島南部の遺跡（玉城村）」

期 日：99年12月19日（第2回目）

依頼機関：南風原町中央公民館

園 原 謙（主任（学芸員））

○沖縄県広域学習サービス事業まちづくり・ふるさと学コース「戦争・基地と文化財講座」「流出した沖縄の文化財」

期 日：99年6月19日

場 所：嘉手納町中央公民館

依頼機関：県立石川少年自然の家

○市町村新規採用職員研修「郷土の歴史」

期 日：99年7月15日・10月28日

依頼機関：沖縄県自治研修所

備 考：当館（展示解説を含む）

○博物館教育ボランティア養成講座

「勅諭など指定文化財」

期 日：99年8月11日

与那城 義 春（充指導主事）

○平成11年度 沖縄県長寿学園専門課程講座
「沖縄の動物」

期 日：99年6月15日

場 所：末吉公園の自然観察会観察会

期 日：11月2日

場 所：沖縄市比屋根湿地の野鳥

依頼機関：沖縄県教育委員会

○平成11年度「体験学習教室(野鳥観察会)」

期 日：99年9月25日

依頼機関：沖縄県立教育センター

○博物館ボランティア研修「野鳥観察会」

期 日：99年11月29日

○平成11年度「冬の自然探検」

期 日：00年1月8日

場 所：億首川の野鳥観察

依頼機関：沖縄県立石川少年自然の家

○第22回沖縄県青少年科学作品展審査

期 日：2000年1月25日

依頼機関：沖縄県教育委員会

神 谷 厚 昭（指導主事）

○沖縄県広域学習サービス事業環境保全コース「沖縄の自然保護講座Ⅱ」

期 日：99年10月2日

依頼機関：県立石川少年自然の家

○第22回沖縄県青少年科学作品展審査

期 日：00年1月25日

依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力

○文化財めぐり案内人養成講座「名護市の地質巡検」

期 日：00年3月12日

依頼機関：名護市教育委員会

嵩 原 建 二（充指導主事）

○愛鳥週間に伴う野鳥講演会

期 日：99年5月14日

依頼機関：沖縄県自然保護課

場 所：那覇市立久茂地小学校

○自然観察会

期 日：99年5月22日・23日

依頼機関：沖縄県立博物館友の会

場 所：国頭村与那

○自然教室探鳥会

期 日：99年6月26日・00年1月22日

依頼機関：沖縄県立教育センター

場 所：沖縄市比屋根

○番組製作に関わる現地指導

期 日：99年6月27日～29日

7月14日～16日

00年1月10日～12日

依頼機関：NHK沖縄放送局

場 所：南大東島

○校内職員研修に関わる探鳥会

期 日：99年9月13日

依頼機関：那覇市立与儀小学校

場 所：那覇市漫湖干潟

○自然観察会

期 日：99年11月6日

依頼機関：宜野湾市立博物館

場 所：宜野湾市大山

○野鳥観察会

期 日：99年11月28日

依頼機関：那覇市立中央公民館

場 所：那覇市漫湖干潟

○環境教育に関わる野鳥観察会

期 日：99年2月16日

依頼機関：沖縄県自然保護課・具志川村立大岳小学校

場 所：具志川村・仲里村

○第22回沖縄県青少年科学作品展審査

期 日：00年1月25日

依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力

場 所：沖縄電力

○探鳥会

期 日：00年3月4日
依頼機関：与儀小学校PTA
場 所：那覇市漫湖干潟

前 田 真 之 (教育普及課長)

○ボランティア養成講座「地域と博物館」

期 日：99年7月21日

○「南タイの文化とくらし」

期 日：00年2月19日
依頼期間：歴史教育者協議会

瑞慶山 昇 (指導主事)

○ボランティア養成講座「美術工芸について」

期 日：99年8月18日

○ヨーロッパ西洋美術館と歴史

期 間：99年12月4日～11日
依頼機関：県立博物館友の会
場 所：パリ、ベルギー

仲 底 善 章 (指導主事)

○博物館ボランティア養成講座
「民俗室再発見」

期 日：99年8月18日

○「黒砂糖づくり」出前教室

期 日：99年11月16日
依頼機関：那覇市立仲井真小学校

期 日：99年12月7日
依頼機関：博物館ボランティア

期 間：00年1月18日～20日
依頼機関：豊見城村立伊良波小学校

期 日：00年2月9日
依頼機関：那覇市立垣花小学校

期 日：00年2月25日
依頼機関：浦添市立内間小学校

○「シーサーづくり」出前教室

期 日：99年7月20日
依頼機関：糸満市立真壁小学校

期 日：99年8月1日
依頼機関：沖縄在波照間郷友会

期 日：99年8月17日
依頼機関：那覇市古蔵学童クラブ

期 日：00年3月2日
依頼機関：佐敷町立馬天小学校

期 日：00年3月4日
依頼機関：西原町立西原中学校

伊 波 悦 子 (充指導主事)

○美術工芸室展示解説会

期 日：99年5月19日
依頼機関：県立博物館ボランティア

○博物館ってどんなところ

期 日：99年6月30日
依頼機関：県立博物館ボランティア

○琉球の歴史と工芸

期 日：99年7月6日
場 所：糸満青年の家
依頼機関：観光人材開発協会

○琉球の歴史と工芸

期 日：99年9月20日
場 所：ポリテクセンター
依頼機関：観光人材開発協会

○琉球の歴史と工芸

期 日：99年11月25日
場 所：那覇地域職業訓練センター
依頼機関：観光人材開発協会

○琉球の歴史と工芸

期 日：00年2月14日
場 所：浦添ハーモニーセンター
依頼機関：観光人材開発協会

○古琉球の歴史

期 日：99年11月18日
依頼機関：名古屋大教育学部附属高校

○琉球の民俗

期 日：99年12月19日
依頼機関：神奈川県立総合高等学校

4 著作論文等

大 城 慧 (学芸課長)

- 「首里城復元整備とその保存活用」『21世紀に何を伝えるかーヒトと環境と文化遺産』山川出版 99年6月

與那嶺 一 子 (主任学芸員)

- 「史料紹介吉濱家文書『糸関係書類』より糸関係資料九題」(共著)『沖縄県立博物館紀要第26号』00年3月

園 原 謙 (主任 (学芸員))

- 「沖縄県指定有形文化財としての三線」『特別展 三線のひろがり可能性展 (図録)』沖縄県立博物館 99年8月
- 「沖縄県の文化財保護史ー昭和初期から琉球政府時代の活動を中心に」『沖縄県立博物館紀要第26号』00年3月
- 「ハワイ在の三線について」『沖縄県立博物館紀要第26号』00年3月
- 「「文化財」ってなあーに」『まゆちゃんつむぎくんの久米島紬読本』仲里村教育委員会 00年3月
- 「在外沖縄関連文化財調査 (欧州) について」(共著)『在外沖縄関連文化財調査報告書』沖縄県教育委員会 00年3月
- 「沖縄の伝統工芸」『沖縄の歴史と文化』沖縄県教育委員会00年3月

与那城 義 春 (充指導主事)

- 「メジロの繁殖」『沖縄県立博物館紀要 第26号』、00年3月
- 「南風原町の野鳥」『南風原町史本編第4巻 はえばるの自然と地理』、南風原町史編集室、00年3月

神 谷 厚 昭 (指導主事)

- 「沖縄県池間島に分布する池間古砂丘について」(共著)『地学教育研究会誌22号』99年5月
- 「大東島の地質について」『地学教育研究会誌22号』99年5月
- 「浜比嘉島西方の岩塊群」『地学教育研究会誌22号』99年5月
- 「東村の地質と地形」『東村自然調査報告書』00年3月
- 『沖縄県地質鉱物緊急実態調査報告書』(共著)00年3月
- 『南風原町史本編第4巻 はえばるの自然と地理』(編・共著)00年3月

嵩 原 建 二 (充指導主事)

- 「沖縄島における春の探鳥地」. Birder. 文一総合出版00年3月
- 「沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について」(共著)『沖縄県立博物館紀要第26号』00年3月
- 「末吉公園の植物とオオコウモリの餌植物」(共著)『沖縄県立博物館紀要第26号』00年3月
- 「読谷村の鳥類及びその方言名と探鳥地について」『読谷村立歴史民俗資料館紀要第23号』読谷村立歴史民俗資料館 00年3月

太 田 健 一 (充指導主事)

- 「三線にまつわる話」『特別展 三線のひろがり可能性展 (図録)』沖縄県立博物館 99年8月

前田 真之 (教育普及課長)

- 「視覚障害者とミュージアムアクセス」『沖縄県立博物館紀要第26号』00年3月

仲底 善章 (指導主事)

- 「博物館における三線づくり」『沖縄県立博物館紀要第26号』00年3月31日
- 『平成11年度 子ども体験学習教室』沖縄県立博物館 00年3月31日

伊波 悦子 (充指導主事)

- 「教育普及の実践・高等学校の取り組みを通して」『沖縄県立博物館紀要26号』99年3月
- 「心偈」『琉球新報・晴読雨読』99年4月11日
- 「暮らしの中の色を詠む」『あやもどろ7号』那覇市文化協会 99年4月
- 「島尾文学との出会い」『沖博協だより第34号』沖縄県博物館協会 99年6月
- 「サミットの効果」俳誌『朔 創刊号』00年3月31日

5 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究、その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」(博物館法 第4条4) こととなっていて、学問の専門性が要求されている。そのため学芸員一人ひとりがこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館活動への展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員研修を実施している。

(1) 平成10・11年度博物館職員講習 仲底善章

平成10・11年度に行われる博物館職員講習は、博物館等に勤務する職員を対象に学芸員の資格取得を目的として、行われている。期間は2年間にまたがり、昨年度はその最終年度であった。期間は平成11年6月21日(月)～7月13日(火)までの日程で行われた。研修の内容は以下の通りであった。

1 平成11年度博物館職員講習の研修内容

- 6月21日(月)「開講式」／「博物館の課題」加藤有次／「博物館の開放」駒見和夫
- 22日(火)「生涯発達と教育」野島正也／
- 23日(水)「教育評価の目標と方法」浅井経子／
「教育の本質及び目標」山田兼尚
- 24日(木)「教育制度」藤井佐知子／
「生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育」清國祐二
- 25日(金)「生涯学習と社会教育の意義」黒沢椎昭／
「社会教育の内容・方法・形態と社会教育指導者」佐藤晴雄
- 28日(月)「学習情報提供と学習相談の意義」手打明敏／
「社会教育施設の概要」廣瀬修一／
「生涯学習振興施策の動向」文部省生涯学習局社会教育課
テスト：生涯学習論
- 29日(火)「視聴覚教育メディアの意義と種類」里見親幸／「視聴覚教育の意義」濱野保樹
- 30日(水)「視聴覚教育メディアを活用した学習支援の方法」鈴木一雄・椿阪信弥
- 7月1日(木)「視聴覚教育メディアを活用した学習支援の方法」鈴木一雄・椿阪信弥
- 2日(金)「視聴覚教育の意義と種類」宮田昭男／テスト：視聴覚メディア論

- 5日（月）「民俗学総説」新谷尚紀
 6日（火）「社会経済伝承・儀礼伝承」宮田登／「社会経済伝承・儀礼伝承」
 鈴木章生
 7日（水）「信仰伝承」尾島利雄／「文化史」星野絃
 8日（木）「西洋美術史(1)」田辺神幹之助／「西洋美術史(2)」寺島洋子
 9日（金）「日本美術史(1)」山本勉／「日本美術史(2)」玉蟲玲子
 12日（月）「テスト：文化史／「シンポジウム：博物館と地域社会・学校」布谷知夫、
 金山喜昭、長島雄一、平岡健
 13日（火）「認定説明会」／「閉講式」

2 平成11年度博物館職員講習の感想

- (1) 博物館学に関する専門的な学習は、現場経験を通しての受講なので、職務遂行の面から大変有意義な研修内容であった。
- (2) それぞれ設立趣旨の異なる多様な博物館を特に内側から見学することができた。また、それぞれの博物館の展示における特徴や普及活動の実際をその博物館の担当者から直接話を聞くことができ、今後の当館の教育普及活動の展開に示唆を与える内容であった。
- (3) 「シンポジウム：博物館と地域社会・学校」は私が直接関わっている事業そのものであったので数多くの意見交換ができ特に有意義であった。
- (4) 完成間近な東京国立博物館平成館を視察することができ、国立の博物館の内部施設には驚嘆させられた。



屋外研修の風景

IV 展示活動

1 展示活動の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集、資料の整理保管、教育普及活動という4つの大きな柱によって構成されている。展示活動については、学芸業務の所掌事務として学芸課がその任にあたり、常設展を基本にして特別展を年に1回、企画展を1回から2回程度実施しているところである。

特別展と企画展の実施にあたっては、専用の特別展示室と企画展示室が確保されていないため展示企画に合わせて第1展示室の歴史展示室や第3展示室の美術工芸展示室や企画展示室を利用している。その度毎にそれぞれの展示物を撤収し展示スペースを確保している状況である。そのために「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展が観覧できない等、来館者からの要望期待に応えられない状況となっている。特に本土からの修学旅行の中に沖縄の歴史を学ぶ機会として県立博物館を訪れることが多いが修学旅行期間中常設展が見られず苦情を受けることもある。

今後、特別展示室や企画展示室を設置していくことが、急務の課題となっている。

平成11年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマとした常設展示を中心に、特別展として「三線のひろがり可能性展」、企画展として「新収蔵品展」、「日本の技—伝統のかたち（第7回全国重要無形文化財保持団体協議会秀作展巡回展）」、「工芸王国展—さらめく手わざの世界を沖縄から」を開催した。

以下、平成11年度の展示活動について具体的に述べる。

2 常設展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候の中にある沖縄県は、東西南北の文化が交差する特色ある地域として我が国の中でも個性豊かな文化を造りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って海洋国家として興隆したという歴史的経緯を有している。

本博物館はこうした特色のある歴史と文化に関する資料を収集して整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。よくいわれることだが、沖縄の素顔はいくつかの特徴をもっているとされている。常設展示のメインテーマは「沖縄の歴史と文化」であるが、この常設展示を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されているのが展示内容の大きな特徴になっている。

展示室は、1階の第1室と第2室、2階の企画展示室と第3室、さらに中3階の第4室がある。第1室が考古・歴史で、ここでは琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。たとえば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる新石器時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山先史時代の姿など。12世紀から13世紀になると按司と称する在地の小領主が出現しグスク時代が始まる。各グスクから出土した遺物が展示されている。ここまでは、考古資料の展示となっている。

次のコーナーでは、琉球王国が誕生する様相が紹介されている。15世紀前半には沖縄本島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「大交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の侵攻をうけその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでのユニークな沖縄歴史の様相が展開されている。

第2室の自然史の展示は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれるアンモナイトやハロピア、あるいは絶滅して今では見られないリュウキュウシカやリュウキュウムカシキオンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。左側から順に見て回ると、海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼地の生きもの、山地森林に住む生きもの、源流の生きものと続く。また、沖縄のハブについても分類して展示してある。特に大自然の宝庫といわれ

る沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島に生息する国・県指定の天然記念物については特設コーナーを設けて展示してある。

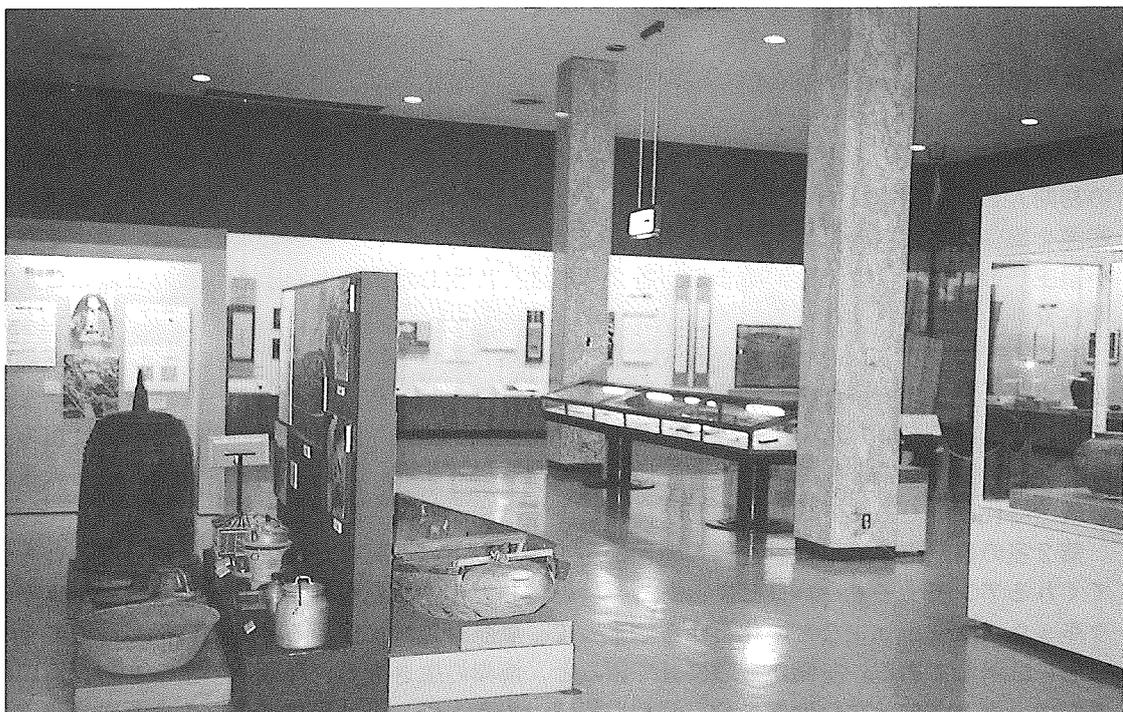
自然室を出ると2階に至るスロープがあり、スロープ右壁上部には那覇大綱挽時の首里代表旗「瑞雲」が展示されている。スロープの側壁には戦前から戦後にかけて撮影された貴重な沖縄の風景写真パネルが展示されており、写真を見ながら企画展示室に導かれる。この展示室には「大嶺薫コレクション」が展示されているが、その一角を利用して沖縄の染織のルーツともいわれる「東南アジアの染織」も展示してある。毎年、企画展示として行う新収蔵品展に使われている。

第3室美術工芸の展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交渉を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

第4室の民俗展示室には、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・芸能など、テーマごとに整理・分類して展示してある。また、庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知る資料も展示してある。なかでも、他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などが紹介展示されているのがこの室の特徴ある展示の一つになっている。

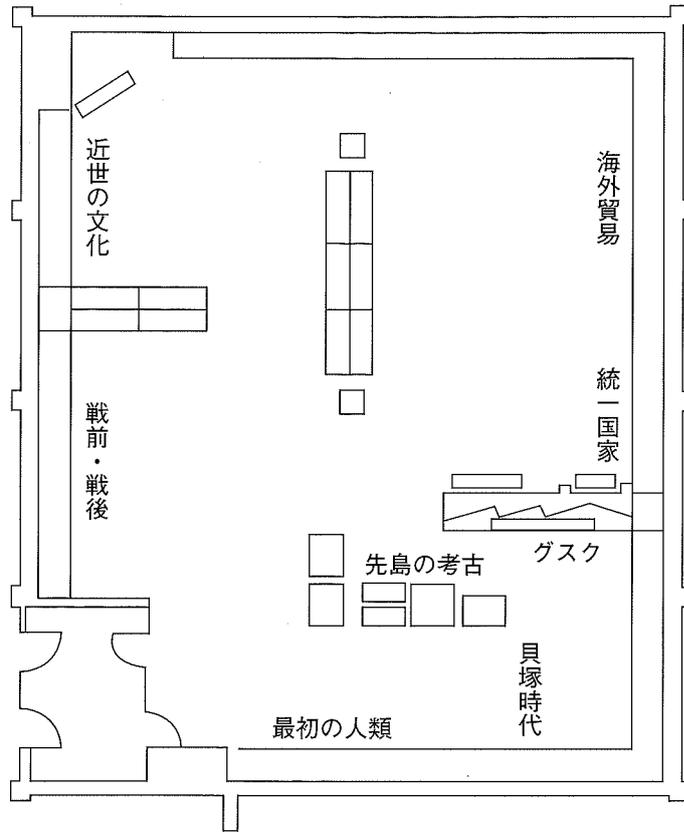
ところで、当博物館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷跡であり中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特な工法で築かれた石牆は、前方の龍潭や首里城の眺めと調和して往時の古都をしのばせる歴史的景観を呈している。館のロビーに入ると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかった首里城正殿前の大龍柱の頭、万国津梁の鐘（旧首里城正殿鐘・重文）、「徳高」・「徳馨」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。

また、野外展示の一環にもなっている前庭に目を転じてみると、旧円覚寺鐘楼（重文）や沖永良部から移築された高倉をはじめ、亜熱帯の樹木の下や芝生の中にひっそりと立っている石灯籠や石敢當とともに石獅子、壺屋の窯で焼かれた獅子頭などが展示されており、館を訪れる人々へ館の内外から沖縄の歴史・文化を紹介している。

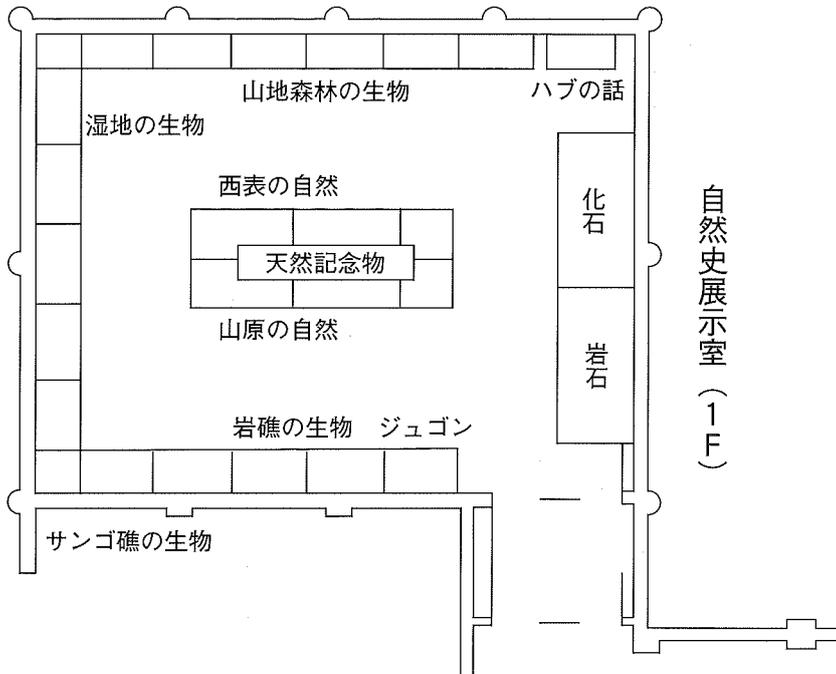


歴史展示室（1F）

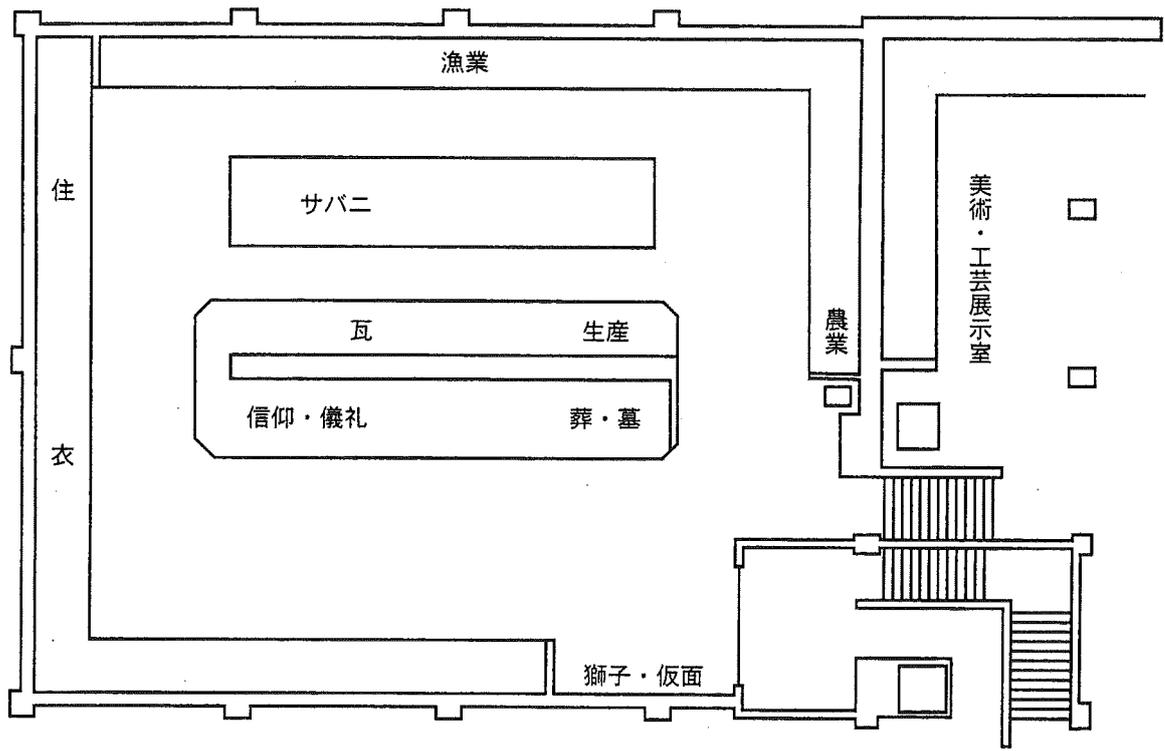
歴史展示室 (1F)



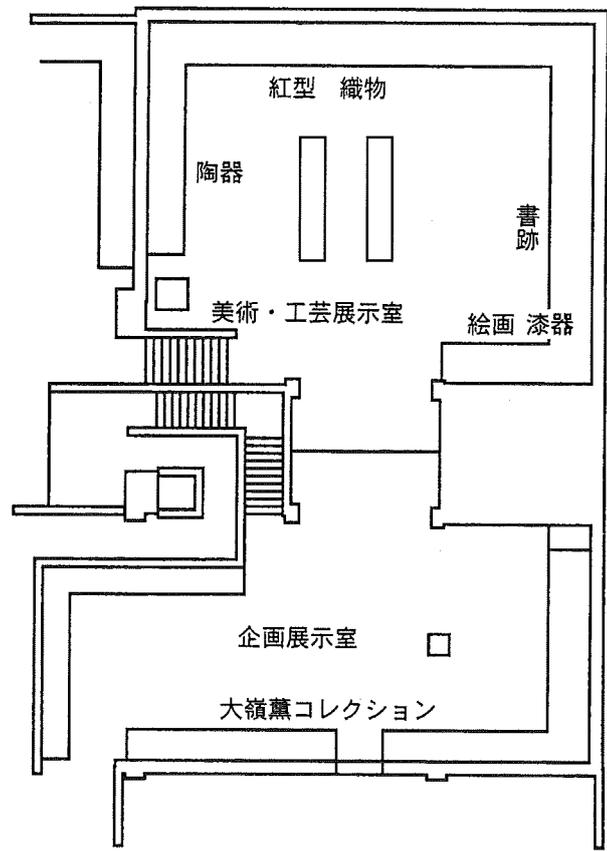
マングロープの生物



自然史展示室 (1F)



民俗展示室 (2F)



美術・工芸展示室および企画展示室 (2F)

3 特別展

特別展「三線のひろがり可能性展」(担当者:太田健一、園原謙、瑞慶山昇)

会期:平成11年8月3日(火)~平成11年9月5日(日)

※休館日:月曜日(実質30日間開館)

会場:沖縄県立博物館(1階ロビー、スロープ、企画展示室、美術工芸展示室)

【趣旨】

沖縄の伝統楽器の中で、三線ほど普及した楽器はない。沖縄県民は、喜怒哀楽の情を三線と歌とで表現してきた。三線は、県民にとってはまさに心の糧であり、心の支柱である。現在、老若男女を問わず三線に興味を持ち、慣れ親しんでいる。

三線は、14~15世紀ごろ中国から伝来したと伝えられる。1612年には貝摺奉行のもとに三線打の主取を置き、三線楽器製作に対して王府が強い支援を行っていた。そこから幾多の名工と名器が誕生した。また、三線は、琉球王府の行事や士族の教養として、大きな役割を果たすことになり、王府もその振興に力を入れた。そして、琉球の音楽や歌謡、舞踊、演劇といった芸能文化に占める三線の役割を決定的ならしめ、同時に、琉球の芸能文化のあり方を方向づけていった。その後、次第に庶民にも普及し、祭りや民俗芸能にも登場して、隆盛をきわめていく。

現在、沖縄芸能の良さが見直され、古典音楽、民謡や舞踊ばかりではなく、組踊や芝居を継承する若者も輩出している。また、国立組踊劇場(仮称)の建設場所も浦添市に決定し、沖縄芸能に対する県民の関心も高まりつつある。

本事業は、沖縄芸能に重要な位置を占める三線に焦点をあて、芸能史的・民俗学的観点から三線に関する総合展示をすることにより、三線のすばらしさを改めて認識し、県民の文化に対する意識の高揚をはかることを目的とする。

【開催形式】

主催:沖縄県立博物館

共催:琉球三線楽器保存育成会、沖縄タイムス社

後援:琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク、NHK沖縄放送局、ラジオ沖縄、FM沖縄、沖縄観光コンベンションビューロー

【展示内容】

三線にまつわる諸資料を一堂に集め、三線の世界をたどり沖縄芸能の今後を考えた。

1. プロローグ展示

主催者挨拶等を文字パネル、いろいろな場面で演奏される三線を写真パネルで展示した。

また、見学者が、三線を弾く三線体験コーナーを設置した。

2. 三線の歴史と文化

沖縄芸能の中に三線がどのように取り入れられ、どう息づいているかを展示した。

A. 三線の源流

三線のかたちを、7つの型で示し、三線の源流の探求へと導いた。また、三線が、中国から琉球経由で日本に伝わったとする琉球渡來說を、沖縄側の主張とした。

B. 三線芸能の展開

琉歌と結びついた三線は、首里王府の支援の下に、宮廷楽器として発展し、本土に渡ってからは庶民にも行きわたり、国民的楽器としての地位を確立した。近世期から現在までの三線と芸能の展開を展示した。

C. 三線のしくみ

沖縄では、三線の棹に対する信仰に近い執着があり、共鳴装置である胴を重要視しない。ここでは、三線の音色は、棹と胴のどちらで奏でるのか、三線の構造、製作工程等をとおして紹介した。また、見学者が、三線芸能を見るビデオコーナーを設置した。

3. 三線の魅力

沖縄芸能の伴奏楽器として目立たない三線の魅力を、関連資料とあわせて展示した。

A. 三線をとりまく芸能

明清楽の楽器や舞踊と組踊の衣裳等、沖縄芸能に関する三弦楽器以外の打楽器、吹奏楽器、弦楽器を展示した。

B. 三線の美

名器中の名器である盛嶋開鐘を頂点とする開鐘と名のつく三線と、盛嶋開鐘を含む県指定有形文化財20丁の工芸品としての美しさを鑑賞してもらった。

C. 世界に響け沖縄の音

伝承をもつ三線や新型三線等のいろいろな三線を紹介し、沖縄芸能のイベント化と観光資源化を紹介した。また、三線音楽が世界音楽になりうる可能性をアピールした。

【関連催事】

1. 名器を奏でる／三線の系譜をたどる

日 時：平成11年8月7日（土） 午後2時～午後5時

場 所：県立博物館講堂

入場料：無料

入場者：444人

内 容：県指定有形文化財の名器といわれる三線4丁の音色を堪能する機会を提供し、三線の系譜をたどる基調講演と三線楽器の系譜を通して、三線文化についての総合学習を推進した。

第1部 名器を奏でる

- 1) 与那城型 銘玉城與那 奏者：岸本吉雄 演目：本調子述懐節
- 2) 江戸与那 奏者：下田清幸 演目：仲間節
- 3) 志多伯開鐘 奏者：比嘉常俊 演目：仲村渠節
- 4) 盛嶋開鐘 奏者：鳥袋正雄 演目：赤田風節

第2部 三線の系譜をたどる～基調講演・比較演奏会～

- 1) 基調講演「三線のきたみち」 講師：池宮正治（琉球大学法文学部教授）

2) 比較演奏会

①中国の三弦

三弦：宮城葉子（御座楽演奏研究会）
二弦：平得永治（御座楽演奏研究会）………伴奏
拍板：比嘉悦子（御座楽演奏研究会）………伴奏
演目：蓮花落（楽曲）、酔太平（楽曲）、四大景

②沖縄の三線

照喜名朝一（沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者）
演目：ナークニー、カイシャレー、アガリカタサーヨー、仲風節

③奄美の三線

坪山豊（奄美民謡の第一人者）
演目：嘉徳ナベ加那、ゆいすら節

④地謡三弦（大和三味線）

山内貴祐（県内地謡の第一人者）
演目：六段の調べ（抄）（楽曲）、夏の山里

2. 若人の芸能祭

日 時：平成11年8月22日（日） 午後2時～午後5時

場 所：県立博物館講堂

入場料：無料

入場者：283人

内 容：将来の沖縄芸能を担う小学生、中学生、高校生、大学生の芸能祭を開催した。

第1部 創作の世界

団 体：県立南風原高等学校郷土文化コース

演 目：獅子舞、国頭捌理、黒島口説、創作太鼓

出演者：平安山優子、川平真弓、照屋真奈美、与儀晶子、新垣栄太、伊禮俊一、
又吉忍、宮城孝真、金子昭乃、大城麻美、城間舞愛、中村美香、
南風原かおり、比嘉綾乃、神谷大輔、川満香多、知念枝理、城間勇紀、
与那嶺薫、平良優紀、末吉渚、仲西敦子

第2部 歌三線の世界

1) 団 体：那覇市立安謝小学校三味線クラブ

演 目：デンサ節、チョンチョン節

出演者：栄野川心、玉城由紀乃、前川幸治、屋富祖佐和、城間麻未、備瀬大樹、
玉城綾乃、高良美沙紀、具志堅理佐、崎浜奈津美、翁長綾子、国吉真登、
又吉康斗

2) 団 体：大里村立大里中学校三味線クラス

演 目：安波節、娘ジントヨー

出演者：石嶺真寛、前竹優、宮城美乃、比嘉愛香、城間千明、上里真実、新里幸子、
久保田咲子

第3部 獅子舞の世界

1) 団 体：若獅子隊

演 目：滝落とうし、笠の段、唐船ドーイ

出演者：上原義朝、上原義巨、上原義央、平良幹人、赤嶺誠、金城義騎、上原佑允、
平良有哉、金城和志、上原栄治、高良勇輝、上原義樹

2) 団 体：鼓衆若太陽

演 目：雷舞、碧流

出演者：赤嶺信吾、与那覇康人、親富祖沙織、豊見本夏樹、豊見本ありさ、照屋綾乃、
新里辰輝、上戸聖子

第4部 琉球舞踊の世界

団 体：県立芸術大学音楽学部邦楽専攻

演 目：若衆こてい節、かせかけ、浜千鳥、高平良万才

出演者：知花ルミ、国仲ひとみ、照屋加奈子、安富祖優子、伊志嶺忍、黒澤純子、
照屋美咲、具志幸大、野原豊、新垣俊道、山川誠司、中村逸夫、新垣佳世子、
比嘉千咲、多字清成、與儀朋恵

3. 三線鑑定会

日 時：平成11年8月29日（日）及び9月5日（日）

両日ともに午前10時～正午及び午後2時～午後4時

場 所：県立博物館1階ロビー、講堂

鑑定団体：琉球三線楽器保存育成会

鑑定員数：131人（2人重複）

184丁（南風原型－3丁、知念大工型－9丁、久場春殿型－4丁、久葉の骨型－1
丁、真壁型－118丁、与那城型－48丁、新型－1丁）

鑑定料：無料

内 容：多くの方々が持っている三線の型と特徴を鑑定し、鑑定証を発行した。

1) 第1回三線鑑定会

日 時：平成11年8月29日（日） 午前10時～正午及び午後2時～午後4時

場 所：県立博物館1階ロビー

鑑定者：岸本吉雄、運天政宣、下田清幸、外間善盛、銘苅春政、宜保榮治郎

鑑定員数：50人

61丁（南風原型－2丁、知念大工型－2丁、久場春殿型－1丁、久葉の骨型－
1丁、真壁型－37丁、与那城型－18丁）

2) 第2回三線鑑定会

日時：平成11年9月5日（日）午前10時～正午及び午後2時～午後4時

場所：県立博物館講堂

鑑定者：1班（鳥袋正雄、玉栄昌治、照喜名朝一、宮平三栄、運天政宣、外間善盛）

2班（岸本吉雄、花城康栄、新垣万善、下田清幸、銘苺春政、比嘉常俊）

相談役（宜保榮治郎）

鑑定員数：83人

123丁（南風原型－1丁、知念大工型－7丁、久場春殿型－3丁、真壁型－81丁、与那城型－30丁、新型－1丁）

【入館料金】

使用者	入館料
一般	500円
大学生及び高校生	200円
中学生及び小学生	100円
団体（20人以上）	一人につきそれぞれ上記入館料の2割引

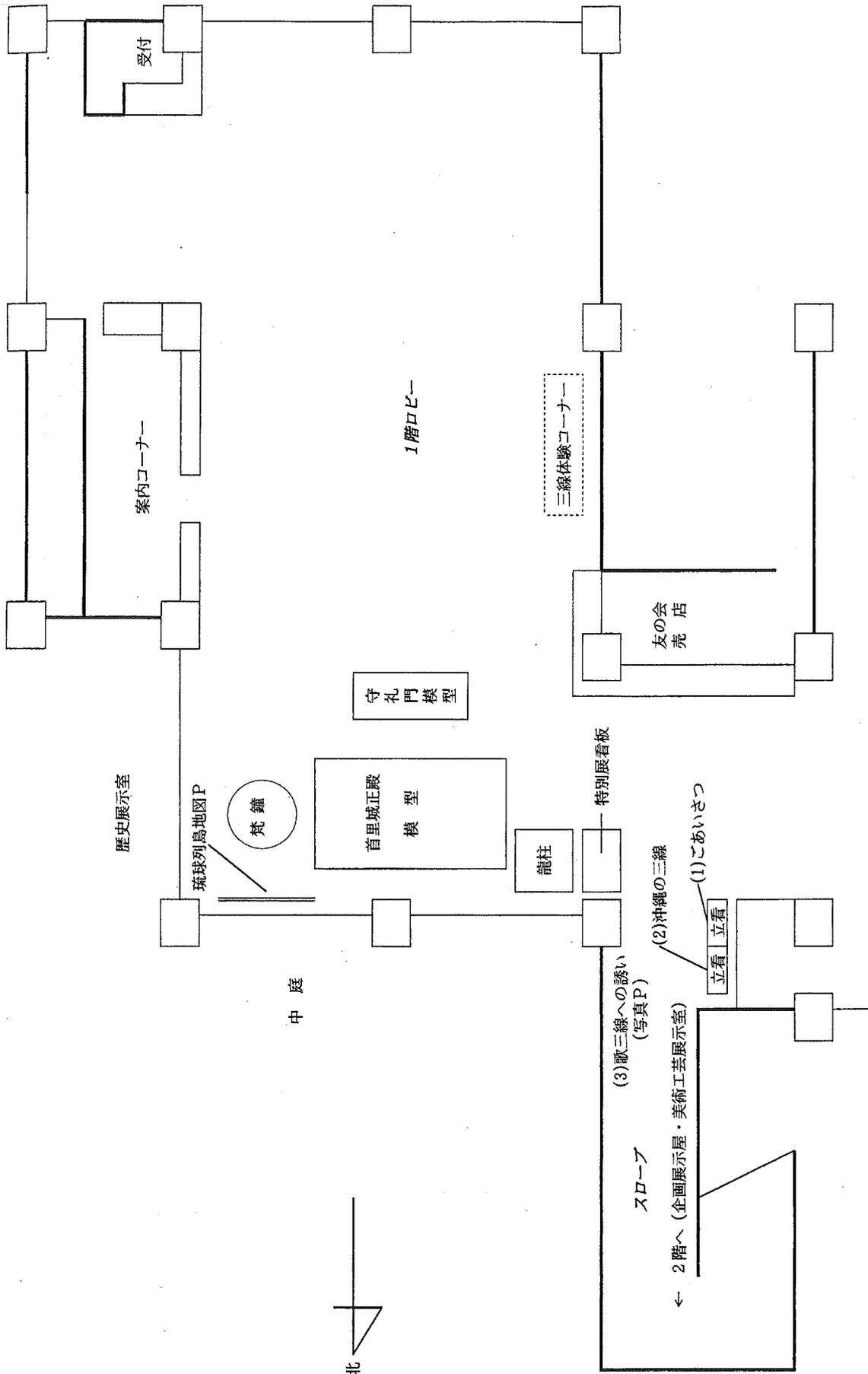


開会式テープカット（ロビー）



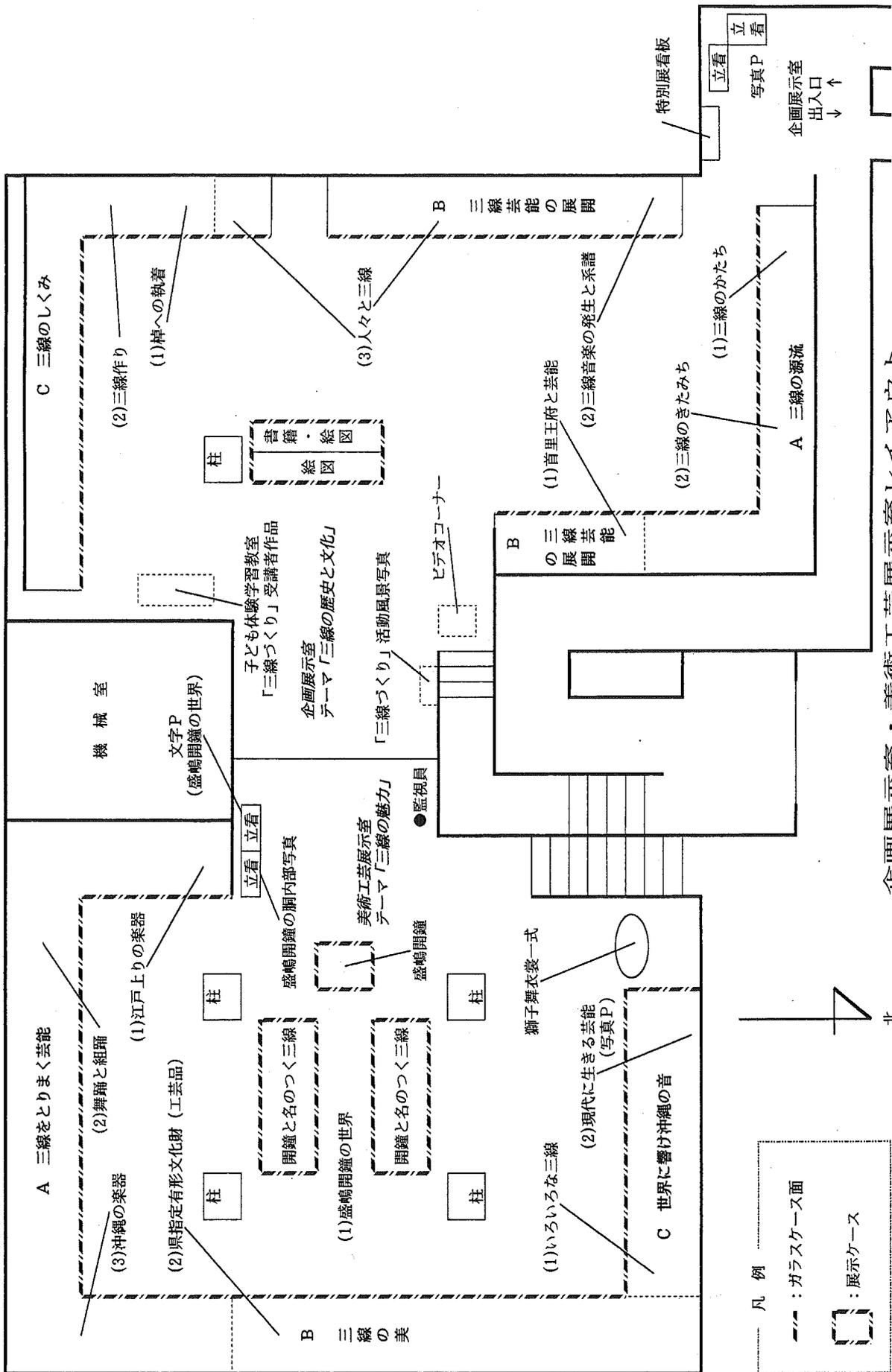
若人の芸能祭（講堂）

特別展「三線のひろがり可能性」展/展示平面図



1階ロビー・スロープ・プレイアウト

特別展「三線のひろがり可能性」展／展示平面図



4 企画展

企画展 平成10年度「新収蔵品展」(担当：津波古聰、与那城義春)

会期：平成11年6月22日(火)～7月18日(日)

場所：企画展示室

〔開催主旨〕

「新収蔵品展」は、前年度に寄贈、購入、収集、移管された資料を集め、広く一般に公開するとともに、博物館活動の普及啓蒙を促進することを目的とする。

〔展示内容〕

平成10年度の新収蔵品は、寄贈、購入、移管によって583点もの資料が収蔵された。特徴的な展示品として、明治初期から昭和初期にかけて活躍した琉球古典音楽の名人・金武良仁翁(1873～1936)の演奏が生前収録されており、1954年にレコード化され、「金武良仁集(第1集、第2集)」として販売された。今回この貴重なレコード集を祖慶 剛氏から寄贈された。また、シーサー造りなど盛付の技法で「現代の名工」となった壺屋の陶工・故高江洲育男氏(1930～1997)の作品が、子息の忠氏より寄贈された。その他、自然史、歴史、美術工芸、民俗関係資料を48名の方々から寄贈された。

これらすべての資料を展示公開することは、展示室のスペースから不可能であるため、各分野の担当学芸員の判断で、資料を抜粋し展示した。展示は、できるだけ各分野、寄贈者ごとに分けておこなった。また、資料の補足として写真等も展示した。

平成10年度のすべての新収蔵品及び寄贈者全員の氏名は、刊行したパンフレット「平成10年度新収蔵品展」に掲載した。なお、展示は別添「新収蔵品展展示略図」を参照。

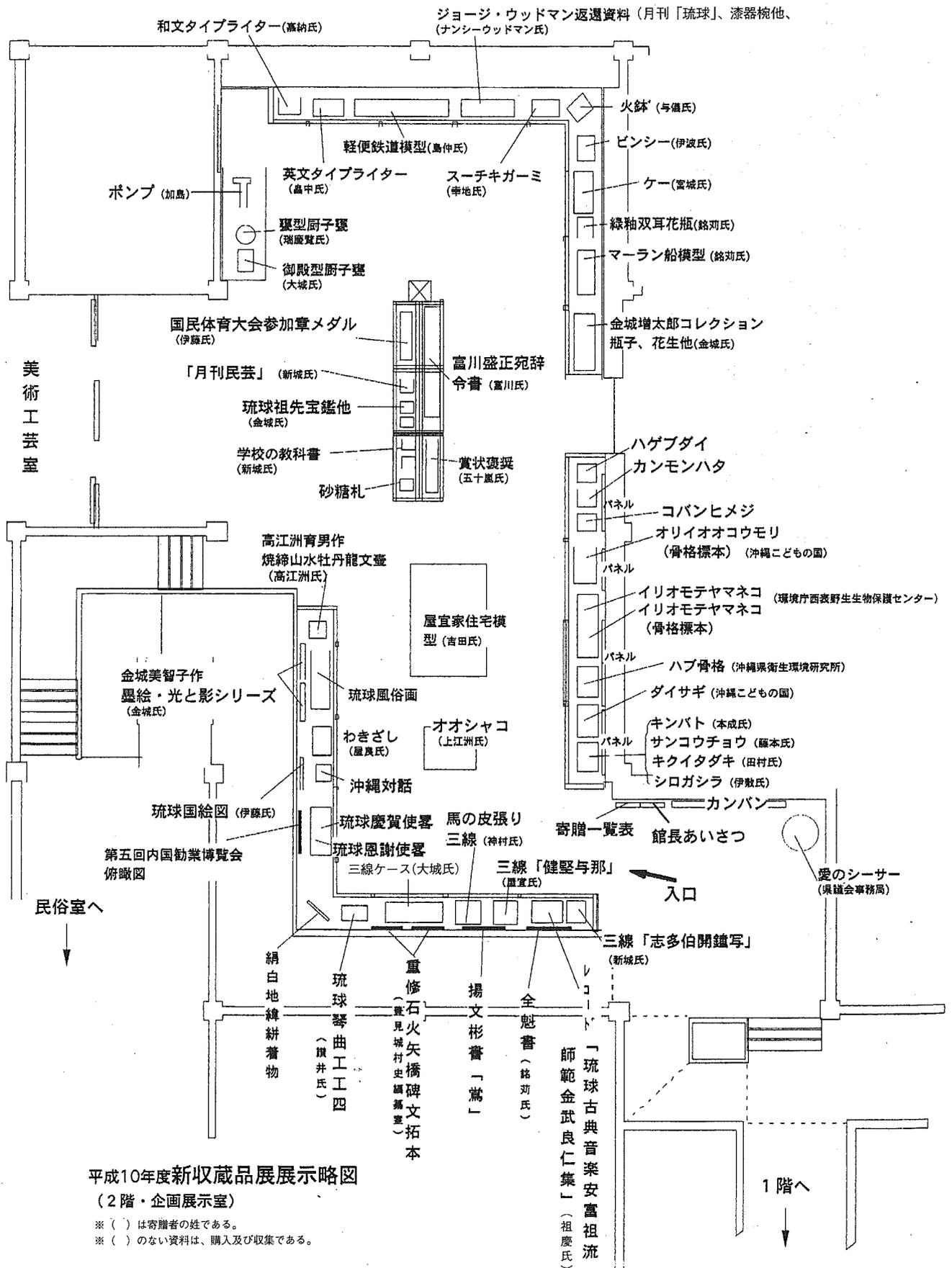
〔展示目録〕

寄贈の部：「琉球古典音楽安富祖流師範金武良仁集」、琉球琴曲工工四、三線「健堅与那」、三線「志多伯開鐘写」、馬の皮張り三線等芸能関係資料、重修石火矢橋碑文拓本、屋良家住宅模型、富川盛正宛辞令書、賞状褒奨、軽便鉄道模型、琉球国絵図、琉球祖先宝鑑、和文タイプライター、英文タイプライター、「月刊民芸」等歴史資料、全魁書、わきざし、墨絵・光と影シリーズ(金城美智子作)、焼締山水牡丹龍文壺(高江洲育男作)、瓶子他(金城増太郎コレクション)、緑釉双耳花瓶等美術工芸資料、マーラン船模型、ケー、ピンシー、火鉢、スーチキガーマ、甕型厨子甕、御殿型厨子甕等民俗資料、鳥類のシロガシラ、キクイイタダキ、サンコウチョウ、キンバト、ダイサギ、哺乳類のオリオオコウモリ、イリオモテヤマネコ、ハブの骨格標本、魚類のハゲブダイ、カモンハタ、コバンヒメジなどの剥製。

購入の部：絹白地緯緋着物、琉球慶賀使畧等、琉球風俗画

〔開会式及び感謝状授与式〕

平成11年6月22日(火)午前10:00に企画展示室入口において、寄贈者への感謝状贈呈式及びテープカットを行い、企画展「平成10年度新収蔵品展」を開会した。



平成10年度新収蔵品展展示略図
(2階・企画展示室)

※ () は寄贈者の姓である。
※ () のない資料は、購入及び収集である。

企画展 第7回日本の伝統美と技の世界 重要無形文化財保持団体秀作展
「日本の技～伝統のかたち～」(担当：津波古聰 與那嶺一子 園原謙)

会 期：平成11年10月26日(火)～平成11年11月7日(日)

会 場：沖縄県立博物館企画展示室・第三展示室

【開催主旨】

国から重要無形文化財保持団体認定を受けている13団体が伝統技術の保存継承のため、平成4年に結成されたのが「全国重要無形文化財保持団体協議会」である。同団体は、毎年、国指定無形文化財の所在地において、伝統工芸の普及啓蒙を目的に、大会及び秀作展を開催しており、今年度は芭蕉布の里、大宜味村で行われる。

そこで、国指定の伝統的な技をさらに広く紹介するため、大宜味村での秀作展終了後、会場を沖縄県立博物館に移し展示公開する。

【開催形式】

主 催：全国重要無形文化財保持団体協議会・第8回全国重要無形文化財保持団体協議会大宜味大会実行委員会・沖縄県立博物館

後 援：文化庁

協 賛：NHK沖縄放送局・沖縄タイムス社・琉球新報社・琉球放送・沖縄テレビ・琉球朝日放送・ラジオ沖縄・FM沖縄

【展示内容】

芭蕉布をはじめ陶磁器の柿右衛門(濁手)や輪島塗、久留米絨など13団体の作品64点を中心に、各団体や技法について説明パネルや写真パネルを用いて紹介した。

詳細については展覧会図録「第七回重要無形文化財保持団体秀作展—日本の伝統美と技の世界—」を作成したので、それを参照のこと。

【関連行事】

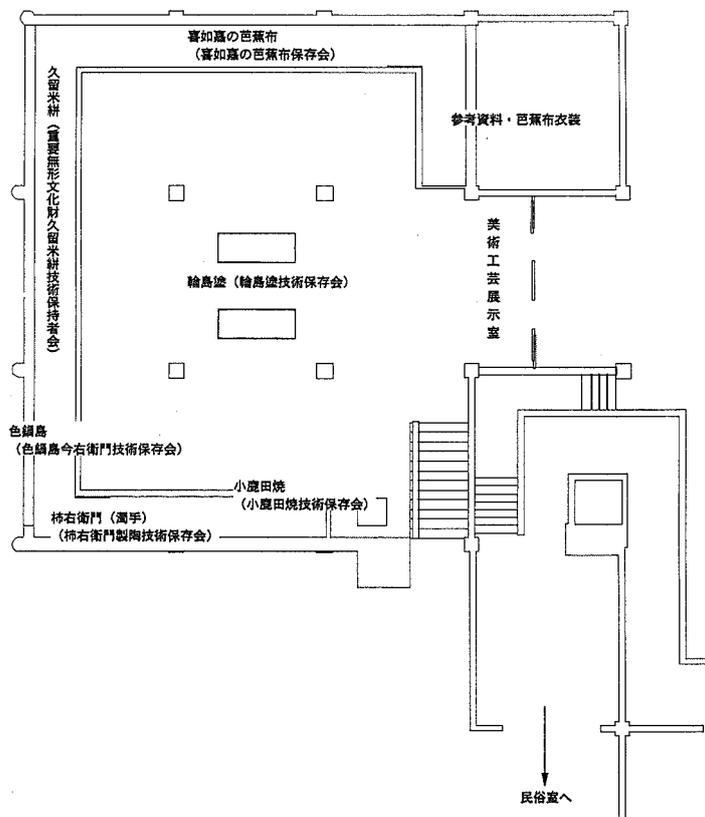
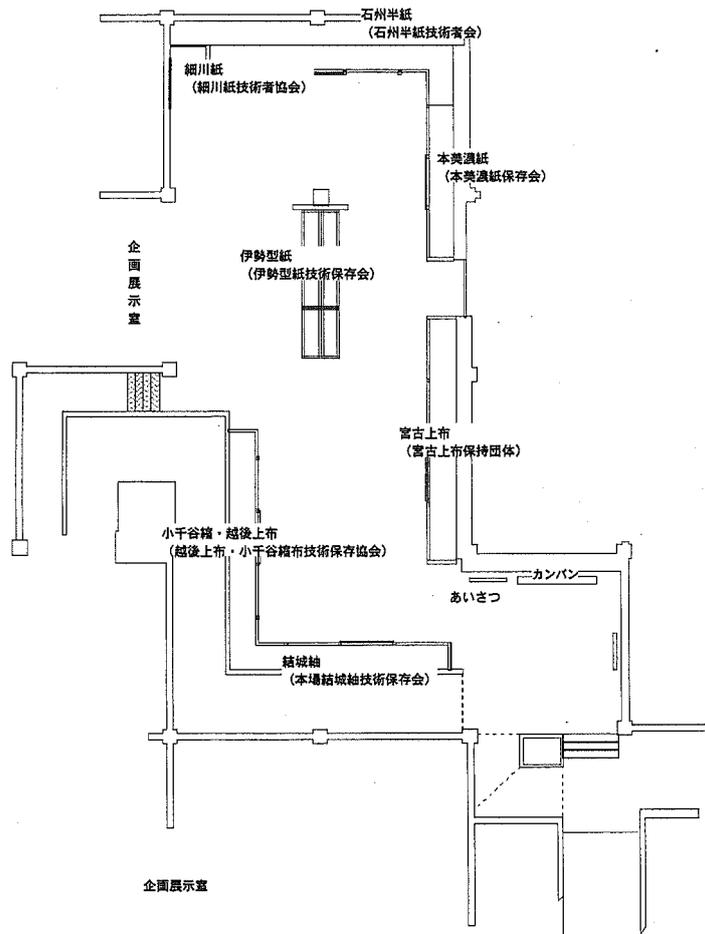
文化講座「工芸技術の継承」

日 時：平成11年10月30日(土)午後2時～午後4時まで

講 師：上江洲敏夫(具志川市史編さん室長)



企画展示室の展示風景



第3室 (美術工芸)

沖縄県無形文化財保存伝承事業

企画展「工芸王国ーきらめく手わざを沖縄から」(担当：與那嶺一子 津波古聰 園原謙)

会 期：平成12年2月8日(火)～平成12年2月27日(日)

会 場：沖縄県立博物館企画展示室・第三展示室

【開催主旨】

沖縄県指定無形文化財には、1972年の「芭蕉布」の指定以降、「びん型」(73年)、「本場首里の織物」(74年)、「読谷山花織」(75年)、「久米島紬」(77年)、「八重山上布」(78年)、「琉球漆器」(91年)の7件の指定物件がある。また、国指定重要無形文化財には、喜如嘉の芭蕉布(72年)、宮古上布(78年)、琉球陶器(85年)、紅型(96年)、首里の織物(98年)、読谷山花織(99年)の6件、国選定保存技術には琉球藍製造(77年)があり、工芸技術関係無形文化財の国・県の指定件数は合わせて14件を数える。その質の高さと数において本県は全国トップクラスの工芸王国である。しかしながら、無形文化財を取り巻く社会状況は、戦後の高度経済成長や近代合理主義、高度情報化など生活環境や慣習の変化により、年々厳しさを増している。原材料の確保の問題、高価な手わざの保存・伝承には多くの課題が山積している。

本展示会では、多くの県民に対して無形文化財としての工芸技術の価値を再認識していただく機会を提供するとともに、保持者や伝承者にも作品や成果品の発表の機会を与える。また、県指定無形文化財、国指定無形文化財の保存会、保持団体の枠を越えて、保持者や伝承者が横断的な交流、連携を図ることによって、切磋琢磨し、本県の無形文化財の保存伝承、発展を考える機会とすることを目的とする。

本展示会は沖縄県教育委員会文化課が主管となり、沖縄県無形文化財保存伝承事業の一環として行われるものである。本事業は文化庁の伝統文化伝承総合支援事業の採択を受けたものである。

【開催形式】

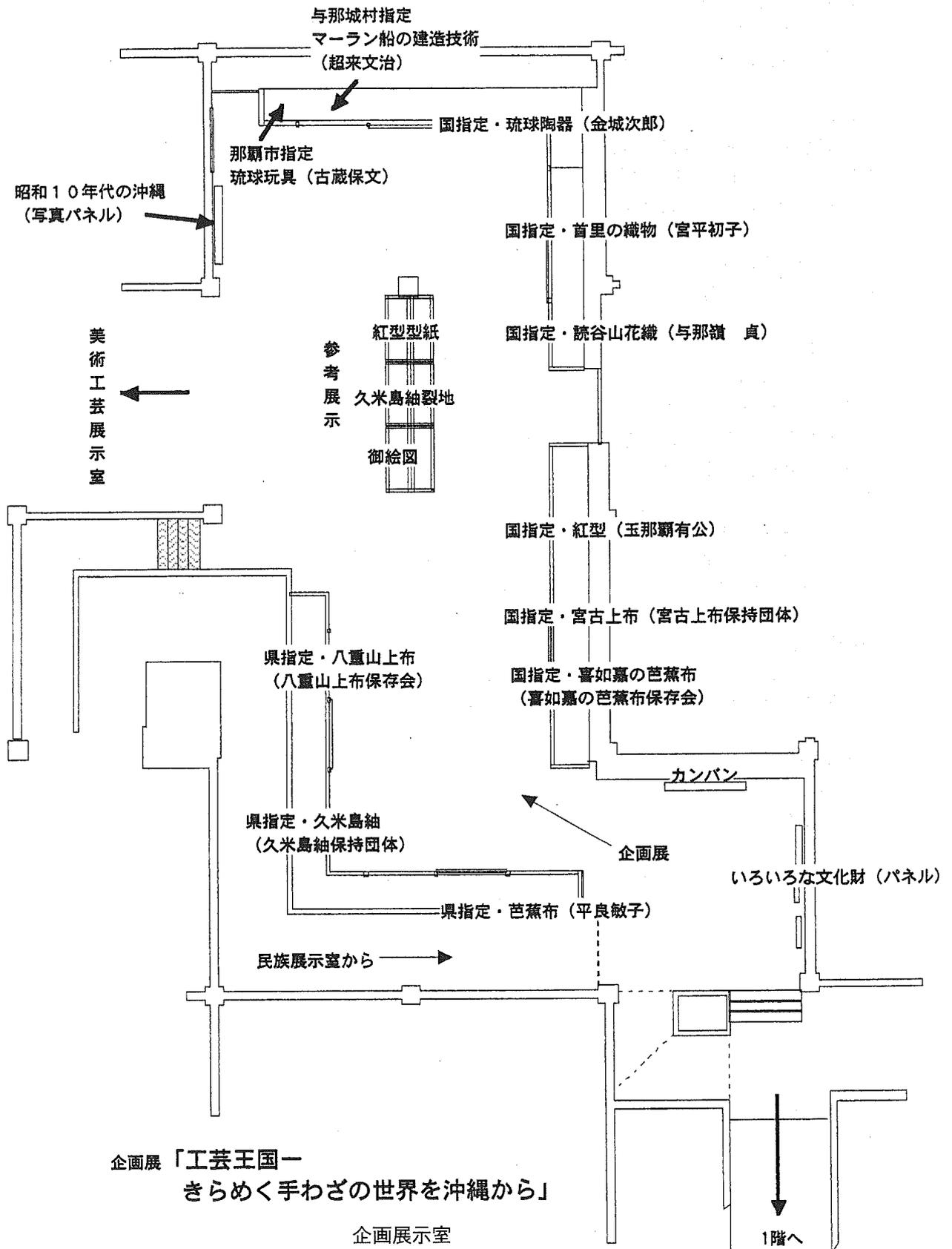
主 催：沖縄県教育委員会・沖縄県立博物館

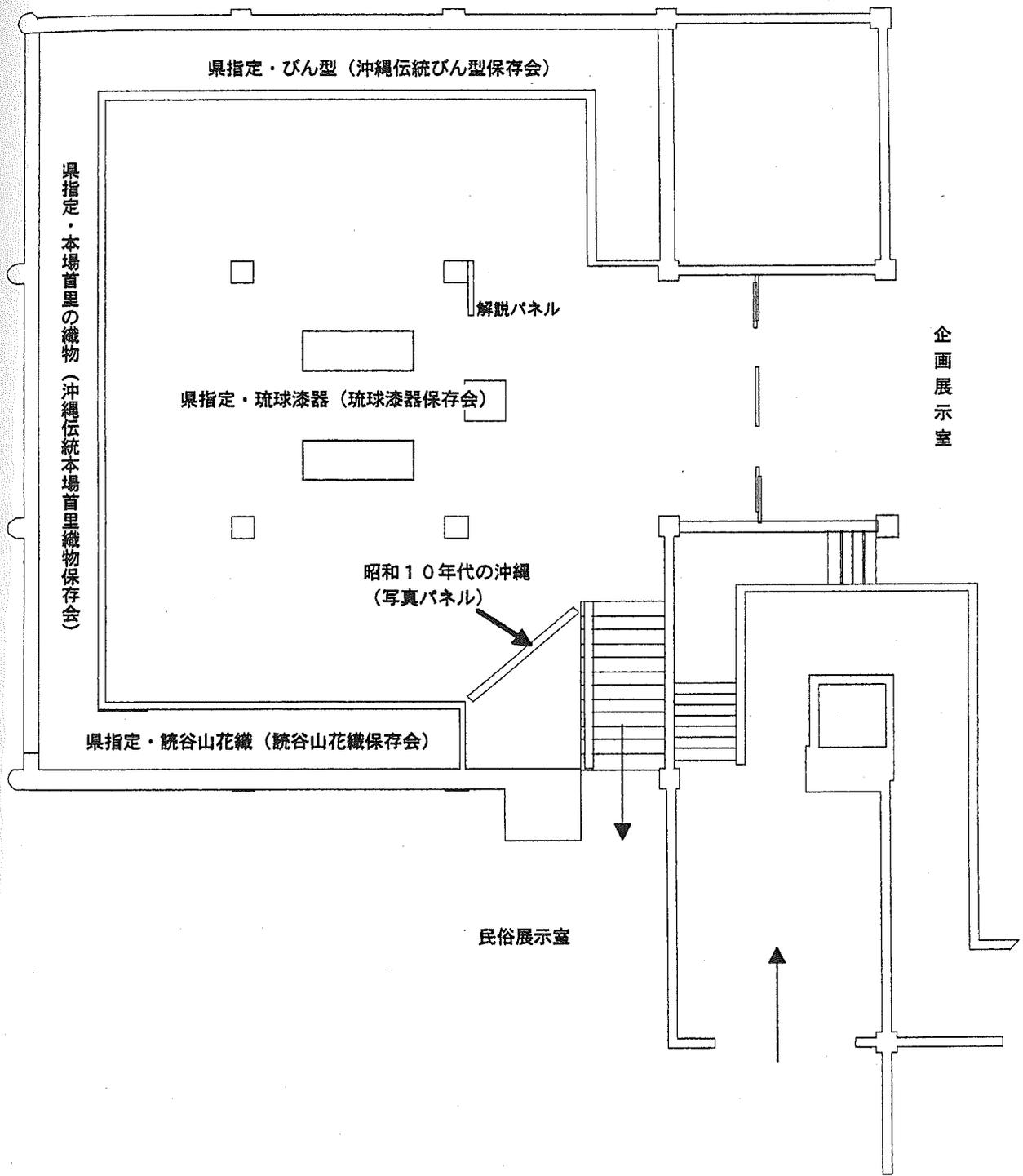
共 催：沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会

【展示内容】

- 1 いろいろな文化財(プロローグ)
文化財の種類を提示し、その概要を示し、無形文化財(国指定・県指定)の意味を伝える。
- 2 きらめく手わざの世界ー県指定ー
沖縄県指定無形文化財(工芸技術)の保持者及び伝承者の作品47点と指定文化財の内容及び工程をパネルで紹介した。
- 3 参考展示
国指定、市町村指定の無形文化財(工芸技術)の保持者の作品10点と指定文化財の内容をパネル等で紹介し、また琉球王国時代の裂や図案、型紙などを参考資料として展示した。

詳細については展覧会図録「企画展 工芸王国ーきらめく手わざの世界を沖縄から」を作成したので、それを参照のこと。





企画展「工芸王国一
 きらめく手わざの世界を沖縄から」
 第3室（美術工芸室）

【関連行事】

特別講演及びシンポジウム

日 時：平成12年2月12日（土） 午後2時～午後5時

場 所：沖縄県立博物館講堂

*特別講演「工芸王国の可能性を探る」

講 師：柳橋 眞（金沢美術工芸大学美術工芸研究所長）

*シンポジウム「工芸王国の沖縄のこれから」

進 行：園原 謙（沖縄県立博物館主任）

パネリスト：近藤都代子（文化庁伝統文化課工芸部門文化財調査官）

祝嶺 恭子（沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会会長）

松田 勲（県指定無形文化財「琉球漆器」伝承者）

和宇慶むつみ（県指定無形文化財「本場首里の織物」伝承者）

宮城 奈々（沖縄県立芸術大学助手）

5 移動博物館

第24回移動博物館（担当：瑞慶山 昇）

会 期：1999（平成11）年10月19日（金）～21日（日）

会 場：上野村営体育館

観覧料：無料

主 催：沖縄県立博物館、上野村、上野村教育委員会

後 援：宮古新報株式会社、株式会社宮古毎日新聞社、宮古テレビ株式会社

【趣 旨】

本県は亜熱帯に属する島嶼県である。その地理的特性を生かし、歴史的に日本本土や中国東南アジアとの交易を盛んに行った地域であり、琉球王国時代から独特の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。そのため沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の自然・歴史・文化」の展示を行っている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない、離島や遠隔地の方々にも、移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第24回目は上野村において開催した。

【内 容】

〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈文化講座〉〈自然観察会〉で構成した。展示は「大むかしの生物」「沖縄の自然と歴史文化」の2つの大きなテーマから構成し展示を行った。また、展示会場にビデオ放映コーナーを4カ所設け、沖縄の伝統文花や自然に関するビデオを放映した。さらに文化講座や自然観察会を合わせて実施した。

【展示会】

会 場：上野村営体育館

会 期：1999年10月19日（金）～21日（日）

対 象：幼・小・中・高校生、一般

入 場：無 料

【ビデオ放映】

内 容 : 大むかしの生物……………「生命」NHK製作
 沖縄の自然と歴史文化 (自然コーナー) ……「東洋のガラバゴス」他
 〃 (歴史コーナー) ……「琉球の風物」他
 〃 (民俗コーナー) ……「琉球の民芸」他

【文化講座】

会 場 : 上野村農村環境改善センター
 日 時 : 1999年10月20日 (土) 午後6時~8時
 講座名 : 「遺跡から見た上野村」
 講 師 : 大城 慧 (沖縄県立博物館学芸課長)



開会式に大勢の子どもたちが出席した

【自然観察会】

日 時 : 1999年10月21日 (日) 午前9時~12時
 対 象 : 学生、一般
 定 員 : 32名
 講 師 : 嵩原 建二 (県立博物館充指導主事)

【入場者数】

展示会	6,466人	
文化講座	44人	
自然観察会	32人	合計 6,542人

【展示品目録】

古代の生物

《骨格標本》

マンモス (複製)、サウロロフス (複製)、タルボサウルスの頭骨 (複製)、リュウキュウヤマガメ、リュウキュウジカの角、リュウキュウムカシキョンの角

《化石標本》

コレニア、アンモナイト、三葉虫

《宮古の化石》

ミヤコノロジカ (複製)、ケナガネズミ骨盤、イノシシ、ハブの脊椎、ハタネズミ、ヤマネコ、オオヤマリクガメ

沖縄の自然と歴史・文化

〔自 然〕

《剥 製》

アカショウビン、オオコノハズク、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、コガモ、コノハズク、サシバ、サンコウチョウ、シロハラ、シロハラクイナ、ズアカアオバト、タゲリ、トラツグミ、シジュウカラ、セッカ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、ヨタカ、リュウキュウヨシゴイ、ツミ、タシギ、カワセミ、シロチドリ、セグロカモメ、キアシシギ、チュウシヤクシギ、アカハラダカ、ムナグロ、アオサギ、イリオモテヤマネコ、オリイオオコウモリ、ケナガネズミ、ハブ、サキシマハブ

《写真パネル》

セマルハコガメ、コノハチヨウ、ヤンバルテナガコガネ、アサヒナマキダラセセリ、イソヒヨドリ、カワセミ、カンムリワシ、クロサギ、コサギ、アカショウビン、コチドリ、ツバメチドリ、ヤンバルクイナ、シロハラ、シロハラクイナ、アオバズク、アオサギ、カラスバト、キンバト、ダイシャクシギ、タゲリ、ケリ、ノグチゲラ、カイツブリ、バン、コミミズク、

ヒヨドリ、ミフウズラ、アカハラダカ、ムナグロ、メジロ、リュウキュウヨシゴイ、マミジロ、ヒバリ、オオチドリ、アマミヤマシギ、アマサギ、キョウジョシギ、キアシシギ、ナミエガエル、ホルストガエル、イリオモテヤマネコ、ケラマジカ、クメトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ

〔考古〕

港川人想定復元全身像（レプリカ）、港川人頭骨（レプリカ）、爪形文土器（野国貝塚群B地点）、カヤウチバンタ式土器、くびれ平底土器、萩堂式土器、伊波式土器、尖底土器、カムイヤキの壺、弥生式土器（佐賀県出土）、線刻石板、炭化米、貝斧、石器、石鏃、自然遺物（貝殻）、高麗瓦、滑石製石鍋、青磁皿（湧田古窯跡）、青磁碗（湧田古窯跡）青磁盤（湧田古窯跡）、染付皿（湧田古窯跡）、染付猪口（湧田古窯跡）、口禿皿（佐敷グスク）、青磁碗（佐敷グスク）、ゴホウラ貝製品（伊是名貝塚）、石器（伊是名貝塚）、土器片（伊是名貝塚）

《パネル類》

発掘のようす（具志川市地荒原遺跡）、古代人の暮らし、層の重なり（今帰仁城跡本殿跡の版築工事）、貝塚の散布状況、渡具知東原遺跡（遠景）、伊是名グスク（遠景）、港川フィッシャー遺跡（近景）、野国貝塚群B地点（近景）、具志川島遺跡群（遠景）伊是名村「ふれあい民俗資料館」所蔵、勝連城跡（近景）、中城城跡（航空写真）、御物グスク（近景）、具志川グスクの鳥瞰図、首里城跡（正殿跡遺構検出状況）、復元竪穴住居跡（仲原遺跡）、イモガイの集積、貝輪装着人骨（具志川島遺跡群岩立地区）、ゴホウラの集積、改葬人骨出土状況（具志川島遺跡群岩立地区）、装身具（貝・骨製品）、沖縄原始・古代史年表、琉球弧の原始古代史、沖縄本島・周辺離島の主要遺跡分布図、貝の道、伊是名村の遺跡分布図、石斧の使用予想図

《書籍》

多良間村の遺跡—村内遺跡詳細分布調査報告書、グスク分布調査報告書—宮古諸島—、詳細分布調査報告書—宮古の遺跡—、宮古平良市 住屋遺跡緊急発掘調査報告書、住屋遺跡（俗称・尻間）発掘調査報告書、砂川元島—個人の土地改良に係わる緊急発掘調査、大牧遺跡・野城遺跡—範囲確認調査報告書—、ピンザアブ—ピンザアブ洞穴発掘調査報告書—、長間底遺跡、宮国元島—宮国元島遺跡調査報告書—

〔歴史〕

《拓本・レプリカ・パネル類》

明孝宗勅諭、万国津梁の鐘（複製）、円覚禅寺記、国王頌徳碑

《古銭類》

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、金円世宝・世高通宝・大世通宝、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永楽通宝、咸豊通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、天聖元宝、嘉泰通宝、開禧通宝、瑞平通宝、元豊通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、咸淳元宝、乾隆通宝、鳩目銭10（一括）、寛永通宝3束

《勾玉類》

リング1（18個連）、リング2（8個連）、リング3（8個連）、リング4（小勾玉にビーズ付き）

《印章》

尚育王の印

《金工品》

かんざし

《古文書・典籍類》

宮古島下地の首里大屋子への辞令書、おもろさうし（複製本）、中山世鑑（複製本）琉球三

省並三十六島図（朝鮮琉球全図）、沖縄志〈巻1・2〉、宮古島郷土誌、独逸皇帝建立記念碑（表）、独逸皇帝建立記念碑（裏）

《写真パネル》

ランドサット沖縄諸島写真

○戦前の沖縄

初代尚円王御後絵（鎌倉芳太郎氏撮影）、知利真良豊見親墓、砂川双紙、首里城正殿（鎌倉芳太郎氏撮影）、円覚寺仏殿・首里那覇全景（鎌倉芳太郎氏撮影）、識名園・玉陵・サーターグルマ・竹製品を運ぶ荷馬車・木臼づくり・壺屋風景・市場風景・魚市・青空教室（坂本七撮影）

○沖縄戦

十・十空襲後の那覇の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、戦闘中の米軍・至近弾をうける、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏をよびかける、軽便鉄道（那覇）、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民

○戦後～現在

戦災をうけた波之上宮、憔悴しきった老人、DDT散布、戦後のヤミ市、城前小学校での演芸会、スクラップブーム、第九回沖縄議会の状況－志喜屋知事、中学生と握手するブース高等弁務官、35 Aサインバーの内部・沖縄市、B52墜落事故、毒ガス輸送、アイゼンハワー大統領来沖（琉球政府ビル前）、主席当選を果たした屋良主席、教公二法、返還協定調印式をテレビで見まもる屋良主席、通貨交換所風景

〔美術工芸〕

《絵画》

李白観瀑図（掛幅装）、琉球風俗画帖（折本）、琉球美女の図（掛幅装）

《漆器》

朱漆山水楼閣人物箔絵湯庫、朱漆山水楼閣人物堆錦椀

《書跡》

中山副使向元模短冊「対句」（掛幅装）、宜湾朝保短冊和歌「梅告春迎」、尚温王書「寿」

《染織》

木綿紺地読谷山花織ティサジ、上布着物（下地恵康作）、上布着物（ムルドウッチリ／大城志津子作）、御絵図（復元）、苧麻浅地流水に貝藻梅楓模様子供着、紅型製作工程写真パネル

《彫刻》

玉陵石獅子レプリカ（一対）

《陶器》

なまこ釉からから、家紋入り嘉瓶、赤絵碗、黒釉流渡名喜瓶、赤絵花鳥文抱瓶、染付山水竹文筒形花生、宮古式土器壺、獅子（島常賀作）、線彫海老魚文壺（金城次郎作）

〔民俗〕

《農具》

宮古ヘラ、ヒラ、ヘラ、マーピラ、ピラ、へら、アサンザニ、カノース、ンプリヤ、堀串

《クバを使用した生活用具》

クバの葉つと、ウブル（ヒロウの釣瓶）、クバガサ、クバうちわ、ヘークルサー、クバの葉の箒、クシンキ（こしき）、ガンシナ

《竹・カヤ等を使用した生活用具》

ムイ（箕）、ミーゾーキー（円箕）、ウーバーラー、ユナバーキ、ツツカサ、ガーマキ、マーグ、ガイジ、マグ・、マグ・、ブーイリマグ、ピラフ（かずら籠）、ススキの箒、アンディラ（編袋）、ツンダーラ（綱俵）、アダン葉ぞうり、アダンの幹製下駄

《玩具等》

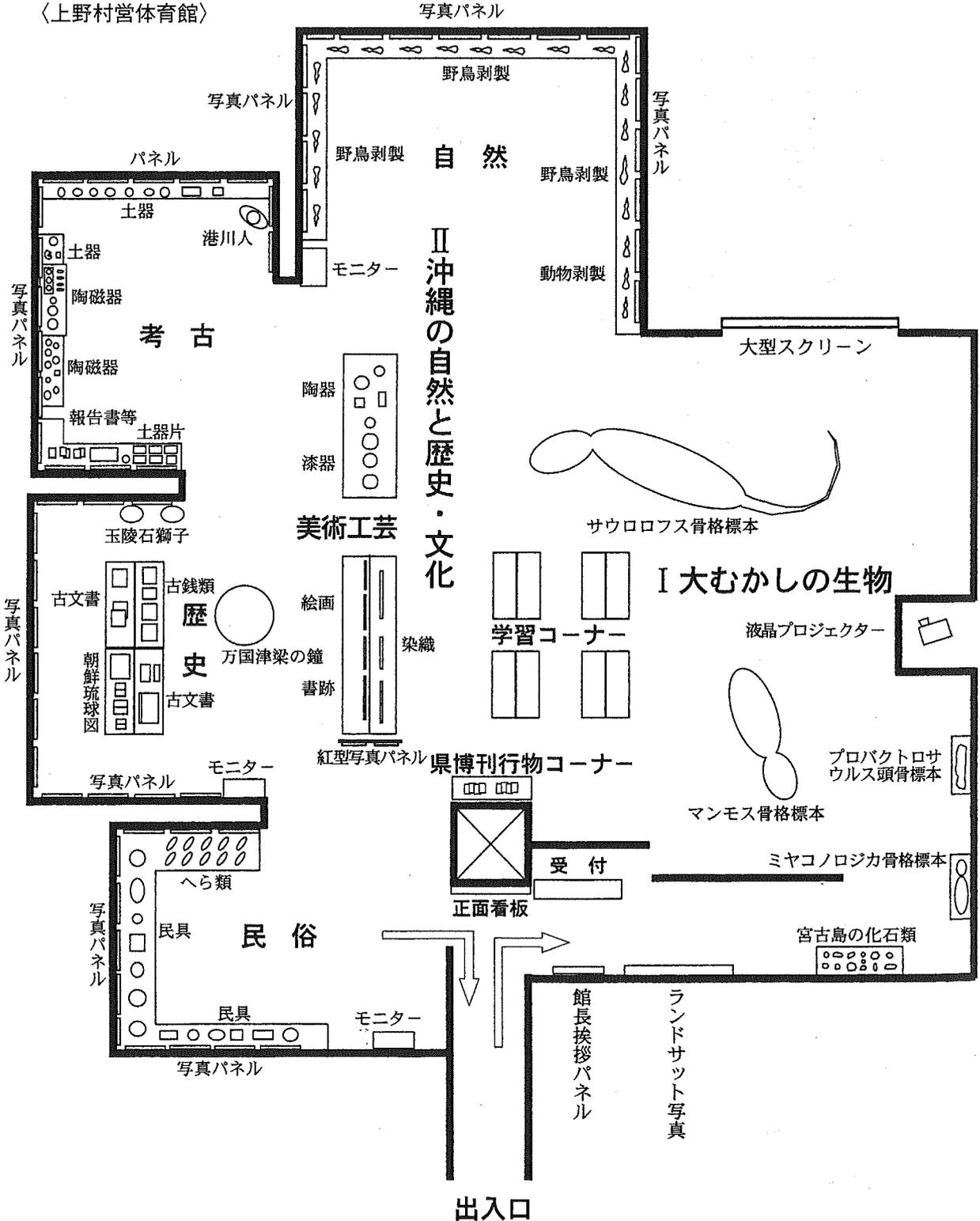
シーサーガウガウ、ホタルかご

《写真パネル》

城辺町のナーパイ、多良間島のスツウプナカ、宮古のウヤガン、来間島のヤーマスプナカ、平良市島尻のパーントゥ、多良間島の八月踊り、十五夜の子どもジシ、ズガモーイ、綱引き綱の準備、サシバと遊ぶ子どもたち、宮里商店前の子どもたち、宮古の人頭石、クバ（ピロウ）、イモ畑

展示略図

〈上野村営体育館〉



V 教育普及活動

1. 教育普及活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎え、博物館に対する県民の関心は日々高まってきている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としているが、同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地球における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的を持って来館している。

このような来館者の要求により多く応えていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきた。平成11年度の大きな特徴としては、緊急雇用対策事業の一環として導入した「親しむ博物館づくり事業」の実施を挙げることができる。この事業により、堅穴式住居・黒糖搾り機・高機・移動用展示セットの製作及び染織の復元が実現し、今後予想される総合的学習などで博物館が学校等を支援していく態勢が整った。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう多彩な事業を計画し実施してきたが、その一つに子供放送局の事業も加わるようになった。

以下、今年度を実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 緊急雇用対策事業「親しむ博物館づくり」の実施
2. 博物館文化講座の実施（特別文化講座を含め291回～299回）
3. 夏休み親子文化講座の実施
4. 子供放送局事業の実施
5. 第24回移動博物館（上野村）の開催
6. 博物館シアターにおける映画の上映
7. 子ども体験学習教室の実施
8. ボランティア活動事業の実施（解説・点字資料の作成・博物館だよりの録音等）
9. 教育普及機器整備事業の実施（点字用機器の導入）
10. 博物館を利用する団体への研修
11. 来館者への展示解説
12. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だよりの編集・発行
13. 学校による博物館学習のための事前打ち合わせ
14. 児童生徒の団体見学へのオリエンテーション
15. 児童生徒への学習相談
16. 団体見学者へのビデオサービス
17. マスコミ等への博物館事業の広報活動
18. 博物館活用を呼びかけのための小中高等学校訪問
19. 講師派遣による学校支援事業（シーサーづくり・黒糖づくり・講演等）
20. 友の会への指導や援助

2 博物館文化講座

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する沖縄の自然・歴史・文化などについて、分かりやすく学習できることを目的に1974年から始まった事業である。原則として、毎月第3土曜日の午後2時から午後4時までの2時間を利用し、当博物館講堂にて行なっている。また、体験学習型の講座形式も取り入れ、屋外での講座も行なっている。

1999年度は文化講座、夏休み親子文化講座をあわせた12回の講座を実施した。企画展「日本の技～伝統のかたち～」展と関連した講座「工芸技術の継承」では、沖縄の工芸年表を元にお話をしていただき、展示内容をより深く理解する上で意義深い講演となった。

本年度は体験型の講座が12講座中7講座あり、半数以上が講堂を離れた講座であった。4月の

「植物観察会」、12月の「南部の遺跡めぐり」、1・2月の「歴史の道を歩く」では、定員数を越える応募があり大変人気があった。

1997年度から始めた「文化講座受講者アンケート」を参考に、年間の講座内容が企画される。これからも受講者の「生の声」を反映させるためにアンケート調査を継続していくつもりである。

第291回「植物観察会」

講師：佐久本 徹（元県立高校教頭）

宮城 朝章（元県立高校教諭）

日時・場所：4月17日（土） 末吉公園

内容：末吉公園の植物を、二つのグループに分かれて小人数で観察する。

参加者：36名（40名の定員）

第292回「沖縄の祖先祭祀をめぐって」

講師：赤嶺 政信（琉球大学助教授）

日時・場所：5月15日（土） 当館講堂

内容：沖縄の祖先祭祀を通史的な視点から観察する。

参加者：173名

第293回「まじないの世界～沖縄の魔除けと呪符の歴史～」

講師：山里 純一（琉球大学教授）

日時・場所：6月19日（土） 当館講堂

内容：沖縄における魔除けやさまざまなまじない習俗について解説する。

参加者：137名

第294回「金属文化の風景～神女の簪や盃を中心にして～」

講師：栗国 恭子（沖縄国際大学非常勤講師）

日時・場所：9月18日（土） 当館講堂

内容：神女の簪や盃、香炉などの金属製祭祀道具について解説する。

参加者：72名

第295回「工芸技術の継承」

講師：上江洲 敏夫（具志川市史編さん室）

日時・場所：10月30日（土） 当館講堂

内容：国指定の重要無形文化財保持者（保持団体）について解説する。

参加者：67名

第296回「南部の遺跡めぐり」

講師：大城 慧（当館学芸課長）

日時・場所：12月18日（土） 那覇市山下町・具志頭村港川等

内容：南部にある遺跡や、現在発掘調査中の遺跡を実際に廻り見学する。

参加者：41名（45名の定員）

第297回「野鳥観察会」

講師：仲宗根 励（沖縄野鳥の会）

山城 正邦（沖縄野鳥の会）

吉里 伸（沖縄野鳥の会）

日時・場所：1月15日（土） 漫湖干潟・瀬長島周辺干潟等

内容：干潟に飛来する野鳥を観察する。

参加者：21名（40名の定員）

第298回「歴史の道を歩く パートⅠ」

講 師：古塚 達朗（那覇市教育委員会生涯学習部文化財課主幹兼文化財係長）
日時・場所：1月29日（土） 当館講堂
内 容：首里近郊の歴史の道を実際に歩く前に、事前学習をする。
参加者：40名

「歴史の道を歩く パートⅡ」

講 師：古塚 達朗（那覇市教育委員会生涯学習部文化財課主幹兼文化財係長）
萩尾 俊章（県教育庁文化課文化財係長）
日時・場所：2月19日（土） 首里周辺
内 容：首里近郊の歴史の道を歩きながら、史跡や文化財を分かりやすく解説する。
参加者：28名（40名の定員）

第299回「アジアの美術館事情」

講 師：前田 比呂也（県文化国際局文化振興課主査）
日時・場所：3月18日（土） 当館講堂
内 容：アジアの美術館・博物館における現状とその課題について解説する。
参加者：21名

3 夏休み親子文化講座

夏休みは、子どもたちが学校を離れ様々なことを学ぶことが出来る絶好の機会であり、同時に親子の触れ合いを深める機会が持てる“時”でもある。この事業は、この様な夏休みを親子で有意義にすごし、あわせて郷土の文化を学ぶ場を提供することを目的に1991年から実施されている。1997年まで「夏休み歩く・見る・作る」教室として行なってきたが、1998年度から名称を変え「夏休み親子文化講座」としている。

原則として、講座は夏休み期間中の土曜日または日曜日の午前9時から午後1時までの4時間とし、場所の指定がない場合は当館講堂を利用している。

1999年度は、「海の危険な生物」、「壺屋を見る・歩く」、「親子戦跡めぐり」の3講座を開催した。

①「海の危険な生物」

講 師：新城 安哲（県立中央保健所主任技師）
島村 賢正（県文化環境部自然保護課主査）
日 時・場所：7月31日（土） 当館講堂、糸満市大渡海岸
内 容：事前学習後、海岸で生き物を観察し、その生態と毒器官、被害の防止法について学ぶ。
参加者：親15名+子ども23名=38名（親子15組 40～45名定員）

②「壺屋を見る・歩く」

講 師：西里 潤（那覇市史跡巡り案内講師）
日時・場所：8月14日（土） 壺屋周辺、那覇市立壺屋焼物博物館
内 容：那覇市立壺屋焼物博物館と壺屋の歴史、文化財を見て学ぶ。
参加者：親8名+子ども9名=17名（親子15組 40～45名定員）

③「親子戦跡めぐり」

講 師：村上 有慶（沖縄職業能力開発短期大学助教授）
日時・場所：8月28日（土） 糸数壕、平和祈念公園等
内 容：南部の戦跡を実際に廻りながら、戦争・平和について学習する。
参加者：親15名+子ども21名=36名（親子15組 40～45名定員）

4 衛星通信を利用した子供放送局

主 催：文部省生涯学習局

受信会場：沖縄県立博物館

[趣旨]

この事業は、完全学校週5日制のスタートまでに地域で子供を育てる環境を整備し、親と子のさまざまな活動を支援する「全国子供プラン」の一環として、文部省により平成11年度から土曜休業日に実施された。

[内容]

子供放送局は、放送をとおして子供たちの「心の教育」や「科学技術への夢をはぐくむ」ことを目的として平成11年7月31日（土）から第2・第4土曜休業日に実施され、スポーツ選手や科学者、ボランティア活動のリーダーたちがそれぞれの分野の魅力について子供たちに語りかける内容となっている。

とりわけ当館においては、沖縄をテーマとした番組の視聴を呼びかけ、広報活動を行ってきた。

10月23日（土）「地方からのたより」

* 首里花織りの製作に情熱を傾ける宮平初子さんの工房に首里の子供たちが訪ねて学ぶ内容となっている。

3月26日（日）「南の宝島・沖縄」（春休み特別番組）

* 沖縄の子供たちが、エイサーや三線などの伝統芸能、海中の生き物やサンゴ礁、沖縄の食の台所「牧志公設市場」や沖縄料理などを紹介する内容となっている。

[総括]

この事業は、衛星通信を利用して子供放送局の番組を多くの子供たちに見ていただくことになっているが、5時間にもわたる長時間の視聴は、子供たちにとっても大変である。

そのため子供たちが、好きな時間に好きな番組を楽しむことができるよう広報活動を推進し、地域の子供たちが楽しく見ていただけるよう配慮することが大切になる。また一方向の放送を双方向でも実施できるよう要望していくことが今後必要になってくると思われる。

5 博物館シアター

映像や音響をとおして、郷土文化と班界の芸術文化を、広く県民に紹介するために実施している事業である。

自然、歴史、文化、民俗、風土などをテーマにした映像、および世界の芸術文化をあつかった映像等の映写会を内容とし、県立博物館講堂において午後2時より実施している。

平成11年度は、中国映画の中から、国際的映画祭で受賞した作品を紹介した「現代中国映画の世界」、童話の名作を紹介した、夏休み親子シアター「アニメで楽しむ童話の名作」、世界の映画史に残る名作を紹介した、「なつかしの名作」の3シリーズ・5本の映画を上映した。また、「なつかしの名作」では、安谷屋真里子（FM沖縄）さんを講師に招き、上映会の前に映画「道」にまつわるお話をしていただいた。

シリーズ〔現代中国映画の世界Ⅱ〕

第43回 期 日：5月16日（日）

映 画：「王さんの憂鬱な秋」カラービスタ148分

内 容： 万年平社員として働かねばならない現代中国の庶民のペースを、その官僚的体質を暴きながら描いた諷刺喜劇。監督は黄健新（ホアン・チエンシ）、共同監督、楊亜州（ヤン・ヤーチョウ）、脚本は黄欣（ホアン・シン）、孫毅安（スン・イーアン）原作、劉醒龍（リウ・シンロン）出演は牛振華（ニウ・チェンホワ）、雷恪生（レイ・コーション）李強（リー・チャン）ほか。94東京国際映画祭再優秀男優賞94第1回珠海大陸・香港・台湾映画祭最優秀作

品賞・男優賞・脚本賞

入場者：62名

第44回 期 日：6月13日（日）

映 画：「女人、四十。」カラービスタ101分

内 容：1995年の作品で、アルツハイマー症の義父をかかえた四十代のメイの奮戦を、コミカルに生き生きと描いた話題作。監督は許鞍華（アン・ホイ）、出演はジョセフィン・シャオ、ロイ・チャオほか。95ベルリン国際映画主演女優賞、95台湾金馬賞グランプリ'95香港金像賞グランプリ

入場者：94名

シリーズ 夏休み親子シアター〔アニメで楽しむ童話の名作〕

第45回 期 日：7月25日（日）

映 画：ミュージカル・ファンタジ「ジャックと豆の木」カラービスタ98分

内 容：名作童話「ジャックと豆の木」をもとに、新しいシナリオで、美しい映像と楽しい音楽のアニメーション。合理的な現代で、「奇蹟」という名の夢もだんだん影がうすくなっている。そんな時代にこの「ジャックと豆の木」は、奇蹟を信じて行動した主人公ジャックの勇気を描いて子供たちに行動することの楽しさ、夢を持つことの素晴らしさを訴えかける作品。

入場者：98名

第46回 期 日：8月8日（日）

映 画：「白雪姫」カラースタンダード82分

内 容：有名なグリム童話の名作で、心のやさしい白雪姫が、7人の妖精たちと幾多の苦難をのり越えながら、王子と出会い幸せになっていく物語。

入場者：98名

シリーズ 〔なつかしの名作〕

第47回 期 日：12月19日（日）

講 師： 安谷屋真里子（FM沖縄）

映 画：「道」モノクロスタンダード108分

内 容：ニーノ・ロータ作曲による主題歌が、あまりにも有名なフェデリコ・フェリーニ監督の作品。人間のエゴと愛の闘いを描きながら、その無垢な魂をたたえた作品で、数々の賞を受賞した傑作。出演、アンソニー・クイン、ジュリエッタ・マシーナ、リチャード・ベイスハート、アルド・シルヴァーニ。54年ヴェニス国際映画祭サン・マルコ銀獅子賞56年ニューヨーク映画批評家協会最優秀外国映画56年アカデミー最優秀外国映画賞各受賞

入場者：154名

6 子ども体験学習教室

〈事業の経過〉

子ども体験学習教室の事業は、平成5年度からから博物館の新規事業として開始本年度で8年目に入りました。

〈趣 旨〉

平成4年度から第2土曜日が学校休業日になり、さらには平成6年度からは第4土曜日も学校休業日となりました。それにともない子どもたちの活動の機会も増えてきた。当館でも「休業日」を利用して子どもたちが郷土や自然、文化を自ら進んで学べるように平成5年度からこの事業をスタートさせた。

ともすれば生活体験の乏しくなりがちな子どもたちに多くの活動体験の場を提供し、心豊かな子どもを育てていくのが本教室の目的です。

〈実施講座〉

「豆とサトウキビづくり」

講 師：仲底善章先生（沖縄県立博物館学芸員）

期 日：4月24日（土）、5月22日（土）、6月13日（日）、7月18日（日）、7月24日（土）、1月22日（土）

場 所：博物館講堂及び体験農場・博物館前広場

参加者：のべ162名

内 容：豆とサトウキビの特性とその栽培方法について学んだ後、実際に農場に出かけ植え付けをおこなった。その後、除草、肥育管理、収穫・調理までの一連の作業をほぼ1年間を通した企画でした。

自分で栽培した豆を使つての豆腐づくりを、昔ながら道具や方法で行いました。前半は大豆の栽培から豆腐づくり過程を、後半はサトウキビの栽培から黒砂糖づくりの過程を学習した。

「イノアの生き物しらべ」

講 師：玉城哲弥先生（琉球大学理学部大学院生）

期 日：5月8日（土）、6月12日（土）、8月8日（日）

場 所：博物館講堂及び北谷町北前海岸

参加者：のべ118名

内 容：ビデオで沖縄の珊瑚礁内に住む生き物について、その特徴や生育環境について、学習した後、北谷町の北前海岸のイノー内で、そこに住む生き物について、実物を見たり手に触れたりして学習を深め、その後自分で採取した生き物について自由研究の為のまとめを行った。

「三線をつくろう」

講 師：比嘉武光先生（比嘉三線店店主）

期 日：8月7日（土）、8月8日（日）、8月14日（土）、8月15日（日）、8月21日（土）、8月22日（日）

場 所：那覇市立小緑中学校技術室及び博物館ロビー

参加者：のべ143名

内 容：ビデオを活用して、三線のルーツや演奏の仕方、製作の工程を学習した後、三線づくりを行った。今回は三線の竿づくりに重点を置いて製作した。希望者についてはチイガ（太鼓）や皮張りの作業工程についても指導・製作をお願いをした。三線の完成後は、受講者全員で簡単な三線の演奏法を学習した後、それぞれの持ち歌を発表し合うことができた。その後、受講者に協力をお願いして、特別展「三線のひろがり可能性展」の1部として特別展示をすることができた。

今回、受講者を中学生以上としたが、参加者の全員が一般の方であった。

「おじいちゃんアンツクを作ろう」

講 師：前盛弘吉（民具伝承研究家）

期日・場所：12月25日（土）、2月12日（土）、2月26日（土）当博物館講堂

参加者：のべ53名

内 容：宮古・八重山地方の代表的な民具である「アンツク」の仕組みやその製作過程を学び、材料づくりから作品を仕上げるまでを行った。今回の最大の課題は、材料のアダナスを使用した縄ない作業であった。受講者の中には、アンツクづくりに必要な縄を全部（120m）をなってきた方をもいた。今回の講座を開始するにあたっては、事前に博物

館ボランティアの皆さんを対象にした「アンックづくり」の講習会を開催して講座開催に備えた。

「竪穴式住居での暮らしを体験しよう」（追加事業）

講師：仲底善章（沖縄県立博物館指導主事）

期日・場所：2月26日（土）～2月27日（日） 当博物館前庭

参加者：のべ28名

内容：緊急雇用対策事業の一環として、当館では「親しむ博物館づくり事業」として「移動用竪穴式住居」を委託製作を行った。今回はその製作物を活用したモデルケースとして「竪穴式住居での暮らしを体験しよう」を計画・実施し、今後予想される学校を対象にした「アウトリーチ活動」の具体的活動のデーター収集の事例とした。

活動の内容としては、竪穴式住居の組み立て・撤収活動、魚のこしらえ活動、火起こし機を活用した火起こし活動、焼き魚・焼き芋づくり、星座観察、住居内での土器を使った煮炊き活動や寝泊まり体験を行った。



豆とサトウキビづくり
（豆打ち体験）



イノアの生き物しらべ

7 ボランティア活動

〈ボランティア活動の事業の経過〉

平成5年7月1日に沖縄県立博物館ボランティア活動実施要項が施行されこれに基づき教育ボランティアと資料ボランティアの育成に努めてきた。教育ボランティアは展示解説・文化講座・子ども体験学習教室・相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的な活動を行う。資料ボランティアは調査研究活動に必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動を行う。ボランティアとして登録出来るものは、ボランティア養成講座を修了した者とし、登録後はボランティア専門講座で研修を重ねながら、活動を続けてきた。

〈趣旨〉

週休2日制が定着しつつあるなかで、生涯学習への要求が高まりつつある。この様な時代に多くの県民に学習の機会を提供し、自己啓発の場とすることを目的として、本事業を実施した。

〈事業の実施〉

ボランティア養成講座を企画し、その修了者の中からボランティアの登録を終え、ボランティア活動の充実を図った。登録者数は4月に37名、9月に40名であった。

1 ボランティア養成講座（受講者55名）講師は県立博物館学芸員

第1回「博物館ってどんなところ？」

講師：伊波 悦子（指導主事）

期日：6月30日

内容：博物館の意味・目的・機能・について。沖縄県立博物館の概要について。

第2回「沖縄の歴史と文化」

講師：大城 将保（館長）

期日：7月7日

内容：琉球の歴史を先史時代から戦後・復帰に至るまで分かり易く区切り、また沖縄県の特徴・地理的特徴をユーモアたっぷりに語った。

第3回「沖縄の染織について」

講師：與那嶺一子（主任学芸員）

期日：7月14日

内容：染織の素材、織り方・加飾の方法など実物資料を見せながら解説した。

第4回「地域と博物館」

講師：前田 真之（教育普及課長）

期日：7月21日

内容：地域と博物館を結ぶものはボランティア。勇気度テスト自己紹介等。

第5回「野鳥の話」

講師：嵩原 建二（指導主事（学芸員））

期日：7月28日

内容：沖縄の野鳥・県立博物館の収蔵資料を紹介。

第6回「民俗室再発見」「三線の歴史と三線を奏でる」

講師：仲底 善章（指導主事（学芸員））・宮城 鷹夫（三線演奏者）

期日：8月4日

内容：民俗室解説と三線展開催に伴い三線の話と歌を合唱する。

第7回「勅諭など指定文化財」

講師：園原 謙（主任（学芸員））

期日：8月11日

内容：文化財の種類を分類して解説。最新指定の明孝宗勅諭を紹介。

第8回「美術工芸について」

講師：瑞慶山 昇（指導主事（学芸員））

期日：8月18日

内容：沖縄の陶器の歴史と琉球の古窯について

2 ボランティア専門講座

登録ボランティアに対しさらに専門知識を身につけるための講座を開設する。

月日	演 題	講師名	備 考
10/1	ヘビの話	吉田朝啓	沖縄大学教授
10/8	斎場御嶽・金の勾玉へのロマン	宮城鷹夫	南部連合文化協会会長
10/15	歴史の中の自治体	仲地 博	琉球大学教授
10/22	刀鍛冶見学	兼濱清周	刀鍛冶師
11/5	沖縄の信仰と祈り	宮城鷹夫	南部連合文化協会会長
11/12	漆の模様	上原昭男	琉球漆株式会社
11/19	首里王府の役人の暮らしと知恵	宮里朝光	郷土歴史家
11/26	考古の楽しさ 浦添ようどれ見学	宮里信勇	浦添市文化課専門員

8 支援活動

団体への学習支援

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然に対する関心は児童生徒のみならず多くの階層にまたがってきている。そのためそれぞれのニーズに対応した形で研修を進めていくことが課題となってきた。

1 小中学校への取り組み

- 小中学校の児童に対しては、見る・触る・体験するの五感を活用した学習を展開するため、とりわけ3年生を対象とする資料などを収集し、学習で活用してきた。
- 3年生の博物館学習が定着してきた。
- 暮らしの道具を使う中から学習課題等について理解が深まるよう取り組む。
- 緊急雇用対策事業で製作した黒糖搾り機・高機・堅穴住居・移動式展示セットをもとに、学校を支援する態勢が整ってきた。

2 高等学校への取り組み

- 県立学校長会で博物館利用の呼びかけを行う。
- 南部農林高校は、学校行事の一環として博物館を見学した。
- 県外高校生の博物館学習は、班別・テーマ別学習の形態を取るようになってきており、博物館の担当者によるコーディネートにより、きめ細かく対応できるようになった。

3 企業等による博物館研修

- 平成7年度に行われた琉球銀行の新入行員研修では博物館を活用した郷土学習が行われたが、平成11年度は博物館と連携した形での企業研修は実施されなかった。

4 デイ・サービス事業等の一環としての博物館来館

- デイ・サービスの一環として来館された団体が、平成11年度は6団体あった。
- 休息なしの長時間見学は無理なので、リラクゼーションの観点から今後博物館がどのような対応を取れるのか検討を要する。

VI 博物館実習

県内の3つの大学では、現在、博物館学芸員資格取得のための博物館学の講座が開設されているところである。本館では平成5年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度からは沖縄国際大学の学生を実習生として受け入れることになり、さらに平成7年度から琉球大学でも同科目が開設されたことに伴い、実習生を受け入れてきた。

県内大学からは琉球大学、沖縄国際大学、沖縄県立芸術大学の3大学からの学生を対象とし、県外大学からの実習生については、地元出身の学生を対象として受け入れてきた。

平成10年度までに県内外の大学から139名の実習生を受け入れ実習指導を行ってきた。

平成11年度は、琉球大学10名、沖縄国際大学10名、沖縄県立芸術大学15名の他に九州大学1名、東洋大学1名、桜美林大学1名、東北芸術工科大学1名の合計39名を受け入れて実習を行った。

実習した科目と指導学芸員及び実習期間と実習生は下記のとおりであった。

実習科目と指導学芸員

- ①博物館の管理運営（大城 将保）
- ②博物館関係法規・組織・博物館関係団体（新垣 隆雄）
- ③博物館の予算・経理（新垣 隆雄）
- ④保存施設と保存環境（真保栄 勝）
- ⑤民俗資料取扱実習（太田 健一・多良間利絵子）
- ⑥美術工芸資料（漆器・陶器・書画）の取扱実習（津波古 聰）
- ⑦展示解説の実際と教育普及補助業務（上原 敏子・喜久川智子）
- ⑧歴史資料の取扱実習（園原 謙）
- ⑨博物館資料受入・整理（津波古 聰・與那嶺一子）
- ⑩美術工芸資料（染織・書跡）取扱実習（與那嶺 一子）
- ⑪教育普及の考え方と実際（前田 真之・伊波 悦子）
- ⑫教育普及活動・（瑞慶山昇・伊波悦子・仲底善章）
- ⑬博物館資料取扱実習（展示会の準備と片付）（津波古 聰）
- ⑭博物館資料取扱実習（髙原 建二・神谷 厚昭・与那城 善春）
- ⑮博物館資料取扱実習（津波古 聰・太田 健一・與那嶺一子・与那城義春）
- ⑯博物館活動の概要（大城 慧）
- ⑰学芸業務の考え方と実際（大城 慧）
- ⑱考古資料の取扱実習（大城 慧）
- ⑲自然史資料取扱実習（動物）（髙原 建二）

実習期間

- 第1回 琉球大学・九州大学
平成11年7月12日（月）～7月23日（金）
- 第2回 沖縄国際大学・東洋大学・桜美林大学・東北芸術工科大学・大阪学院大学
平成11年8月30日（月）～9月10日（金）
- 第3回 沖縄県立芸術大学
平成10年10月18日（月）～10月29日（金）

実習生

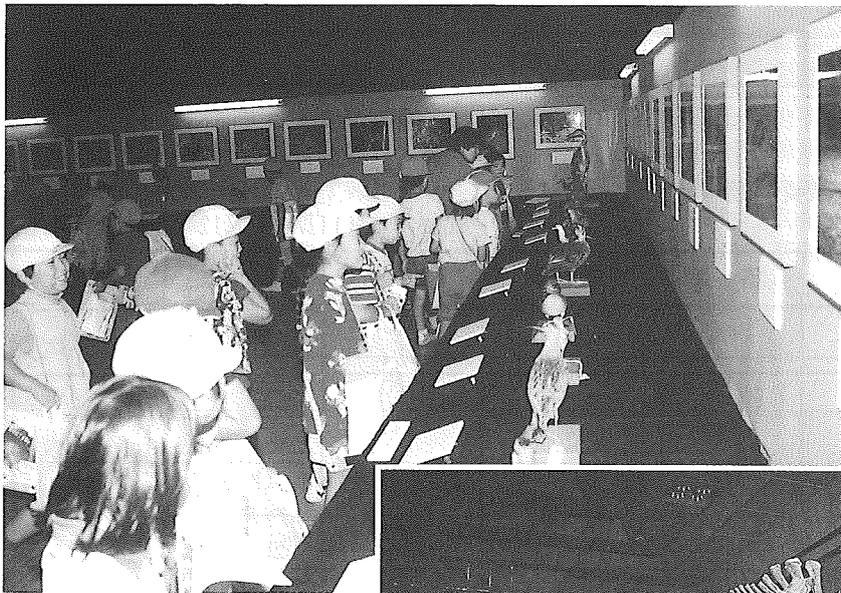
- 第1回 琉球大学（10名）・九州大学（1名）
- | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|------|--------|
| 桑原 孝浩 | 琉球大学 | 東洋史 | 青山 洋昭 | 琉球大学 | 生物学 |
| 小峰 果林 | 〃 | 考古学 | 大島 千枝 | 〃 | 〃 |
| 菅 綾子 | 〃 | 〃 | 島袋 暁匡 | 〃 | 〃 |
| 中山 晋 | 〃 | 〃 | 仲村 友希 | 〃 | 生産環境学科 |
| 野田しのぶ | 〃 | 〃 | 銘苺かおり | 九州大学 | 植物資源科学 |
| 保良 奈々 | 〃 | 社会人類学 | | | |

第2回 沖縄国際大学(10名)・東洋大学・桜美林大学・東北芸術工科大学・大阪学院大学 (各1名)

富山 勇	沖縄国際大学	玉城 明香	沖縄国際大学
慶 由紀子	〃	當間 仁美	〃
宜保 章太	〃	小那覇裕子	〃
新城 明彦	〃	譜久山聡子	東洋大学
山城麻理子	〃	安里真理子	桜美林大学
諸見 優子	〃	渡嘉敷麻幹子	東北芸術工科大学
井上 美里	〃	吉元 裕香	大阪学院大学

第3回 沖縄県立芸術大学 (15名)

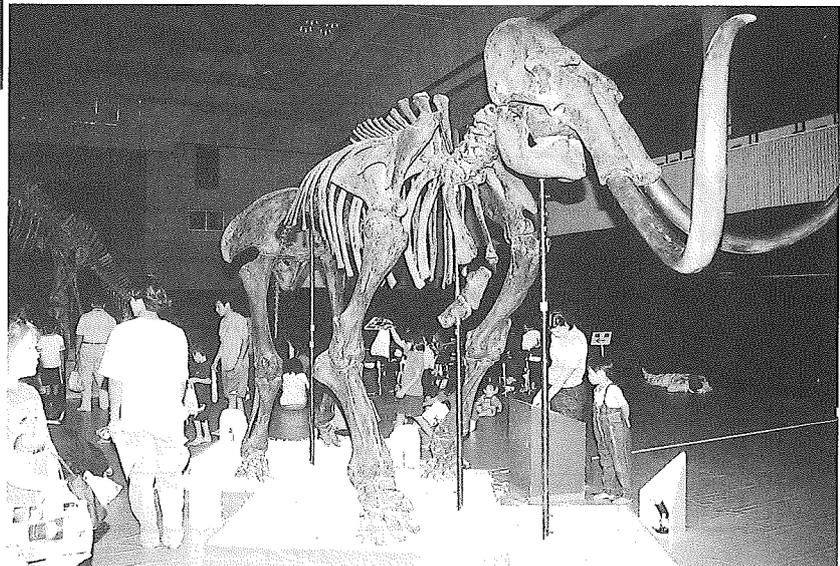
本部 恭子	沖縄県立芸術大学	芸術学	知念 克之	沖縄県立芸術大学	絵 画
宮城 陽	〃	〃	仲宗根真実	〃	〃
森 結城	〃	〃	伊禮はるか	〃	芸術学
工藤久美子	〃	工 芸	上原麻里枝	〃	〃
西村 美穂	〃	〃	田中 綾子	〃	〃
安谷屋陽子	〃	絵 画	仲嶺絵里奈	〃	〃
池村 卓治	〃	〃	末宗 智彦	〃	工 芸
平良 優作	〃	〃			



自然コーナーの剥製に見入る子どもたち

移動博点描

大迫力のマンモスの骨格標本



Ⅶ 資料の収集・保存管理

1. 収蔵資料現在高

平成12年 3月31日現在

分 類		購 入	寄 贈	収 集	移 管	小 計	総 計
自然史	地 質	602	25,429	6	2	26,039	46,830
	動 物	1,105	18,321	487	13	19,926	
	植 物	15	850	0	0	865	
美術 工芸	絵 画	81	519	5	0	605	10,009
	書 跡	511	868	48	3	1,430	
	彫 刻	5	114	132	0	251	
	陶磁器	442	3,287	249	495	4,473	
	漆 器	240	203	162	0	605	
	染 織	1,090	1,544	10	0	2,644	
	工 芸	0	1	0	0	1	
歴史資料		2,457	6,219	339	125	9,140	9,140
考古資料		8	3,583	975	15	4,581	4,581
民俗資料		543	3,400	582	78	4,603	4,603
総 計		7,099	64,337	2,995	731	75,162	75,163

2. 平成11年度（1999）新収蔵資料高

平成11年 4月1日～平成12年 3月31日現在

分 類		購 入	寄 贈	収 集	移 管	小 計	総 計
自然史	地 質					0	38
	動 物		31	7		38	
	植 物					0	
美術 工芸	絵 画					0	10
	書 跡		5			5	
	彫 刻					0	
	陶磁器					0	
	漆 器					0	
	染 織	3	2			5	
	工 芸					0	
歴史資料		1	176			177	177
考古資料						0	0
民俗資料			23	1		24	24
総 計		4	237	8	0	249	249

3. 平成11年度（1999）新収蔵資料目録

【寄贈の部】

（平成11年4月1日～平成12年3月31日）

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地	
自然史	動物	アオバト（本剥製）他	19	沖縄子ども国	沖縄市
	〃	オオクイナ（本剥製）他	2	西表野生生物保護センター	竹富町
	〃	ヤンバルクイナ（本剥製）	1	国頭村教育委員会	国頭村
	〃	ギンムクドリ（本剥製）	1	松田	
	〃	マミチャジナイ（本剥製）他	2	西里正善（波照間中学校）	竹富町
	〃	イシガキシジュウカラ（本剥製）	1	本成尚（石垣少年自然の家）	石垣市
	〃	キセキレイ（本剥製）他	2	奥戸晴夫（舟浮中学校）	竹富町
	〃	インコ（本剥製）	1	通産省	
	〃	アオバト（本剥製）	1	我孫子市鳥の博物館	千葉県
美工	書跡	紙本墨書「依徳楽藝」他	5	我喜屋久美子	那覇市
	染織	芭蕉布型染（座布団地）他	2	阪谷 澄子	鎌倉市
歴史資料		琉球臨時中央政府発行の辞令書他	3	島袋正光	東風平町
	〃	沖縄医生教習所記念碑	1	宗教法人 波之上宮	那覇市
	〃	太刀「備州長船家近」他	30	文化庁	東京都
	〃	新作金波浄瑠璃集他	9	讚井 正美	西原町
	〃	計算機	2	宮城 久	那覇市
	〃	関帝王御画像（柳光観筆）	1	仲村 亀松	沖縄市
	〃	「雄飛」（33号・36号・42号）	3	石川 友紀	那覇市
	〃	琉球切手	61	福地 茂雄	埼玉県
	〃	琉球絵はがき（坂本商店発行）	18	中村 佳子	熊本市
	〃	戦前の写真	4	屋宜 宣雄	那覇市
〃	レコードLP盤	44	下地 克佳	那覇市	
民俗資料		ジュラルミン製羽釜（蓋なし）他	2	下地 由子	平良市
	〃	柳行李（麻布掛け）他	2	石川 勝規	那覇市
	〃	曲玉（ヒスイ製）	1	宮里 尚武	那覇市
	〃	膳（大）他	7	神村 真紀子	浦添市
	〃	勤王流の若衆用髪飾一式他	10	黒島 直昭	那覇市
	〃	三線「江戸与那型」	1	名護千代子 名護えりな	具志川市

【収集の部】

分類	品名	数量
動物	ヒクイナ	1
	ヤンバルクイナ	1
	カラスバト	1
	ジョウビタキ	1
	ムラサキサギ	1
	アイゴ	1
	タカサゴ	1
民俗資料	位牌	1

【購入の部】

分類	品名	数量
染織	木綿白地飛鳥に流水蛇籠葵菖蒲文様衣裳（レプリカ）	1
	麻白地総緋着物（レプリカ）	1
	浦添型見本	1
歴史資料	西洋船の図（レプリカ）	1

5 収蔵資料整理事業（担当：髙原建二・津波古聰・太田健一）

1 事業の目的と経過

沖縄県立博物館は、沖縄陳列館（昭和20年開館）を前身として55年の歴史を有し、現在74,930件の資料が収蔵されている。この約50年間に合併、移転さらに復帰による機構改革などにより、収蔵資料の管理においては未整備の状況が見られる。このことから平成12年以降の新館開館移転のために、統一された収蔵資料の整理を早急に行うことが求められ、未登録資料の整理登録、収蔵資料の整理・保管等収蔵資料の移動にもれがないような効率的な移転準備作業の一環として、収蔵資料整理作業は取り組まれた。特に収蔵する厨子甕の実測整理や収蔵古写真の複製と分類・整理等については、委託業務として実施した結果、分類・整理作業にかなりの進捗が見られる。

また、マルチメディア時代に対応して、県民及び来館者のニーズに答えるためには、収蔵品台帳や原簿等による収蔵資料の管理保管だけでなく、博物館情報のネットワーク化を推進していくことが不可欠である。このことから利用に応じた収蔵資料一覧表の作成や収蔵資料の検索等が可能になるように平成6年度に収蔵資料管理システムを構築し、収蔵品台帳等収蔵資料管理の電子化（コンピュータ化）をすすめてきた。その整備過程においては充実した機材等のハードウェア整備とともに、それを機能させるソフトウェアと収蔵資料情報となる文字データ及び画像データの充実が必要であり、収蔵資料管理データベースの充実を図るためデータ入力等の作業を継続的に行ってきた。

2 事業の内容

◎収蔵資料整理作業

収蔵資料の台帳整理・未登録資料の分類・整理登録

収蔵資料へのナンバーリング

保管庫・整理棚の設置（プレハブリース・棚の製作）

各分野整理棚製作（委託）

写真パネル等の作成・整理（委託）

厨子甕の実測・整理作業（委託）

自然史標本（剥製）の作成（委託）

◎台帳電子化（コンピュータ化）作業

データベースシステムの開発・導入・運用

システムのハード機器及びソフトウェアの整備

収蔵資料データ入力（文字・画像データ）等データ整備

台帳原簿の印刷

◎写真撮影及び写真整理作業

収蔵資料（重要資料）の写真撮影と写真・フィルムの整理・保管

収蔵古写真の複製・整理作業

歴史資料のマイクロ化

3 平成11年度事業実績

(1) 資料整理作業

◎各分野収蔵資料の分類・整理作業（台帳照合及び未登録資料の整理等）

◎考古資料の分類・整理作業

◎自然史資料（液浸標本）の保管・管理（保存液の交換）

◎自然史資料（剥製）の製作（委託）

(2) 台帳電子化（コンピュータ化）作業（委託）

◎収蔵資料管理用データベースシステムの整備

◎収蔵資料管理用データベースへのデータ入力（図書受入資料・新収蔵資料）

◎データベースシステムの点検・拡張

6 資料貸出

- (1) 展示会名：常設展「日本文化のあけぼの」
主 催：国立歴史民俗博物館
開催場所：同 上
貸出期間：平成11年4月1日～平成12年3月31日
貸出資料：考古資料／市来式土器
- (2) 展示会名：「ジャパン・カルチャー・フェア」
主 催：財団法人 エム・オー・エー美術文化財団
開催場所：ペルー国立博物館
貸出期間：平成11年5月10日～平成11年7月10日
貸出資料：美術工芸資料／新垣栄三郎作「赤絵面取抱壺」 他9件
- (3) 展示会名：組踊創始280年記念『組踊特別鑑賞会』に伴う展示
主 催：沖縄県 沖縄県教育委員会
開催場所：沖縄県郷土劇場ロビー
貸出期間：平成11年6月17日～6月19日
貸出資料：写真パネル／江戸上り行列図 他2件
- (4) 展示会名：「沖縄戦」
主 催：浦添市立牧港小学校
開催場所：同 上
貸出期間：平成11年6月21日～平成11年6月25日
貸出資料：写真パネル／沖縄戦に関するパネル 10点
- (5) 展示会名：「ジャパン・カルチャー・フェア」
主 催：財団法人 エム・オー・エー美術文化財団
開催場所：那覇市伝統工芸館
貸出期間：平成11年7月11日～平成11年7月18日
貸出資料：美術工芸資料／新垣栄三郎作「赤絵面取抱壺」 他9件
- (6) 展示会名：「日本のわざと美」展－重要無形文化財とそれを支える人々－
主 催：文化庁・宮崎県・宮崎県教育委員会・宮崎県立美術館・富山県教育委員会・富山県水墨美術館・読売新聞北陸支社・富山テレビ放送
開催場所：宮崎県立美術館／富山県水墨美術館
貸出期間：平成11年9月2日～12月3日
貸出資料：美術工芸資料／金城次郎作「指描耳付大壺」
與那嶺貞作「木綿紺地格子緯緋緯浮花織衣裳」
- (7) 展示会名：「絹の染織工芸展」
主 催：群馬県・群馬県教育委員会・群馬県立近代美術館・桐生市
開催場所：桐生市市民文化会館
貸出期間：平成11年9月30日～11月24日
貸出資料：美術工芸資料／與那嶺貞作「絹紺地緋に緯浮花織着物」
- (8) 展示会名：企画展『沖縄の伝統工芸展』
主 催：みやざき歴史文化館
開催場所：同 上

貸出期間：平成11年10月4日～平成11年12月1日
貸出資料：美術工芸資料・民俗資料／芭蕉布絁着物 他54件

- (9) 展示会名：「第4回玉城公民館まつり」
主 催：玉城村史編集室
開催場所：玉城村中央公民館
貸出期間：平成11年10月21日～平成11年10月27日
貸出資料：写真パネル／糸数城 他2件
- (10) 展示会名：特別展「大城志津子の手と目」
主 催：沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館
開催場所：同 上
貸出期間：平成11年10月28日～平成11年11月12日
貸出資料：美術工芸資料／大城志津子作「タペストリー「未知」」他7件
- (11) 展示会名：特別企画展「しあわせ博物館－夢と招福のスタイル－」展
主 催：「しあわせ博物館」展実行委員会
開催場所：福岡市博物館
貸出期間：平成11年11月20日～平成12年2月2日
貸出資料：民俗資料・美術工芸資料／アンガマ面 他10件11点
- (12) 貸出理由：「瑞泉門石獅子」の復元整備工事に伴う調査
貸出先：沖縄開発庁沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所 首里出張所
貸出期間：平成11年12月8日～平成12年3月8日
貸出資料：美術工芸資料／瑞泉門石獅子遺物 2点
- (13) 展示会名：企画展示『新弥生紀行－北の森から南の海へ－』
主 催：国立歴史民俗博物館・朝日新聞社
開催場所：国立歴史民俗博物館
貸出期間：平成11年2月24日～平成12年4月30日
貸出資料：考古資料・自然史資料／沖縄県八重島遺跡出土蝶形骨製品 他5件
- (14) 展示会名：茨城県陶芸美術館開館記念「人間国宝展－技と美を極めた匠たち－」
主 催：茨城県陶芸美術館
開催場所：同 上
貸出期間：平成12年3月20日～平成12年6月30日
貸出資料：美術工芸資料／金城次郎作「指描耳付大壺」「線彫魚文大壺」

7 燻蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈ならびに収集活動で得た文化財などの資料が7万5千余ある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の燻蒸による害虫駆除を年1回実施している。

平成11年度は5月31日から6月4日までの期間を閉館し実施した。

地下・1階・2階の各収蔵庫のほかに、各展示室、首里城正殿模型、扁額「徳高」、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって燻蒸し、その他の事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行った。

VIII 刊 行 物

刊 行 物 名	種 類	部 数	規 格 (頁)	内 容
沖縄県立博物館年報No.32 (平成10年度版)	定 期	1,000	A4 (80)	前年度の当館の活動状況や概要
沖縄県立博物館紀要 第26号	定 期	1,000	B5 (219)	学芸員の調査研究報告書
特別展「三線のひろがりと可能性展」図録	不定期	1,000	A4 (79)	8月3日から9月5日まで開催された特別展の図録
企画展「平成10年度新収蔵品展」図録	定 期	1,000	A4 (18)	10年度に寄贈・購入・収集等で収蔵された資料を紹介する企画展の図録
企画展「日本の技—伝統のかたち」図録	不定期	1,000	A4 (59)	10月26日から11月7日まで開催された同企画展の図録
平成11年度子ども体験教室	定 期	1,000	A4 (102)	11年度の教育普及事業としての児童生徒を対象とした体験学習の記録
平成11年度ボランティア活動	不定期	1,000	B5 (80)	11年度のボランティア活動記録集
博物館だより No.42	不定期	1,500	A4 (4)	当館の行事等を紹介する広報誌
博物館だより No.43	不定期	1,500	A4 (4)	〃
年間行事案内リーフレット	定 期	10,000	変形 A4	当年度の年間行事案内
年間ポスター	定 期	1,000	B2 変形	当年度の年間行事案内
日本文リーフレット	定 期	66,000	変形 A4	当館の展示内容紹介
英文リーフレット	定 期	66,000	変形 A4	当館の展示内容紹介
第24回移動博物館リーフレット	定 期	4,000	B5 (12)	上野村で開催された移動博で展示する資料を紹介したリーフレット

IX その他の活動

1 沖縄県博物館協会（沖博協）

平成11年度の沖博協総会・春期研修会は、6月24日（木）～25日（金）、石垣市立八重山博物館において開催され、北は奄美の瀬戸内町から、南は八重山の小浜島まで、47名の参加があった。

総会では、例年の議題に加えて会則改正の審議がなされ、会費の条項が改正になった。引き続き前会長當間一郎（元沖縄県立博物館館長）への感謝状授与、新規加盟館の紹介と新役員の選出を行った。

講演は石垣市文化協会会長の森田孫榮先生の「八重山の文化」と、八重山博物館の黒島為一館長の「八重山の歴史」の2本立て。いずれも日頃の研究に裏打ちされた実のある内容で、時間が不足だった。講演に引き続き八重山博物館の見学。八重山文化独特の展示を、短時間だが楽しく見学できた。また、アジアの凧展が開かれていて、珍しい各国の凧も見学でき有意義だった。

懇親会は、芸能の島八重山の本領を發揮し、喜宝院蒐集館の上勢頭芳徳氏の名司会の下、歌あり踊りあり酒ありの楽しい夕べであった。大浜長照石垣市長も参加し、大きく盛り上がった懇親会だった。関係各位に多謝。

翌日は黒島館長案内で石垣市内を研修。まず南嶋民俗資料館で崎原氏の説明を堪能、続いて石垣市文化課の下地氏の説明でフルスト原遺跡を、山内氏の説明で竜宮城鍾乳洞を鑑賞、バナナ岳の展望台から沖縄一の於茂登岳、川平半島、遠く西表島などを眺め、八重山民俗園に行った。ここでは、古き時代の民家を移築したものを見学、昼食後、小浜島へ。

小浜島では小浜民俗資料館の慶田盛館長の案内で、島の最高峰ウフダキ（99.4m）に登り、それから、小浜民俗資料館を見学、その後に、細崎、ハイムルプシリゾートを見て、港に向かった。あわただし現地研修で、もう1泊できるような予算がほしいものだとつくづく感じた。

秋期研修会は、9月30日（木）～10月1日（金）の日程で石川市立歴史民俗資料館で、91名の参加を得て盛大に開催された。大城将保会長の開会の挨拶と石川市教育委員会教育長の歓迎の挨拶に始まり、石川市文化財保護委員会委員長の新城紀秀先生の講演に移った。演題は「石川市の昔と今」という題で、間切時代からの石川の起源を、歴史資料により説き明かし、その後の変遷を世界史、東洋史、日本史の流れとからめてわかりやすく語るものであった。ユーモアを交えながらの氏の該博な歴史認識に、参加者は大いに感銘を受けた。また、史跡等を史料を引きつつ、詳しく説明され、とりわけ、戦後間もない頃の文化財保護、文化振興の恩人であるハンナ博士との旧東恩納博物館での出会い（1990）は、氏にとって思い出深かったようで、その業績を讃える話をなさっていた。

講演の後、「平和祈念資料館の展示問題」について、会員の中から緊急提案がなされ、多くの会員の意見を聞いた。その結果、理事会で詰めて、県に対して要請していくことを確認した。その後、懇親会が始まるまで、石川市立歴史民俗資料館を見学、引き続き懇親会に移った。懇親会は宮城文化課長の司会のもと、児童芸能集団「みやらび」のメンバーの可憐にして華やかな三線演奏の歓迎を受け、参加者一同から大いなる喝采を浴た。

2日目は、9時から3時まで現地研修会。コースは、尚泰久墳墓の跡、ウミナイビ墓、伊波貝塚、数明親雲上の墓、伊波城跡、ヌチヌビのガマ、ピオスの丘、嘉手苺観音堂、伊波按司の墓、伊波前原古墳群発掘調査現場、旧東恩納博物館跡、宮森小学校を廻り、たいへん有意義な研修だった。

2 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年の1月に発足してから19年目を迎えた。その間会員も増加の傾向にある。本年は家族会員が70家族となり、家族ぐるみで博物館友の会と関わりを持つ人が増えてきている。また友の会の活動も年間をとおしての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。本年は友の会内部に会則検討委員会が置かれ、活動の効率化という観点から十分な議論が積み重ねられてきた。98年度決算報告書による実績は、8,267,785円

であった。また会員は571名、賛助会員13団体、家族会員70家族となっている。

2000年5月20日（土）には2000年度の総会が本館講堂で開かれ、新役員や予算および事業計画等が審議・決定されて新たな活動を開始した。

99年度に実施した活動の内容と事業内容は次のとおりであった。

1 事業

- (1) 北部自然観察会：5月22日（土）～23日（日） 参加者：23名（子供1名）
環境庁自然保護課野生生物事務所やんばる分室の見学や、琉球大学与那演習林での観察を沖縄県立博物館学芸員の嵩原建二の解説で実施した。
- (2) 浦添グスク跡見学会：6月12日（土） 参加者：29名
浦添グスク跡での見学会を、浦添市教育委員会文化課長の安里進氏の解説で実施した。
- (3) 1700年初めの首里を歩こうー首里古地図により首里の町を探索しようー7月3日（土） 参加者：23名
首里古地図をもとに首里の町を、沖縄県資料編集室の小野まさ子氏の解説で実施した。
- (4) 離島めぐり：7月10日（土）～11日（日） 参加者：39名
伊是名島研修を沖縄県立博物館学芸員与那城義春の解説で、自然観察会及び史跡めぐりを実施した。
- (5) 海外研修旅行：8月1日（日）～8日（日） 参加者：21名
「韓国済州島の旅」を琉球大学教授津波高志氏の解説で実施した。
- (6) 県外研修旅行：9月22日（日）～25日（土）
「南伊予から豊後水道を渡る～地域のくらしと仏教文化」を沖縄県立博物館教育普及課長前田真之の解説で実施する予定であったが、台風のため中止
- (7) 南部のグスクめぐり：9月19日（日） 参加者：35名
南部のグスク（御物グスク・具志川城趾・真壁グスク等）を沖縄県立博物館学芸課長大城慧氏の解説で実施した。
- (8) 民俗探訪：9月25日（土） 参加者：10名
糸満市真栄里の綱引き見学を友の会我如古弥永氏の解説で実施した。
- (9) 民俗探訪：10月2日（土） 参加者：33名
久高島の史跡めぐりを友の会我如古弥永、新城安哲両氏の解説で実施した。
- (10) 収蔵品解説会：11月13日（土） 参加者：13名
沖縄県立博物館所蔵の漆器を沖縄県立博物館学芸員の津波古聰の解説で実施した。
- (11) 豊見城村文化財めぐり：11月27日（土） 参加者：24名
豊見城村内の文化財めぐりを阿波根直孝氏の解説で実施した。
- (12) 文化キャラバン隊（上野村）：11月19日（金）～21日（土） 参加者：7名
上野村で開催された移動博物館の文化キャラバン隊として参加し、受付や解説の補佐を行った。

- (13) 那覇市内史跡めぐり：12月5日（日） 参加者：23名
「小禄マーイ」をテーマに那覇市教育委員会古塚達朗氏の解説で実施した。
- (14) 海外研修旅行：12月4日（土）～12月11日（土） 参加者：18名
「ヨーロッパ西洋美術館と歴史」をテーマに沖縄県立博物館学芸員瑞慶山昇の解説で実施した。
- (15) 浦添グスク跡見学会：1月29日（土） 参加者：24名
「浦添ようどれ」発掘調査現場見学会を浦添市教育委員会安里進氏の解説で実施した。
- (16) 展示解説会：2月12日（土） 参加者：22名
「工芸王国～きらめく手わざの世界を沖縄から」展の展示解説を沖縄県立博物館学芸員與那嶺一子の解説で実施した。
- (17) 植物観察会：3月4日（土）～5日（日）
石川少年自然の家での自然観察会を同自然の家所長日越國昭氏と沖縄県立博物館学芸員与那城義春の解説で実施の予定であったが、雨のため延期。
- (18) 民俗探訪：3月11日（土） 参加者：24名（子供2名）
久高島の史跡めぐりを友の会我如古弥永、新城安哲両氏の解説で実施した。

2. 会員への情報提供

- 博物館事業及び催し物の案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

3. 会誌（博友）14号・会報（赤い瓦）20号の発行

4. ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・玩具・テレホンカード・フィルム・飲み物等の販売サービス

5. その他

- サークル活動：歴史サークル、グスクサークル、民俗サークル
- 総会及び懇親会（1998年5月18日）参加者：63名
- 新年会（1999年1月18日）参加者：42名

X 関係法規抄録

○博物館法 昭和26.12. 法律第285号
〔最近改正〕 平成11.7.16 法律第87号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

(1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。

(2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。

(3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に關し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。

(4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

(5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。

(6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

(7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

(8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。

(9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

(10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- (1) 学士の学位を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したものの
- (2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
- (3) 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者

2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法(昭和22年法律第26号)第56条の規定により大学に入学することができる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
- (2) 名称
- (3) 所在地

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めるときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めるときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。

(4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があったとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があったときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があったことを知ったときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至ったものと認めるとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消ししなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県教育会の規則で定める。

第17条 削除

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 削除

(入館料)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情がある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する軽費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があったとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雑則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあつては文部大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、交付の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令(昭和18年勅令第36号)、旧高等学校令又は旧青年学校令(昭和14年勅令第254号)の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令

昭和27. 3. 20 政令第47号

〔最近改正〕昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、交付の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例(抄) 昭和47. 5. 15 条例第24号

〔最終改正〕平成6年12月27日 条例第42号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

- 2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(抄) 昭和47. 5. 15 教育委員会規則第2号

〔最終改正〕平成10年3月31日教育委員会規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 予算、決算その他会計事務に関する事。
- (2) 公印の管守に関する事。
- (3) 施設設備の管理に関する事。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5) 博物館協議会に関する事。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関する事。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関する事。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関する事。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関する事。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関する事。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関する事。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関する事。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関する事。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則

昭和47. 5.15

教育委員会規則第13号

〔最終改正〕 平成12年3月30日 教育委員会規則第16号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損修し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程(昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号)の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)の規定する日(こどもの日及び文化の日を除く。)

(3) 慰霊の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもつて、これを替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書(第1号様式)又は寄託申請書(第2号様式)を提出しなければならない。

2 委託を決定したものについては、受託承認書(第3号様式)を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館料の免除)

第16条の2 沖縄県立教育機関使用徴収条例(昭和47年沖縄県条例第37号)第4条の規定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合

(2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合

(3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書(第4号様式)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者
- (2) 伝染病患者及びめいいてい者と認められる者
- (3) その他館長が適当でないと認められる者

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下、同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第5号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合には博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適切であると認められるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(現状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び附属設備を現状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めるときは、館長は、これを減額し、又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10月までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成元年3月31日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則（平成4年8月28日教育委員会規則第7号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成5年2月16日教育委員会規則第1号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成7年5月2日教育委員会規則第9号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成12年3月30日教育委員会規則第17号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

第1号様式 (第11条関係)

博物館資料寄贈申込書

平成 年 月 日

沖繩県立博物館長 殿

申込者 住所 氏名 ㊟

私所有の下記の資料を沖繩県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

1	種別
2	作者名
3	作品名
4	製作年月日
5	附属品
6	資料の所在地
7	時価見積額
8	寄贈の理由

受諾書

上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖繩県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖繩県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。

平成 年 月 日

沖繩県立博物館長 ㊟

第2号様式 (第11条関係)

博物館資料寄託申請書

平成 年 月 日

沖繩県立博物館長 殿

申請者 住所 氏名 ㊟

私所有の下記の資料を沖繩県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申込みます。

記

1	種別
2	作者名
3	作品名
4	製作年月日
5	附属品
6	資料の所在地
7	寄託期間

平成 年 月 日から
平成 年 月 日まで

第3号様式 (第11条関係)

博物館資料受託承認書

平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

印

平成 年 月 日付け申請のあった博物館資料の寄託については、下記により受託します。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 受託期間 平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで
- 7 備考

第4号様式 (第16条の2関係)

入館料免除申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者住所

氏名 印

電話

下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則(昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号)第16条の2第2項の規定に基づき申請します。

記

- 1 入館者団体名
- 引率者名 人
- 2 入館者数
- 3 入館日時 年 月 日 (曜日) 時 ~ 時
- 4 申請理由

承認証
殿

年 月 日付け申請の博物館の入館料免除の件、申請
どおり承認します。

年 月 日

沖縄県立博物館長

印

博物館施設使用許可申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者氏名

電 話

下記により貴館施設を使用したいので、許可して下さるようお願いします。

記

1 使用者

団体名及び

代表者名

住 所

職業（ ）

電話

2 使用目的

3 使用する施設：1 ホール 2 臨時陳列室

4 使用する日時及び期間

自：平成 年 月 日 午 時 分 } () 日間
至：平成 年 月 日 午 時 分 }

5 予定参加人員 人

6 その他必要な資料（プログラム等）

許 可 書

月 日付申請の（ ）使用の件、申請どおり許可します。

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長

印

○沖縄県立博物館協議会規則 昭和47. 10. 2 教育委員会規則第29号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に關し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に關して必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例

昭和47. 5. 15 条例第37号

[最終改正] 平成9年7月16日条例第23号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対し

ては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成9年7月16日条例第23号)

この条例は、平成9年8月1日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料) (第2条関係)

使用 者	入 館 料
一 般	210円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体 (20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報 No.33

2000年7月10日

編集・発行：沖縄県立博物館

住 所：〒903-0823 那覇市首里大中町1-1

TEL 098-884-2243

FAX 098-886-4353

印 刷：精印堂印刷

住 所：〒902-0072 那覇市字真地399-3

TEL 098-832-1311

2000年度 沖縄県立博物館年間行事一覧

○特別展

- 大琉球展……………2000年7月11日③～8月27日①
 日系移民1世紀展 From Bento to Mixed Plate ……2000年11月10日⑥～12月10日①

○企画展

- 新収蔵品展……………2000年9月12日③～10月22日①
 沖縄の繊維・染料植物展……………2001年2月6日③～3月4日①

- 第25回移動博物館—伊江村—……………2000年11月24日⑥～11月26日①

○博物館文化講座

- 第300回 アジアの民俗と沖縄……………2000年5月14日①
 講師 比嘉 政夫 (国立歴史民俗博物館教授)
 第301回 沖縄戦のまなび方……………6月11日①
 講師 大城 将保 (平和ネットワーク代表)
 第302回 グスク・英雄・墓めぐり—本島中部地域を—……………7月22日⑦
 講師 嵩元 政秀 (沖縄考古学会会長)
 第303回 歴史散歩みち—東御廻り (アガリウマイ) ……8月19日⑦
 講師 大城 秀子 (知念村教育委員会社会教育課主査)
 第304回 収蔵品解説会—陶器—……………9月16日⑦
 講師 津波古 聰 (沖縄県立博物館学芸員)
 第305回 尚家文書がかたる世界……………10月21日⑦
 講師 田名 真之 (那覇市経済文化部歴史資料室室長)
 第306回 沖縄の移民……………11月18日⑦
 講師 石川 友紀 (琉球大学教授)
 第307回 沖縄人 (ウチナンチュ) の来た道 ……12月9日⑦
 講師 土肥 直美 (琉球大学助教授)
 第308回 資源植物としての繊維・染料植物……………2001年1月20日⑦
 講師 花城 良廣 (海洋博記念公園亜熱帯都市緑化植物園園長)
 第309回 染織からみる染料植物……………2月17日⑦
 講師 新垣 幸子 (沖縄県指定無形文化財「八重山上布」保持者)
 第310回 北部の野鳥観察会……………3月10日⑦
 講師 嵩原 建二 (沖縄県立博物館学芸員)

○子ども体験学習教室 (定員あり)

- ①豆とサトウキビづくり……4月22日⑦/5月27日⑦/7月8・29日⑦/10月21日⑦/2月10日⑦
 講師 仲底 善章 (沖縄県立博物館学芸員)
 ②鍾乳洞を探検しよう……………6月10日⑦/6月24日⑦/8月20日⑦
 講師 山内平三郎 (南都計画株式会社常務取締役)
 ③漆喰シーサーづくり……………7月22日⑦・23日①/8月5日⑦・6①
 講師 伊波 悦子 (沖縄県立博物館学芸員)
 ④紅型をつくろう……………11月11日⑦・25⑦/12月9日⑦
 講師 屋富祖幸子 (琉球びんがた伝統工芸士)

○博物館シアター

- ①映像でみる沖縄Ⅱ
 遙かなる甲子園……………7月30日①
 うみ・そら・さんごのいっただえ……………8月6日①
 ②なつかしの名作
 ひまわり……………12月10日①